「大学院設置の趣旨及び必要性を記載した書類」目次

Ⅰ　大学院設置の趣旨及び必要性
1　設置の趣旨－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　1
2　設置の必要性－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　1
3　教育・研究理念－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　5
4　地域貢献等－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　5

Ⅱ　大学院の構成及び名称
1　大学院の構成－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　6
2　大学院の名称－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　6
3　課程制大学院制度の趣旨との整合－－－－－－－－－－－－－－－－－－　6

Ⅲ　複合芸術研究科
1　教育目的－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　6
2　研究科、専攻及び学位の名称－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　7
3　育成する人材像－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　8
4　教育課程の編成の考え方及び特色－－－－－－－－－－－－－－－－－－　9
5　教員組織の編成の考え方及び特色－－－－－－－－－－－－－－－－－－　15
6　教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件－－－－－－－－－－　16
7　既存の美術学部との関係－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　24

Ⅳ　施設・設備等の整備計画
1　キャンパス－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　25
2　施設・設備の整備計画－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　25
3　図書等の資料及び図書館の整備計画－－－－－－－－－－－－－－－－－　26

Ⅴ　入学者選抜の概要
1　基本方針－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　26
2　アドミッションポリシー－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　26
3　出願資格－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　27
4　選抜区分－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　27
5　募集人員－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　27
6　選抜方法－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　27
7　選抜体制－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　27

Ⅵ　学外実習を実施する場合の具体的計画
1　実習先の確保の状況－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 28
2　実習先との連携体制－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 28
3　成績評価体制及び単位認定手法－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 29

Ⅶ　管理運営
1　管理運営体制の概要－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 29
2　学内委員会－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 29

Ⅷ　自己点検・評価
1　基本方針－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 30
2　実施体制・実施方法－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 30
3　結果の活用及び公表－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 30

Ⅸ　情報の提供
1　実施方法－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 30
2　情報提供項目－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 31
3　大学院に関する情報公開－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 31

Ⅹ　教員の資質の維持向上の方策
1　基本方針－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 31
2　具体的取組－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 32
3　大学院におけるＦＤの実施－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ 32

「大学院設置の趣旨及び必要性を記載した書類」

Ⅰ　大学院設置の趣旨及び必要性

1　設置の趣旨

(1) 経緯

秋田公立美術大学（以下「本学」という。）は、「新しい芸術領域の創造」、「地域の文化資源に根ざした芸術表現の発信」、「グローバルでの活躍や地域の活性化に貢献できる人材の育成」を教育・研究の理念とし、平成 25 年４月に開学した。本学は、芸術領域の再構成を先導する大学として「多様な組み合わせで自分の特徴をいかした唯一の人材を目指す」ことを可能とするカリキュラムを有する美術学部美術学科のみの構成で、理念に沿った人材の教育を行なってきた。平成 29 年３月には、開学初年度の入学生が卒業を迎える予定であり、本学の理念をより確実に具現化するため、さらなる教育・研究環境の充実と高度な専門性を備えた人材の育成が必要となっている。

(2) 設置の趣旨

地方自治体は、少子高齢化に伴う人口減少や産業の停滞といった課題への対応を求められており、本学の設立団体である秋田市も、地域の特徴を生かして持続的な社会を創生する、いわゆる地方創生に向けた取り組みを進めようとしている。(資料１：秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン)

また、芸術領域においては、既存の概念にとらわれない表現活動として現代芸術の実践が活発に行われているが、現在進行している複雑な状況に対応した学術的検証の枠組みは整理されていない状況である。

こうしたことを踏まえて、本学では、現代芸術の実践が、作家個人に蓄積される表現技術や知識、視野などの内的要素の複合と、外部と関わる表現に求められる連携・協働・誘導といった外的要素の複合が、その時々に応じたバランスで一つに合わさることで具体化していることに着目し、現代芸術を「複合」の視点から学術的に研究し、現代芸術領域における高度な芸術表現を通じて地域に貢献する人材の育成と教育・研究機能の充実を図ることを目的として、大学院修士課程を設置する。

2　設置の必要性

近年、地域における課題は複雑化多様化しており、それぞれの成り立ちや背景を踏まえた解決策の提案力と高い実践力を併せ持つ人材が求められている。また、現代芸術においては、生活に直接関わる問題をテーマとした芸術表現も現れており、その潮流は刻々と変化している。これら地域課題の多様化や現代芸術の変化を踏まえると、芸術領域における幅広い知識と表現技術の修得や、自らの表現手法の確立に重点を置く学部教育のみでは、社会変化を鋭敏に捉えた表現の成果を

直ちに地域の財産として市民と共有することは困難であり、よりグローバルな視野に立ち、多様な条件に対応しうる表現手法の創出と研究を可能とする機能が求められている。また、公立大学の責務として、自らの存在意義を確立しながら地域への貢献力を高めていくことが求められており、その効果を具体的な成果として市民・地域に還元していくためにも、大学院の設置が必要となっている。

(1) グローバルな視野を持ち現代芸術を牽引する人材の必要性

現代はグローバル社会であり、芸術表現は国境のない共通言語である。現代芸術の主要市場は、欧米から、中国、東南アジアへと拡がりを見せており、本学の理念である新しい芸術領域の創造には、グローバルな視野を持ち、より高い表現レベルの中で切磋琢磨することが必要となっている。そのため、大学院での現代芸術に関する深い研究成果と、国内外における地域文化を踏まえた芸術表現を通じて、異文化との交流による多様なルーツとの出会いや柔軟な思考に基づく価値の共有を行いながら現代芸術を牽引できる人材を輩出していくことが求められている。

(2) 芸術表現の探求を通じて社会へ変化をもたらす人材の必要性

芸術表現は、鑑賞者を意識した作品制作を主目的としてきた従来の姿から、地域課題や産業分野などの実社会と深く関わることにより、社会の変化を意識した表現手法へ対象を拡大してきており、そうした実社会からの要請に応えながら、成果をあげられる人材が必要となっている。そのためにも、本学で学んだ幅広い知識や表現手法を基盤に、大学院において、社会動向や地域特有の事情を捉え、独自の切り口から最適な表現を提案し、ステークホルダー（関係者）とともに具体化し実行する、いわゆるマネジメント能力を身につけた人材を育成することが求められている。

また、地域創生の観点から、産業基盤が弱く雇用の受け皿が限られている地方においては、地域特性や市場を踏まえて自ら社会をデザインし、ＮＰＯの立ち上げや起業等につなげられる人材が求められている。そのため、大学院において、アートで社会をデザインする、いわゆるソーシャルデザインの観点から、芸術表現をテクノロジーなどの多様な技術分野と複合させながら、実社会でのプロジェクトにおける市場分析や資金調達の担い手と連携した新たな事業創出手法などの修得を通じて、実際の社会的起業等につなげられる人材を育成することが必要となっている。

(3) 現代芸術の学術的研究の必要性

本学は、「日本画」「油絵」「彫刻」「工芸」「デザイン」「建築」等の区分が固定されてきた近代日本の芸術教育を、現代に見合った価値観に再構築し、その融合によって新たな価値を生み出すことを理念の一つに掲げている。その対象分野である現代芸術は、既存の枠組みにとらわれない表現活動という性質から、その活動成果の検証や学術的な研究は、今後の現代芸術の発展の礎を築くため

にも非常に重要なものとなっている。

現代芸術には、アーティスト集団が荒廃した空き家群をギャラリーや若い母子世帯の一時的住居等を含む一画に変えた「プロジェクト・ロウ・ハウス」に代表されるソーシャリー・エンゲージド・アートのように、地域社会に密着した問題を対象とする表現活動もあり、多様な芸術表現を通じた地域への貢献を理念とする本学は、世界各地で行われている同種の活動や自ら実施した地域における活動に関する研究成果を、本学の地域貢献活動の接点である社会貢献センターに蓄積するとともに、その体制を充実・強化していくことで、将来的には地域における芸術活動の拠点となりながら、国内外への有意な提言を行う現代芸術のシンクタンクを目指すものである。

(4) 課題先進地における「つなぐ」ことの必要性

地方共通の課題として、少子高齢化、人口減少への対応が急務となっている。これらの課題に対応するには、「人」と「地域」、「産業」と「社会」などの間を上手く「つなぐ」ことが重要であり、求められるのは、高度なコミュニケーション能力と、課題発見から企画立案、調整、具体化までを担える実践力を併せ持つ人材である。本学では、全国でも有数の課題先進地である秋田において、地域を対象としたアート・プロジェクト等をマネジメントしながら「人」と「地域」を「つなぐ」、或いは経済循環を意識しながらデザイン思考で「産業」と「社会」を「つなぐ」といったアプローチを継続していくことで、現代社会に求められる高度人材の育成と課題対応手法の蓄積、各種事業の具体化などを通じて、自治体や企業・団体と連携しながら、地方の創生を後押しするものである。

これらのことから、本学では、現代芸術が、個人の中に蓄積される表現技術や知識、視野などの内的要素の複合と、テーマを取り巻く背景や人、制約等の状況を捉えた連携・協働・誘導から生まれる外的要素の複合が、一つにバランスされた結果として具体化し、現代芸術領域を拡張させていることを踏まえて、現代芸術を「複合」という視点から学術的に研究する大学院修士課程を設置し、高度な教育・研究環境を構築するとともに、実践的能力を備え即戦力となる高度人材の輩出と蓄積した研究成果の発信を通じて、現代芸術領域および地域への貢献を果たしていこうとするものである。

また本学は、国内でも前述の地域課題が顕著に表れている秋田に位置する美術大学として、個人の資質向上につながる内的要素の複合と、多様なテーマに柔軟に対応するための外的要素の複合をバランスさせながら、地域課題に積極的にアプローチする人材を輩出することは責務であると考えている。そのため、本学の教育課程においては、個々の表現領域の拡張に向けて、文化の多様性や混交性を背景とした複合的な芸術思想や表現形態など、芸術史における複合の事例を紐解きながら、アートイベントやソーシャリー・エンゲージド・アートな

どで具体化している複合的な表現等に関する知識や理論の学修と、テクノロジーなど情報技術等を組み入れた表現手法の修得などによる内的要素の研鑽を行うほか、外的要素への有効な対応手段であるアートマネジメントやソーシャルデザインといった実践的手法を用いながら、取り巻く状況等へ対応力を養うことで、芸術領域のみならず広く社会で主体的に活躍できる高度人材を育成していくものである。

複合の視点から現代芸術を捉えるための具体的な事例として、平成27年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」で行った「空き家を活用したアート・イン・レジデンス事業」がある。これは、空き家に作家が滞在し、地域住民や学生と交流していくなかで、地域課題をテーマとした映像作品を製作したものだが、その過程では、作家と地域住民の交流という外的要素の複合が、作家に「湧き水の利用や地域の踊りが失われている」という気づきをもたらし、映像という作家の内的要素である表現技術との複合を経て、作品が具体化されている。その成果として、地域課題である空き家の活用事例が見出されたほか、空き家では作家がいなくなった後も、地域住民と学生の交流が続いている。

もう一つの事例として、秋田県上小阿仁村八木沢集落で行われたアートイベント「KAMIKOANIプロジェクト秋田」では、アーティストが風土を活かした作品を製作・展示したほか、舞踏家がリサーチを経て民族芸能である番楽サミットを開催するなど、作家、地域、風土、舞踏、伝統芸能など多様な要素が領域を超えて複合したことで、人口減少が進んだ限界集落に約１万人が訪れ、地域の魅力の発信や交流人口の拡大を実現させただけではなく、村民自身がプロジェクト運営を担おうとする意識の変化をもたらしている。この場合においても、作家や舞踏家が上小阿仁村の風土や伝統芸能を捉えた表現を模索する中で、表現者の内的要素の複合と、地域住民と交流、協働していく外的要素の複合が、領域を横断しながらバランスされた結果として、来村者の増加や伝統芸能の魅力発信、村民意識の変化などの成果を生み出している。

これら社会とのつながりを意識した現代芸術は、従来とは異なる成果として新たな社会的価値を多様な領域にもたらす可能性を秘めており、最近では自然環境やバイオといった芸術とは遠い領域であった分野にまで複合の対象を拡げてきている。

こうした内的要素と外的要素の複合過程で行われる様々な試みは、現代芸術の学術的研究に不可欠なものであり、本学では、その試みに有効なフィールドを「地域性と文化的視点の複合」、「複合的なパートナーとのコラボレーション」、「研究領域の複合」、「スキル／方法論の複合」、「表現を通した未来像の複合」の５つと想定し、各フィールドでの学びや経験を踏まえて、幅広い分野で活躍できる人材を輩出しながら、現代芸術領域及び地域社会に有益な研究成果を発信していくものである。（資料２：「複合芸術研究」解説図）

3　教育・研究理念

本学大学院は、学部における教育成果を基盤に、多様化する現代芸術領域と複雑化する地域課題に対応しながら、一人ひとりの個性を尊重した専門性のさらなる深化を追求し、新たな芸術表現の創出やより本質を捉えた地域貢献を図るため、次の基本理念を教育・研究理念に掲げ、高度な実践力を有する人材と高度な専門性を有する研究・教育者の育成を行う。

(1) 個人の特性と自由な選択を尊重し、地域を選ばず自らの切り口で芸術表現を探求し続けるアーティストを育成する。

多様化する現代芸術領域を深く理解し、地域を選ばずグローバルな視点で、自らの個性を異なる分野と複合させながら芸術表現を実践し、新たな芸術領域への到達を探求し続けるアーティストを育成する。

(2) 実社会との関わりや幅広い知識・実践力を身につけた地域貢献の中核を担うアートマネジャー等を育成する。

地域課題の要因や背景を注意深く紐解き、芸術表現として最適な方法を提案・実行することで、地域貢献を具体的な成果として生み出すことができる、創造力と実践力を兼ね備えたアートマネジャーを育成する。

また、ソーシャルデザインの視点から地域社会を捉え、既存のサービスや事業、製品に芸術的観点から社会的価値を生み出す可能性を見出し、地域金融機関やクラウドファウンディング等と連携しながら、社会的起業を念頭にした企画立案や事業創出等を行える芸術系社会デザイナーを育成する。

(3) 現代芸術領域の研究成果を地域に還元し、世界に発信する研究者を育成する。

現代芸術における新領域の創造を掲げる公立大学として、芸術活動の成果を検証し、社会的価値を生み出す活動を研究・蓄積することで、多様化する現代芸術の学術的研究を可能とするシンクタンクとして、現代アーティストや現代芸術界に有意な提言を行うと同時に、地域課題への効果的な芸術表現活動のあり方を還元し、その成果を広く発信する。

4　地域貢献等

本学は、「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む」という基本理念のもと、教員及び学生の専門性を地域社会に広く還元することを目的に社会貢献センターを設置しており、同センターによる社会貢献活動を行なっている。大学院では、社会貢献センターが蓄積する事例を踏まえて各自治体や企業・団体と連携した実習を配置することとし、社会貢献センターにおいても、大学院での高度な研究や人材を生かし、対象となる分野の課題を的確に捉えたより効果の高い地域貢献に取組むこととする。また、国内外アーティストの長期滞在制作等による創作交流を通じた芸術文化発信の拠点となることを目指す。

（資料３：社会貢献センター活動実績）

Ⅱ　大学院の構成及び名称

１　大学院の構成

本大学院は、本学が設置している美術学部美術学科及び他大学において自らの表現手法を修めた学生が、他の芸術領域、或いは芸術とは異なる情報技術などの他領域と表現手法を複合させながら、社会に変化をもたらす試みを行う「芸術の複合的な研究」にステップアップすることを踏まえて、複合芸術研究科を設置し、１研究科１専攻で組織する。

複合芸術研究科は、「複合芸術研究科複合芸術専攻」で構成され、現代芸術領域における高度実践型アーティスト及び研究者の育成を目指し、標準修業年限２年の修士課程を設置し、修士課程の卒業年に合わせて同年限３年の博士後期課程を設置する。

美術学部における「アーツ＆ルーツ専攻」「ビジュアルアーツ専攻」「景観デザイン専攻」「コミュニケーションデザイン専攻」「ものづくりデザイン専攻」「美術教育センター」の５専攻、１センターが対象とする研究領域を、「アート分野」「デザイン分野」「芸術学分野」の３領域に発展的にまとめた上で、「表現複合」「アートマネジメント」「ソーシャルデザイン」といった実践力を養うために必要な試みやスキルを含むカリキュラムを配置している。

（資料４：美術学部と大学院研究科の関連図）

２　大学院の名称

本学大学院の名称は、秋田公立美術大学大学院とし、英訳名称は「Graduate School of Akita University of Art」とする。

３　課程制大学院制度の趣旨との整合

修士課程においては、平成 17 年９月の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」で求められている「高度専門職業人の養成を行う課程」を設置することによって、地域社会に芸術表現で貢献できる人材を育成する。

Ⅲ　複合芸術研究科

１　教育目的

本学は、「広く知識を授け、深く専門の芸術を教授研究することによって、豊かな創造性とグローバルな視野を持った人材を育成するとともに、芸術領域の発展と地域社会に貢献する。」（秋田公立美術大学学則第１条）ことを教育・研究の目的としている。（資料５：秋田公立美術大学学則（一部抜粋））

現代芸術は、多様化しながら社会現象と深く関係し対象とする分野を拡大している。一方、本学が設置されている秋田市をはじめ、地方自治体は少子高齢化に伴う本格的な人口減少社会にあって、若年層の流出や産業の停滞、空き家の増加

をはじめとする複雑な課題に直面している。

複合芸術研究科は、こうした背景を踏まえて、自らの芸術表現の複合と現代芸術領域と地域における課題を対象とした芸術表現の複合的な試みに関する教育・研究を行うことで、高度かつ多様な芸術表現能力を有する人材の育成を通じ、蓄積された研究成果を現代芸術領域に発信していくとともに、アートマネジメントの手法を用いた課題解決、テクノロジー等の情報技術など芸術表現と異なる分野との複合から得られる新たな表現技術やソーシャルデザインによる雇用の創出・まちづくり、といった幅広い地域貢献を継続していくことを目的とし、自らの表現能力を探求し続けながら、現代芸術における新領域の創造と、地域を深く捉えた課題の発見から課題解決手法の提案・実践を通じて社会に貢献するアーティスト、デザイナー及び研究者を育成する。

このため、本研究科では大学院の設置の趣旨及び必要性のもとに以下の能力を修得することを基本とする。

① 国内外の地域や文化的背景を捉えながら、自らの表現手法を探求する「表現探求能力」の修得

② 社会動向や地域特有の事情を捉え、アートの観点から対象に応じた提案を具体化し、実行する「アートマネジメント能力」の修得

③ 地域社会をデザイン思考で捉え、市場分析や資金調達を行う関係者と連携しながら、芸術をもとにした社会的価値のある事業を自ら創出し、起業等につなげる「社会デザイン能力」の修得

④ 現代芸術の活動成果を調査・検証し、学術的視点からの研究を通じて、成果を蓄積し世界へ発信する「調査・研究能力」の修得

⑤ 国内外のアーティストと現地の歴史を踏まえて多様な世界観の交換を行いながら、グローバルな舞台で自らの芸術表現を実践していくための「コミュニケーション能力」の修得

2 研究科、専攻及び学位の名称

研究科の趣旨に鑑み、研究科、専攻科の名称は、国際的な通用性があり、教育、研究上の目的にふさわしい「複合芸術研究科　複合芸術専攻」とし、修了生に付与する学位は、「修士（美術)」とする。

また、研究科の英訳名称は「Graduate School of Transdisciplinary arts」、専攻の英訳名称は「Course of Transdisciplinary arts」、学位の英訳名称は「Master of Art」とする。

（資料６：国内における「複合芸術」の活用事例）

（資料７：大学のコースでの「Transdisciplinary」の使用例）

3　育成する人材像

(1) 人材育成の考え方

現代芸術領域では、既存の枠を超えるための多様な活動が行われている。こうした時代に生き残るのは、個人の資質である内的要素の研鑽によって他とは異なる突出した表現手法を獲得し、状況や制約といった外的要素を踏まえて芸術的、社会的に意義のある提案を生み出せるアーティスト及びデザイナーである。

また、地域における課題もそれぞれの背景や要因の異なりによって複雑化しており、その解決は従来型の「先例の転用」では叶わなくなっている。

現代に求められている人材は、対象事案の背景や事情を踏まえて、分野横断的な柔軟思考と社会・人を結びつける最適な伝達・表現手法で、新しい価値を提案しながら、具体化し実践できる者である。

特に、秋田県をはじめとする東北地方においては、少子高齢化や若年層の流出、産業の停滞といった課題が顕著であり、とりわけ、これら課題の統計指標が全国でも下位に位置する秋田においては、従来とは異なる視点や手法で「成長」から「成熟」へ価値転換を図り、人々に持続可能な社会への道筋を示せる人材の育成が急務となっている。そのため、地域貢献を理念の一つに掲げる美術大学として、自らの資質である内的要素の複合と、取り巻く外的要素との複合をバランスさせながら、新たな社会的価値の創造を試み、地域課題へ多様なアプローチができる人材の輩出は責務であると考えている。

(2) 育成する人材像

本研究科では、本学の理念である新たな芸術領域の創造と地域への貢献をより確実なものとすることを念頭に、「表現探求能力」、「アートマネジメント能力」、「社会デザイン能力」、「調査・研究能力」、「コミュニケーション能力」を兼ね備え、内的要素と外的要素の複合をバランスさせながら、幅広い地域・分野における自立した芸術表現活動を通じて、その成果を社会へ発信・提供していく高度専門職業人たるアーティスト及びデザイナー、研究者となる人材を育成する。

育成する人材像として次の３つを掲げる。

① 現代社会の動向や地域の実情と、情報通信技術や電子工学などの異なる分野に関する知識及び表現手法の蓄積とを複合させた表現活動により、積極的に既存の枠を超えた新しい芸術表現を実践していく人材。

② 多様な芸術表現に関する知識と地域特性を捉える視点に基づく具体的な提案を行い、地域におけるアート活動や社会的起業等に結びつけるなど、マネジメントやデザインを通じた課題の解決や産業活性化など、幅広く地域に貢献していく人材。

③ 現代芸術領域の学術的な研究や自らの複合を意識した芸術活動による知

見を通じて、未知の芸術領域の開拓や地域課題への貢献に有意な提言を発信しながら、現代芸術のシンクタンクを形成しグローバルな貢献をする人材。

4　教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本方針

本研究科の設置の趣旨及び教育目的を達成するために必要な授業科目及び研究指導を体系的・組織的に展開する教育課程を編成する

（資料８：大学院カリキュラム概念図）

教育課程の編成にあたっては、現代芸術領域に関する高度な専門的知識と表現手法を修得させるとともに、実社会で自立した表現活動を行っていく実践力を養いながら、併せて個々の研究成果を広く発信できる力を身につけさせることを基本方針とする。

学部では美術学科にある「アーツ＆ルーツ」、「ものづくりデザイン」、「景観デザイン」、「ビジュアルアーツ」及び「コミュニケーションデザイン」の５専攻をすべて学んだうえで、最終的に１専攻を選択する教育課程としている。これを踏まえて、本研究科は１専攻とし、学部のアーツ＆ルーツ及びビジュアルアーツから連なる「アート分野」、ものづくりデザイン及びコミュニケーションデザイン、景観デザインから連なる「デザイン分野」の２領域に芸術学分野を加えた計３領域を配置し、学部及び他大学での学びを基盤として、「表現の複合」「アートマネジメント」「ソーシャルデザイン」などを含む、より高度で実践的なカリキュラムを履修しながら、既存の領域を超えた学際的な学びや経験を通じて自らテーマを定め、理論と実践に基づく複合的な研究を行うことを主眼として教育課程を編成する。

(2) カリキュラムポリシー

本研究科の教育目的達成に向けた基本的な教育課程編成等の考え方を、以下にカリキュラムポリシーとして示す。

① 自らの表現手法を他の芸術領域もしくは芸術とは異なる領域と複合させる経験を通じて、主体的に新しい芸術を探求していく力を養う。

② 社会の動向や地域の特性を捉え、他者と連携しながら、美術・デザインの方法論によって具体的な提案を行える実践力を養う。

③ 現代芸術領域に関する複合的な研究を通して、新たな領域の拡張に関する理論構築を試みながら、その成果を広く発信していく力を養う。

このカリキュラムポリシーを基に、各科目を体系的に配置し、教育課程の編成を行うものである。

・「導入科目」では、大学院の研究や制作の基本的なプロセスを概観する

・「複合芸術科目」では、芸術の複合的な研究に必要となる理論を学ぶ

・「複合芸術演習科目」では、領域横断的な芸術表現の複合に関する手法を身につける
・「複合芸術実習科目」では、「複合芸術科目」及び「複合芸術演習」の学びを踏まえて、自らの研究テーマを意識した実習を行う
・「制作技術実習科目」では、「複合芸術演習」及び「複合芸術実習」と並行し、個々の表現技術のさらなる高度化を目指す
・「特別研究科目」では、上記の各科目における学びの集大成として、自ら研究テーマを設定し、複合的な芸術の研究を深める

(3) 科目区分及び授業科目の特色

① 構成・単位数

本大学院においては、「導入科目」「複合芸術科目」「複合芸術演習科目」「複合芸術実習科目」「制作技術実習科目」「特別研究科目」の６つの科目を配置する。

修得単位数は、「導入科目」２単位、「複合芸術科目」６単位、「複合芸術演習科目」８単位、「複合芸術実習科目」６単位、「制作技術実習科目」２単位、「特別研究科目」６単位とする。

（構成図）

科目区分	履修区分	科目数	単位数	修了要件
導入科目	必修	1	2	2単位
複合芸術科目	必修／選択必修	4	8	6単位
複合芸術演習科目	必修	1	8	8単位
複合芸術実習科目	必修	3	6	6単位
制作技術実習科目	選択必修	10	10	2単位
特別研究	必修	2	6	6単位
合計		21	40	30単位以上

② 科目配置の特色

学生が現代芸術領域における複合的かつ高度な知識や技術を学ぶことができるよう、体系的に科目を配置するとともに、組織的に教育・研究を展開する。

ア 導入科目

導入科目は、短期間で本大学院の教育研究方針と研究領域の方向性を理解し、今後の研究・制作の基本的なプロセスを把握するための科目として、必修科目である「スタートアップ」を配置した。

ここでは、設定した課題に対する共同作業を通じて必要なスキルの確認を行うほか、メンバーの相互理解とチームで研究作業を行う姿勢を身

に付けることを狙いとしている。

イ　複合芸術科目

複合芸術科目は、現代芸術領域における芸術表現活動を現代社会や地域の中で実践していくため、必要となる専門的な知識を学ぶ科目である。

今後展開させていく複合芸術の理論構築に向けて、「複合芸術」が機能する多様なステージでの役割や諸条件を学ぶ必修科目として「複合芸術論」を配置したほか、より応用的な知識を身に付けるために、それぞれ、主にアートマネジメントを学ぶ「複合芸術応用論Ａ」、ソーシャルデザインを学ぶ「複合芸術応用論Ｂ」、複合芸術の表現可能性等を学ぶ「複合芸術応用論Ｃ」を配置し、２科目を選択し履修する。

ウ　複合芸術演習科目

複合芸術演習科目は、学生個々の専門性のもと、領域を横断した複合的かつ高度な芸術表現と、その表現を持続させていくために必要な広い視野を獲得するための必修科目として、１～２週単位の集中的な演習群によって構成される「複合芸術演習」を配置した。

「複合芸術演習」は、「調査研究」「表現技術手法」「成果発信」「企画具体化」の４つに分類される項目群で構成し、その内容は社会動向や技術革新を踏まえて随時見直していくこととしている。現在想定している分類毎の項目は次のとおりである。

ｉ）「調査研究」項目群

対象とする課題・テーマにアプローチする姿勢と手法を修得する。

項目名	内容
地域プロジェクト批評	地域プロジェクトの分析・批評・検証を通じて、取組と効果の相関を見極める力を養う
地域研究	アート的手法、建築的手法など様々な研究手法があることを踏まえて、地域を対象にフィールドワークを行い、成果をプレゼンテーションする

ⅱ）「表現技術手法」項目群

自らの表現手法を異なる分野と複合させる経験によって、表現探求における思考と手法の領域を拡張する。

項目名	内容
プロトタイプメソッド（３Ｄプリンタ）	３ＤＣＧなどのデジタルデータで制作したイメージをデジタル工作機械である３Ｄプリンタを通じて実際に成形する技法を経験する

メディア表現・電子工作	Arduino(アルドゥイーノ)に代表される先端テクノロジーを基にソフトとハードをつなぐ技法等を通じた新たな表現手法の探求を行い、双方向性を持つ作品制作を可能とする

ⅲ)「成果発信」項目群

研究成果の発信やプロジェクト実施の際の関係者への説明等を効果的に行う手法を修得する。

項目名	内容
インフォグラフィクス	情報やデータをデザインによって視覚的に表現する手法を身に付ける
メディア・リテラシー	多様な映像制作の過程を通じて、作品制作や表現発信にメディアを使いこなす能力を身につける
言語表現・アートライティング	自らの考えを正しく社会に伝える際に必要となる理論構築やテキスト表現の手法を養う

ⅳ)「企画具体化」項目群

自らの表現手法を社会と具体的に結びつけるために必要な能力を修得する。

項目名	内容
プロトタイピングメソッド（モデル制作）	様々な発想を３Ｄプリンタ等の先端技術を活用して実体化することで、領域横断的な思考や商品開発など多様な展開につなげる手法を修得する
総合デザイン	物事に対する価値基準や機能研究をベースにデザインの意味を多角的に知ることでソーシャルデザインの多様性を理解する
ワークショップ開発	ワークショップの考案や実践に関する技法を修得し、多様な考えを持つ関係者とともに創造的な学びと合意形成を図る力を身に付ける

以上の多様な学びを通じて、個々の学生が自らの視野と表現手法の幅を拡げながら社会とのつながりを意識した活動を続ける能力を養うことを狙いとするものであり、本研究科の複合的な芸術表現に関する研究の

柱となるものである。

なお、この演習では、一部の項目において多様な志向を持つ学生が３人～４人のチームを編成し、共同で課題に当たる項目を設定することによって、自らの表現技術の新たな展開と実社会への適用可能性を見出しながら、価値ある表現活動・研究の前提となる相互理解力と高度な実践力を身に付けることも目的とする。

（資料９：複合芸術演習概念図）

エ　複合芸術実習科目

複合芸術実習科目は、複合芸術演習で学んだ多様な技法や制作技術実習で高めた自らの表現技術の可能性を実際に地域社会の中で実践することを目的に、必修科目として「複合芸術実習Ⅰ」、「複合芸術実習Ⅱ」、「複合芸術実習Ⅲ」を配置した。

本実習科目の実施にあたっては、「複合芸術演習」と同様に、多様な志向を持つ学生が３人～４人のチームを組んで行うことを前提とする。

また、実習科目で行うプロジェクトの設定については、本学の意向を踏まえたプロジェクト内容となるよう、連携先である公的機関や団体等と、当該プロジェクトが行われる年度の予算編成を行う前に協議を行うこととする。（資料 10：大学院実習連携承諾書）

なお、実習の評価については、プロジェクトを通じた個々の活動成果はもとより、チームとしての地域貢献度等も踏まえて行うことを想定している。

「複合芸術実習Ⅰ」は、公的機関や企業、市民を対象とする出張型プロジェクトとして、グループワークによる作品制作やワークショップ、イベント等を行う中で、事前調査、企画立案、運営、作品制作、成果批評やアーカイブなどを各学生が分担し、チーム内における役割の機能と自らの専門性の適用、文化事業のシステム運営の実際を学びながら、その成果を検証することでより高度な実践力を身に付けることを目指す。

「複合芸術実習Ⅱ」は、デザイン思考によって身近な社会問題等の解決を試みるソーシャルデザイン型プロジェクトとして、課題の全体把握、企画立案、体制構築、工程検討、モデル制作などの一連の流れを、各学生がチームで行うことによって、自らの専門性を地域における商品開発や社会的起業などに適用する手法を実体験の中で学び、経済的に自立した持続可能な表現活動を身に付けることを目指す。

「複合芸術実習Ⅲ」は、１年次の複合的な学びの集大成として、自らが設定する修了研究のテーマを踏まえて参加プロジェクトを選択する。また、学生は、指導教員とともに目指す研究テーマに沿った目標を設定したうえで参加し、プロジェクト内で実際にテーマを意識した取り組み

を実践することで、研究テーマをより深く掘り下げるとともに、実体験として積み重ねた知見を取り込むことによって、修了研究の成果に厚みを増すことを目指す。

オ　制作技術実習科目

制作技術実習科目は、一定の表現技術を習得している学生が、複合芸術演習科目や複合芸術実習科目と並行して、自らの専門性を深化させるために必要な技術の確認や改善、高度化を目指すために選択科目として配置した。

本学学部からの進学者には、専攻における専門性を基盤に、表現技術の振り返りと応用技術の修得を、他大学からの進学者には、個々の研究テーマに必要な表現技術の知識や技法の修得をそれぞれ可能としている。

ここでは、現代芸術領域における幅広い表現技術の学びを可能とするために、本学学部の５専攻であるアーツ＆ルーツ専攻、ビジュアルアーツ専攻、ものづくりデザイン専攻、コミュニケーションデザイン専攻、景観デザイン専攻のそれぞれの学部担当教員が指導を行う。

カ　特別研究科目

特別研究科目は、修士論文及び修士作品に関する指導を行う科目として配置し、修士作品には、作品の制作研究と地域における特定課題等をテーマとして行う研究が含まれる。

学生は、それぞれの研究計画をもとに研究テーマを設定し、自ら研究に取り組み、最終的に「修士論文」、または「修士制作及び修士制作報告書」を研究指導教員の元でまとめる。

③　配当年次の考え方

学生が体系的に科目の選択や研究指導を受けられるよう配当年次を設定した。

はじめに、本学の研究方針や研究領域、プロセスを把握する「スタートアップ」を開講し、その後、１年前期において、現代芸術領域の複合的な学びの土台となる知識を修得する「複合芸術論」と、領域を横断した複合的な芸術表現及び視野を獲得する「複合芸術演習」を開講する。

１年後期には、前期での学びを踏まえて、より専門的かつ応用的な知識を習得する「複合芸術応用論」と、実際のプロジェクトで芸術表現を実践する「複合芸術実習Ⅰ、Ⅱ」を開講し、表現の実践に即した知識・手法の修得と実践を並行して行えるよう設定している。

２年前期では、修了研究及び修了制作を意識したテーマ設定のもとに地域でのプロジェクトに参加する「複合芸術実習Ⅲ」を開講する。

学部で身につけた表現技術を他の科目との連関のもとで高度化していく科目として「制作技術実習」を２年間開講する。

修士論文等の研究指導を行う「特別研究」は、１年前期から開講し、指導教員が２年間にわたって指導を行う。

（資料 11：カリキュラム年間イメージ）

（資料 12：秋田公立美術大学大学院時間割）

(4) 秋田市の「芸術・文化によるまちおこし」との連携

本学が４年制大学となった平成２５年度以降、秋田市はもとより市内・県内の企業・団体との連携事例が増えている。こうした動きを設立団体である秋田市が進めようとしている「芸術・文化によるまちおこし」と連動させていくため、市域等を対象として、自らの芸術表現の探求に加え、アートマネジメントやソーシャルデザインの視点から、にぎわいの創出や産業の活性化、雇用の創出といった地域課題の解決、さらには社会的起業などアーティストの自立等を見据えた取組を「複合芸術実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を通じて継続的に行い、本学が理念に一つに掲げる「地域貢献」をより高度な形で具体化していく。

（資料１：秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン（再掲））

(5) 空き家を活用したＡＩＲ（アート・イン・レジデンス）等による地域貢献

本学がある秋田市新屋地域をはじめとする市内各地の空き家等を活用して、地域滞在型の表現活動を行う国内外のアーティストを招聘し、学生が実際の制作に触れながら交流することで、自らの芸術表現の幅を広げる機会とすることを想定している。また、学生や卒業生が使用できるアトリエやファブリケーションなどの機器を設置したラボラトリーなど、アーティストや起業を目指す若者を一定期間支援するインキュベーション施設としながら、運営に地域の方々を巻き込むことで、少子高齢化が進む中での世代間交流を促進することも視野に入れながら、地域課題の解決とまちのにぎわい創出に貢献する。

（資料 13：平成 27 年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業チラシ）

５　教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織編成の基本的考え方

教員はそれぞれの教育・研究分野において、教育実績、研究業績、実務経験について高いレベルを有する専任教員を配置することを基本とする。

個々の教員の配置にあたっては、本大学院の研究がアート分野、デザイン分野、芸術学分野を基盤として、情報技術や映像等を活用した表現の複合やアートマネジメント、ソーシャルデザインといった実社会での実践力養成を重視した学際的なカリキュラム編成としていることを踏まえ、各基盤分野におけるそれぞれの専門領域での十分な教育実績と研究業績を有する教員を配置したほか、基盤分野を担当する教員とともに、本研究科の柱となる「複合芸術科目」「複合芸術演習科目」「複合芸術実習科目」について、実社会での豊富な実践経験を踏まえて、学生の高度な実践力を養成できる教員として、アートマネ

ジメント、ソーシャルデザイン、情報技術、映像の各分野で十分な活動実績を有する実務家を揃え、配置している。

このように、きめ細やかな教育、研究指導を行い、十分な教育成果を上げることを基本とした教員組織体制を構築する。

(2) 教員配置（職位・学位・業績・年齢構成）

教員組織は、専任教員 11 人で編成し、職位は教授９人、准教授２人を配置する。このうち博士の学位を有する者が１人、修士の学位を有する者が９人、学士が１人である。

年齢構成については、開設時 65 歳以上の教員が１人、60 代前半が２人、50 代が４人、40 代が２人、30 代が２人である。

（資料 14：専任教員の年齢構成・学位保有状況）

(3) 定年の対象となる教員の取扱い

本学では、「公立大学法人秋田公立美術大学職員就業規則」で教員の定年を満 65 歳と定めており、大学院完成年次までに１人が定年の対象となるが、大学院完成年次まで定年を延長することとする。

なお、上記の者も含め退職予定者の後任補充については、大学院の研究領域や退職予定者の専門分野を踏まえて、教育課程及び教員体制など教育研究上の一貫性が保たれるよう、将来を見据えた人事計画に基づき計画的に実施することとしている。

（資料 15：公立大学法人秋田公立美術大学職員就業規則（抜粋））

6　教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

(1) 教育方法

本学では、「スタートアップ」、「複合芸術論」、「複合芸術演習」、「複合芸術実習」、「制作技術実習」、「特別研究」を必修としており、「複合芸術応用論」を選択必修としている。

これは、学生が、高度な応用知識を学ぶ「複合芸術科目」や、多様な手法・技法を経験・実践する「複合芸術演習」及び「複合芸術実習」を他の学生と共同で行うことによって、異なる視点や立場を相互に理解するとともに、チームとして表現活動を行うことで、幅広い視野や思考といった複合的な芸術表現の前提となる能力を身につけることを狙いとしているためである。

併せて、「制作技術実習」では、こうした経験を自らの表現技術の高度化に複合的に組み入れるための技術探求を行うとともに、そこでの新たな気づきを実践の場に持ち出すなど、経験と技術探求の相互連関による学びを可能としている。

指導教員は、こうした履修環境を踏まえて学生と話し合いながら、研究計画や学習歴、関心などをもとに、「複合芸術演習」や「複合芸術実習」に参加す

る際の個別のねらいを設定し、最終的な修士論文・修士制作へつなげる適切な教育、研究指導を行うこととしている。

(2) 履修指導

① ガイダンス

入学時に学生に対するガイダンスを実施し、修士課程における修了要件、各科目の配置の目的、履修方法、成績評価等の説明を行う。

② 履修モデル

本大学院は、現代芸術領域における複合的な経験と実践を主体とする教育・研究を通じ、自らの表現能力を探求し続けながら、社会へ価値のある芸術表現を発信するとともに、地域社会へ貢献していく人材の養成を目指した教育課程を編成し、各専門領域において優れた業績を有する教員を配置することによって、学生の希望する研究テーマに応じた履修指導を行うこととしている。そこで、本大学院が掲げる３つの人材像を想定した履修モデルを以下に示すものである。

ア 「テクノロジーの活用や異なる分野との複合をもとに既存の枠を超えた新しい芸術表現を実践していく人材」

この履修モデルは、理論を学ぶ「複合芸術応用論」において、本学の理念に掲げる「地域貢献」や社会へ価値ある芸術表現を発信することを念頭に、ソーシャルデザイン等の応用手法を学ぶ「複合芸術応用論Ｂ」と地域研究等の実践理論を学ぶ「複合芸術応用論Ｃ」を履修する。

また、複合的な表現手法を経験する「複合芸術演習」においては、特にテクノロジーとの複合を念頭に３Ｄプリンタを活用した「デジタル・ファブリケーション」「メディア表現・電子工作」などが関連する。

さらに、新たに学んだ理論や表現手法を地域社会で実践する「複合芸術実習」では、指導教員と相談したうえで、プロジェクトにおける「アーティストとしてのテーマ」を個別に設定し、チーム活動での役割を果たしながら、テーマに即した成果を目指すこととしている。

この履修モデルのなかで、社会を意識したアーティストとして必要な知識や思考、能力を身につけることが可能となる。

【履修モデル1】テクノロジーの活用や異なる分野との複合をもとに既存の枠を超えた新しい芸術表現を実践していく人材

科目区分	1年次		2年次		単位数
	前期	後期	前期	後期	
導入科目	●スタートアップ（2単位） ※6日間の集中講義				2単位
複合芸術科目	●複合芸術論（2単位）	◎複合芸術応用論B（2単位） （ソーシャルデザイン） ◎複合芸術応用論C（2単位） （芸術批評・アートライティング）			6単位
複合芸術演習科目	●複合芸術演習（8単位） ※多様なメニューを経験するなかで、テクノロジー等との複合等を通じて表現を探求				8単位
複合芸術実習科目		●複合芸術実習Ⅰ（2単位） ●複合芸術実習Ⅱ（2単位） ※アーティスト（表現者含）の視点からテーマを設定	●複合芸術実習Ⅲ（2単位） ※アーティスト（表現者含）の視点からテーマを設定		6単位
制作技術実習科目	◎制作技術実習A1～E1（1単位）		◎制作技術実習A1～E2（1単位）		2単位
特別研究科目	●特別研究Ⅰ（2単位）		●特別研究Ⅱ（4単位）		6単位
合計	14単位	9単位	4単位	3単位	30単位

（備考：●必修科目、◎選択必修科目）

イ　「アート活動のマネジメントや社会的起業によって、課題の解決や産業活性化など幅広く地域に貢献していく人材」

この履修モデルは、理論を学ぶ「複合芸術応用論」において、地域の課題を芸術表現に軸足を置いてアプローチするアートマネジメントと、社会全体を見据えて芸術の視点からデザインするソーシャルデザインの実践手法を学ぶため、「複合芸術応用論Ａ」と「複合芸術応用論Ｂ」を履修する。

また、「複合芸術演習」においては、地域課題や背景等の調査手法や関係者を巻き込むことを念頭に経験する「地域研究」「総合デザイン」「ワークショップ開発」が深く関連する。

さらに、「複合芸術実習」では、指導教員との協議のもとで、プロジェクトにおける「アートマネジメント」、「ソーシャルデザイン」の視点からの個別テーマを設定し、チームの中で企画・運営、調整などの役割を担いながら成果を求めていくこととしている。

この履修モデルの中で、幅広い視点と表現手法を駆使して、地域社会に価値ある提案をしながら貢献していく人材に必要なノウハウと実践力を備えさせることができる。

【履修モデル2】アート活動のマネジメントや社会的起業等によって、課題の解決や産業活性化など幅広く地域に貢献していく人材

科目区分	1年次		2年次		単位数
	前期	後期	前期	後期	
導入科目	●スタートアップ（2単位） ※6日間の集中講義				2単位
複合芸術科目	●複合芸術論（2単位）	◎複合芸術応用論A（2単位） （アートマネジメント） ◎複合芸術応用論B（2単位） （ソーシャルデザイン）			6単位
複合芸術演習科目	●複合芸術演習（8単位） ※多様なメニューを経験する中で、マネジメントやデザイン思考の活用手法を学ぶ				8単位
複合芸術実習科目		●複合芸術実習Ⅰ（2単位） ●複合芸術実習Ⅱ（2単位） ※各実習には、マネジメント、社会デザインの視点からテーマを設定	●複合芸術実習Ⅲ（2単位） ※マネジメント、社会デザインの視点からテーマを設定		6単位
制作技術実習科目	◎制作技術実習A1～E1（1単位）		◎制作技術実習A1～E2（1単位）		2単位
特別研究科目	●特別研究Ⅰ（2単位）		●特別研究Ⅱ（4単位）		6単位
合計	14単位	9単位	4単位	3単位	30単位

（備考：●必修科目、◎選択必修科目）

ウ　「芸術領域の開拓や地域課題への貢献に有意な提言を発信しながら、現代芸術のシンクタンクを形成しグローバルな貢献をする人材」

この履修モデルは、「複合芸術応用論」において、地域における芸術支援活動や文化政策を広く学び、併せて地域研究と芸術活動の関係を深く掘り下げることを目的に「複合芸術応用論Ａ」と「複合芸術応用論Ｃ」を履修する。

また、「複合芸術演習」においては、「インフォグラフィクス」や「言語表現・アートライティング）」を通じて、視覚的表現やアートライティングを通じた研究成果の発信手法を学ぶ。加えて、「複合芸術実習」では、指導教員とともに研究者の視点からプロジェクトを俯瞰・考察するための個別テーマを設定した上で、チームの中では、テキストやアートワークを通じた成果の発信を担いつつ、プロジェクトの企画・実践・成果・検証という一連の流れを研究することに重点を置いて活動する。

こうした履修モデルの中で、現代芸術領域における多様な活動を、理論と現場での実践を通じて、研究していく視点と思考を養い、発信していく能力を身につけることが可能となる。

【履修モデル3】芸術領域の開拓や地域課題への貢献に有意な提言を発信しながら、現代芸術のシンクタンクを形成しグローバルな貢献をする人材

科目区分	1年次		2年次		単位数
	前期	後期	前期	後期	
導入科目	●スタートアップ（2単位） ※6日間の集中講義				2単位
複合芸術科目	●複合芸術論（2単位） （芸術論・批評理論・文献購読）	◎複合芸術応用論A（2単位） （アートマネジメント） ◎複合芸術応用論C（2単位） （芸術批評・アートライティング）			6単位
複合芸術演習科目	●複合芸術演習（8単位） ※多様なメニューを経験する中で、現代芸術の研究・批評・発信手法を学ぶ				8単位
複合芸術実習科目		●複合芸術実習Ⅰ（2単位） ●複合芸術実習Ⅱ（2単位） ※各実習には、研究者の視点からテーマを設定	●複合芸術実習Ⅲ（2単位） ※研究者の視点からテーマを設定		6単位
制作技術実習科目	◎制作技術実習A1～E1（1単位）		◎制作技術実習A1～E2（1単位）		2単位
特別研究科目	●特別研究Ⅰ（2単位）		●特別研究Ⅱ（4単位）		6単位
合計	14単位	9単位	4単位	3単位	30単位

（備考：●必修科目、◎選択必修科目）

③　指導体制

履修指導は、個々の学生の研究指導を担当する教員が行うとともに、事務局においても、随時、履修相談を受けられるような体制とする。

特に、「複合芸術実習」の履修に際しては、指導教員が個々の学生の研究テーマや目指す人材像、実習内容を踏まえて、本人と協議のうえ、ふさわしい個別テーマを設定することとしている。

また、指導教員は、学生が「複合芸術演習」や「制作技術実習」の中で新たに見出した表現手法について、社会における表現技術のいかし方や将来の活躍分野を見据えて、副指導教員や制作技術実習の担当教員と協議を行いながら、探求の方向性を助言することとし、２年間で所期の能力を身につけられるよう指導するものである。

④　シラバス

すべての科目について、科目のねらい、到達目標、授業計画、成績評価基準・手法を明示したシラバスを作成し、修士課程における効果的な履修計画を支援する。

(3) 修了研究の指導

本学では、学生が新たな芸術表現の創出と本質を捉えた地域貢献につながる研究を効果的に進められるよう、入学時から修了まで計画的に研究指導を行う。なお、研究指導は、「修士論文」及び「修士制作及び修士制作報告書」（以下、「修士論文等」という。）とも次に示すスケジュールで行う。

①　履修ガイダンス（入学後）

学生が入学後、履修ガイダンスを実施し、修了要件や各科目の配置目的、

履修方法、成績評価等の説明を行う。

② 指導教員の仮決定（１年次４月）

学生は、研究科教授会へ希望する研究分野、修士論文・修士作品の別、指導教員を申請し、研究科教授会は、学生の希望と入学時に提出された研究計画書を踏まえ、研究分野に適する指導教員１人を仮決定する。

③ 研究テーマの検討（１年次４月～９月）

学生は、１年次前期で行われる「複合芸術論」や「複合芸術演習」、「制作技術実習」での学びを通じて研究テーマを考察し、指導教員は、学生の考えや求める研究内容を踏まえ、適切な研究テーマの設定が行えるよう指導する。

④ 研究テーマの発表及び指導教員の決定（１年次 10 月）

学生は、１年次前期での経験や指導教員の指導・助言を踏まえて、研究テーマを決定し、発表会でプレゼンテーションを行う。研究科教授会は、発表内容を踏まえ、改めて学生の研究テーマに適した指導教員１人と副指導教員１人を決定し、学生に通知する。なお、研究科が開催する発表会等には、研究科教授会の全教員と研究科の全学生が出席することを原則とする。

⑤ 研究構想の作成及び指導（１年次 10 月～３月）

学生は、「複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ」での学びや経験を踏まえて、指導教員及び副指導教員の指導・助言を受けながら、研究テーマに沿った研究構想を立案する。指導教員は、文献検索、文献抄読、研究方法の提示等を通じて研究構想の作成を指導する。

⑥ 年次制作の発表（１年次３月）

学生は、研究科が開催する全教員・学生が出席する発表会で、１年次に制作した作品・成果物を発表する。指導教員及び副指導教員は、発表会で指摘・助言された発表内容に係る課題等を踏まえて、対応策を指導し、研究構想へ反映させる。

⑦ 研究構想の発表（２年次４月）

研究科教授会は、学生の研究構想を発表する機会として、研究構想発表会を開催する。学生は研究構想の中で、２年次前期に行う「複合芸術実習Ⅲ」において自らが設定するテーマも併せて説明する。研究構想の内容については、必要に応じて倫理的な側面から大学の規程に基づく審査を行う。

また、本学が平成 31 年４月に開学を目指す博士後期課程への進学を希望する学生は、研究科教授会へ申請を行う。なお、博士後期課程への進学者には、修了研究として修士論文の作成を課す。

（資料 16：不正行為防止に関する規程・体制図）

⑧ 中間報告（２年次７月）

学生は、研究科教授会が開催する中間報告会において、研究経過及び成

果の中間報告を行う。指導教員は、報告内容に係る課題等を指摘し、修士論文等の完成に向けた課題解決方法等を助言する。

⑨　修士論文の作成等の指導（２年次８月～１月）

学生は、中間報告までの成果をもとに修士論文等の作成・制作を開始する。指導教員は、学生の修士論文の作成について、論文全体の構成、データ整理・分析方法、図表の作成、引用文献の記述法など、論文完成までの必要な指導を行う。また、修士作品の制作及び修士制作報告書については、理論的枠組の設定、データ収集・検証、他の作品の調査、分析・制作手法、報告書の作成など、作品の完成に必要な指導を行う。

⑩　中間発表（２年次 10 月）

研究科教授会は、修士論文等に関する中間発表会を開催する。学生は、中間発表を行い、発表内容に対する問題点や課題の指摘、加筆・修正の助言等を受ける。指導教員は、副指導教員とともに指摘・助言等を踏まえて、学生に解決方法等を指導する。

⑪　主査・副査の決定（２年次１月）

研究科教授会は、学生の研究成果である修士論文等を審査する主査１人、副査２人を調整・合議のうえで決定し、学生に通知する。

⑫　修士論文の提出及び最終試験（２年次１月）

学生は、修士論文等を所定の期日までに提出する。

主査及び副査は、提出された修士論文等を審査し、その内容及び研究対象となった領域に関する最終試験（口頭試問）を行う。

⑬　公開発表会

研究科教授会は、修士論文等に係る研究発表の場として、公開発表会を開催する。

修士論文等を審査した主査及び副査は、発表内容に係る課題等を指摘・助言する。指導教員は、主査及び副査から指摘された課題への対応方法に関する指導を行い、学生は、指導教員のもとで必要な対応を行い、修士論文等を完成させる。

⑭　最終修士論文の提出及び合否判定

学生は、最終試験及び公開発表会での指摘事項を修正した修士論文等を提出する。主査及び副査は、提出された修士論文等の審査を行い、審査結果を研究科教授会に報告する。

研究科教授会は、主査及び副査による審査結果及び最終試験の判定結果、当該学生の単位取得状況を踏まえて修士課程修了の合否を判定する。

⑮　修士課程の修了及び学位の授与

学長は、研究科教授会の判定結果に基づき、学生の修士課程の修了を認定し、修士の学位を授与する。

(4) 研究成果の審査

学生の研究成果である修士論文は、主査及び副査が修士論文として求められる水準や研究の倫理的側面などから審査し、合否を決定する。審査は研究科教授会が選定する主査１人及び副査２人の体制で行うこととし、主査は当該学生の指導教員以外の研究科指導教員から、副査は指導教員及び副指導教員等から選定する。なお、当該学生の指導教員及び副指導教員は、副査の一人になることができる。

(5) 修士制作及び修士制作報告書の内容と教育研究水準の確保の配慮

学生は、修士論文に替えて、特定の課題に対する作品及び制作意図や制作過程などを記載した制作報告書を合わせて研究成果として提出することができる。制作報告書には、制作テーマ、調査研究手段、制作スケジュール、考察等を記載する。

この作品制作については、課題を的確に観察・分析する能力、課題解決に向けた企画立案・表現力・評価能力が求められるため、教育研究水準としても修士論文と同等の価値を持つものと言える。

課題の設定や研究指導は、修士論文と同様に、指導教員と副指導教員による複数指導体制のもとで行うほか、学位授与のための審査についても、修士論文と同様の審査手順、合否判定等で行い、客観性及び厳格性を担保するとともに教育研究水準を確保する。

(6) 学位論文等の公表

審査に合格した学位論文等は、印刷製本し、本学図書館に収蔵するほか、大学のホームページを通じて、論文等の題名、要旨等を公表する。

(7) 成績評価

学修の成果及び修士論文等の評価、修了認定にあたっては、その客観性と厳格性を保つため、各科目のシラバスに成績評価基準を明示したうえで行う。

(8) 修了要件

修了要件は、２年以上在学し、所定の単位（導入科目２単位、複合芸術科目から６単位以上(必修２単位を含む)、複合芸術演習８単位、複合芸術実習科目６単位、制作技術実習科目から２単位以上、特別研究を６単位、合計 30 単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、「修士論文」または「修士制作及び修士制作報告書」を提出してその審査及び最終試験に合格することとする。

(9) ディプロマポリシー

本研究科の修了に際しては、以下の能力を備えることを基準とする。

① 異なる分野と複合させながら既存の枠にとらわれない新しい芸術を探求する能力

② 現代社会の動向や地域特性を捉え、美術・デザインの方法論を通じて、問

題解決へつなげる具体的な提案ができる能力

③　グローバルな視野を持ちながら現代芸術領域の研究や実践を評価・検証し、その成果を発信する能力

7　既設の美術学部との関係

(1) 教育・研究の柱となる分野の関連

本研究科は、美術学部を基盤として設置し、自らの表現手法をより高度化させるための高度な知識・技術と、その表現を社会への新たな価値として提供するための実践的手法を習得する。

美術学部では、①現代の社会・地域・生活・思想を意識し、それらを表現の根拠としたアートやデザインを追求する人材の育成、②価値の多様性と共有を可能とする柔軟な思考をもとに、グローバルに活動場所を求めることのできる人材の育成、③地域独自の芸術的価値やブランドを生み出すこと、心地良い落ち着きとにぎわいに溢れた、美しいまちづくりをデザインすることで、秋田の芸術・文化をいかしたまちづくりに貢献する人材の育成を教育目的に掲げている。この教育目的を達成するため、日本画、油画、彫刻、工芸、デザインなど複数分野の基礎的知識・技能を幅広く学んだうえで、それらを横断する複合的な表現手法の試みを通じて、より高度で専門的な知識・表現を体系的に教育している。

本研究科では、学部で学んだ複合的な知識や表現手法を礎に、「情報技術等の異分野との表現の複合」、「地域独自の芸術的価値を活用したアートマネジメント」、「デザイン思考によって地域課題を解決するソーシャルデザイン」など、学部の教育目的を承継しながら、高度な実践力を身につけるための教育・研究を行う。

具体的には、「異分野との表現の複合」については、学部における情報リテラシーや編集・映像デザイン、３Ｄ・ＣＧに関する科目を、より高度化・専門化したうえで研究科における「複合芸術演習」でのプロトタイピングメソッド、メディア表現・電子工作として実施し、各学生の表現領域の拡大につなげる。

また、「アートマネジメント」については、学部における現代芸術論・演習の中で学ぶアート・プロジェクトに関する知識やフィールドワークの体験を、実際のアートマネジメントにつなげるために、研究科においては「複合芸術論」及び「複合芸術演習」、「複合芸術実習」の中で理論と実践を学ぶこととしている。

さらに、「ソーシャルデザイン」については、現代芸術論・演習で行う景観デザインに基づく地域課題の解決や、社会を意識したデザインの学びを、本学が位置する秋田の地域社会や産業界で実践する力とするため、研究科における「複合芸術論」、「複合芸術演習」での地域研究やプロトタイピングメソッド、

総合デザイン、「複合芸術実習」で行うプロジェクトを通じて指導する。

なお、これら３つの高度な実践力に関する教育の基盤となるのは、学部で身につけた複合的な知識や表現手法であることから、２年間を通じて行われる「制作技術実習」の中で、研究科での新たな経験を踏まえながら自らの表現手法と向き合うこととしている。

以上のように、既設学部と研究科が密接なつながりを持つことで、学生が能動的に表現能力を高めながら、より高度な実践力を養うことができる体系的な教育を可能としている。

(2) 教員の研究分野との整合性

美術学部における教員組織は、「アーツ＆ルーツ専攻」「ビジュアルアーツ専攻」「景観デザイン専攻」「コミュニケーションデザイン専攻」「ものづくりデザイン専攻」「美術教育センター」の５専攻、１センターで構成している。

研究科においては、学部における５専攻、１センターの研究領域を「アート分野」「デザイン分野」「芸術学分野」の３領域に発展的にまとめた上で、「表現複合」「アートマネジメント」「ソーシャルデザイン」といった実践力を養うために必要な試みやスキルを含むカリキュラムを構成している。

そのため、研究科の教員体制としては、学部を兼任しながら研究科に移る教員と、新たに研究科教員として就任する教員が学部を兼任する体制のもとで、３つの研究領域を踏まえた実践的なカリキュラムを通じて連携・横断した教育・研究を行うこととしており、教員の研究分野については整合性が保たれている。（資料４：美術学部と大学院研究科の関連図（再掲））

Ⅳ　施設・設備等の整備計画

１　キャンパス

本研究科の教育・研究は、秋田駅から南西６キロの西部地域にある新屋キャンパスで行う。研究科で行う制作技術実習において、ものづくり等の一部特殊な設備を要するものについては、既存学部の施設・設備を使用することとし、それ以外の研究科の教育・研究に必要な院生室や実習室、教員室等については、行おうとする授業や学生数、教員数を踏まえて必要な施設・設備を整備する。

また、研究科が行う高度な教育・研究に対応するため、表現技術の複合等で活用する情報機器や設備等について必要な整備を行うほか、図書及び学術関連雑誌等の学術情報の充実を図る。

２　施設・設備等の整備計画

本研究科の設置の趣旨及び必要性、教育目的を達成するための教育・研究環境として必要な施設・設備として、新たに大学院棟を整備する。

建設予定である大学院棟は、鉄筋コンクリート３階建てで約 1,500 ㎡の延べ床

面積を有し、講義や演習等にも活用可能な院生室や会議室、学生の多様な試みやプレゼンテーションに対応した作業スペース、教員室及び助手室などを整備する。

施設・設備の規模及び内容については、将来の博士後期課程の設置を見通して整備するほか、学生一人ひとりの研究に必要な什器等を設置する。

なお、大学院棟は 24 時間利用可能とし、充実した教育・研究が行える環境を整備する。(資料 17：大学院棟施設整備見取り図)

3　図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、約４万８千冊の図書と約 243 タイトルの雑誌を所蔵しており、大学院開設後も継続して図書及び学術資料の充実を図ることで、大学院の完成年度までの間に大学院の研究・教育に必要となる現代芸術分野の書籍を中心に、約５千冊の学術図書を購入し、研究環境を一層充実させるための予算措置を行なっている。(資料 18：学術雑誌等一覧)

館内のスペースとして、１階部分に 70 席、２階部分に 67 席、合わせて 137 席の閲覧席を備えているほか、グループ学習や自主学習で活用可能な特別閲覧室とグループ閲覧室、さらには、レファレンスコーナー、視聴覚コーナー、ブラウジングコーナー、複写機器、検索端末、デジタルフィルムスキャナを備えている。検索・管理システムとしては、全国大学図書館等の総合目録データベースシステムである NACSIS-CAT を導入するとともに、所蔵資料をデータベースで管理し、学内 LAN 及びインターネットで OPAC を公開しているほか、図書館間で図書や雑誌論文を相互に利用し合うため の連絡業務支援システムである NACSIS-ILL により他大学との相互協力を行っている。

図書館の開館時間は、通常期８：00～20：00、長期休業期間８：00～17:00 としているが、大学院設置に伴い、新たに建設する大学院棟の院生室内に図書蔵書スペースを確保し、当該施設を 24 時間利用可能とすることで、大学院の教育・研究環境を担保する。

V　入学者選抜の概要

1　基本方針

大学院の設置の趣旨、教育・研究理念に基づき、現代芸術における新たな領域の拡張や多様な表現手段による地域社会との接続など、本研究科が目指す教育・研究を理解し、その実践に強い志を持つ人材を受け入れる。

2　アドミッションポリシー

本研究科は、多様化する現代芸術領域と複雑化する地域課題を踏まえて、表現技術の複合、アートマネジメント、ソーシャルデザインなど、芸術的感性を実社会への価値提供や課題解決につなげる実践的手法を教育・研究することで、一人

ひとりの個性を尊重した専門性のさらなる深化の追求や新たな芸術表現の創出、より本質を捉えた地域貢献を図ることを目的としている。

この目的を達成するため、本研究科が求める人材像を次のとおりとする。

① 新しい芸術を探求する意欲のある人
② グローバルな視野と地域への視点を併せ持つ人
③ 他者と協働しながら主体的に制作や研究に取り組める人

3 出願資格

本大学院の出願資格は、入学年度の４月１日において、次の各号に掲げる要件のいずれかに該当する者を基本とする。

① 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 83 条に定める大学を卒業した者
② 学校教育法第 104 条第４項の規定により学士の学位を授与された者
③ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
④ 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
⑤ 大学を卒業した者と同等の学力があると認められる文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年２月７日付文部省告示第５号）
⑥ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者

4 選抜区分

選抜は、本学の学部学生をはじめ、広く他大学の学生及び社会人等、上記の出願資格を有する者を対象とし、一般選抜により行う。

5 募集人員

研究科において募集する人員は、10 人とする。

6 選抜方法

選抜方法は、本研究科の教育を受けるにふさわしい能力と適性を備えた人材を合理的に判断するために、学際的なテーマに基づく論述試験や面接を含む口頭試問により実施する。なお、受験者には、入学願書に志望理由書、研究計画書等を書類添付させることとし、これらの出願書類を基に面接を含む口頭試問を実施し、総合的に判断する。

7 選抜体制

研究科教授会は、入学者選抜に関する学生募集、選抜の実施、合否判定等を行

い、学長が入学を許可する。

Ⅵ　学外実習を実施する場合の具体的計画

1　実習先の確保の状況

本学では既に、基本理念に「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む」を掲げ、地域団体や地元企業と連携しながら、アートやデザインを通じて「人と地域」「産業と社会」をつなぐ試みを行ってきている。

大学院の教育課程においても、「複合芸術科目」や「複合芸術演習科目」を通じて学んだ複合的な芸術表現の仕組みや手法を実社会で試みる科目として、１年後期から２年前期にかけて行われる「複合芸術実習科目」を配置している。

実習先としては、設置団体であり成長戦略に「芸術文化によるまちおこし」を掲げる秋田市と、本学と「広く地域の芸術文化の発展に貢献する」ことを目的に包括連携協定を締結している株式会社秋田ケーブルテレビから、実習の連携に関する承諾を得ているところである。このほかにも、県内自治体や商工団体、大学応援組織である「あきびネット」なども連携先として想定されると考えている。

（資料 19：公立大学法人秋田公立美術大学と株式会社秋田ケーブルテレビとの包括的連携に関する協定書）

（（再掲）資料 10：大学院実習連携承諾書）

（資料 20：あきびネットパンフレット）

2　実習先との連携体制

「複合芸術実習科目」は、１年の後期に配置した「複合芸術実習Ⅰ」と「複合芸術実習Ⅱ」、さらには２年の前期に配置した「複合芸術実習Ⅲ」で構成され、それぞれ、次の実習内容を想定している。

(1) 複合芸術実習Ⅰ

ソーシャリー・エンゲージド・アート（社会関与型芸術）の手法を活用し、既存の地域団体または民間企業との協働の中で、企画立案から提案と交渉、実践を試みる。具体的な対象としては、秋田市が「芸術文化のまちづくり」の中で検討を開始し、本学の教員も参画している芸術祭などのアート事業を想定しており、秋田市の担当職員とともに、複数の担当教員の指導のもとで、当該事業における具体化から実行までの各段階において、学生がテーマを持って実習に取り組むことを想定している。

(2) 複合芸術実習Ⅱ

デザイン（プロダクト・環境・情報・ビジュアルなど）によって身近な社会問題の解決を試みるプロジェクトとして、「ソーシャル･デザイン」による社会デザイン能力の拡張と交換をテーマに、地域団体や民間企業等具体的な制作・提案を行う。その際、ファブリケーションや IT、映像など、多様なスキルやメ

ディアを複合的、効果的に使用することを試みることから、コンテンツ制作等の高い技術力を有する株式会社秋田ケーブルテレビと連携し、各分野を担当する教員の指導のもと、プロジェクトの構想、実施、評価・検証に必要な段階を経ながら実習に取り組むことを想定している。

(3) 複合芸術実習Ⅲ

本実習では、1年次に行う実習Ⅰ・Ⅱの成果とそこから得た知見を踏まえて、学生自らが個人またはグループでテーマを設定し、実習の外部パートナーとして、学生自らがテーマに適応した組織や企業を選出し、企画提案・交渉を通じてプランニングを行い、地域社会や地方自治体、提携民間企業などの学外を対象とした社会的な実践として担当教員の指導のもとで実習に取り組むことを想定している。

3　成績評価体制及び単位認定手法

実習の成績評価については、各担当教員が行うプロジェクトを通じた個々の活動成果とチームとしての地域貢献度等の評価と、実習の連携先からの評価を踏まえて、最終的に各科目責任者が総合的な評価を行い、単位認定を決定することとしている。

Ⅶ　管理運営

1　管理運営体制の概要

本大学院の管理運営に際して、研究科教授会を設置する。研究科教授会は、研究科長及び研究科運営に係る専任教員をもって構成する。

研究科教授会には議長をおき、研究科長をもって充てることとし、議長が研究科教授会を主宰する。

研究科教授会の審議事項は、以下のとおりとする。

(1) 教育課程の編成に関する事項
(2) 学生の入学又は課程の修了その学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
(3) 学生の支援に関する事項
(4) ＦＤ等教育活動に関する事項
(5) 研究活動に関する事項
(6) 専任教員の採用、昇任及び非常勤教員の採用に関する事項
(7) その他研究科の教育又は研究に関する重要事項

研究科教授会に関する庶務は、本学事務局がこれにあたるものとする。

2　学内委員会

本学には、法人の経営及び本学の教育・研究を円滑に行うために必要な経営審

議会及び教育研究審議会を組織しているほか、教育・研究、運営等に関する重要事項を審議するため、各種の学内委員会を設置している。

（資料 21：公立大学法人秋田公立美術大学組織図）

大学院設置後は、一部既設の委員会を利用するほか、教務及び学生関係全般については、研究科独自の事項を協議する小委員会を設置することとする。

Ⅷ　自己点検・評価

1　基本方針

本学では、中期目標に基づく中期計画を着実に実行するため、目標を明示した年度計画を策定したうえで、教育・研究活動を行うとともに、活動状況や目標の達成状況を把握、評価することで、教育・研究等の内容を継続的に改善していくこととしている。

2　実施体制・実施手法

本学では、平成 25 年度の開学当初から、理事長兼学長を委員長とする自己評価委員会を設置し、教育・研究活動の状況及び大学運営全般について評価項目・評価基準の設定、データの収集等を行い、自己評価・点検報告書を策定してきた。平成 29 年度に学士課程 4 年間の自己点検・評価を実施し、平成 30 年度には認証評価機関による評価を受ける予定である。

公立大学法人である本学は、自己点検・評価及び中期目標の指示や中期計画と年度計画の策定、実績報告、評価により、継続的・循環的に教育・研究活動等の改善を着実に実施していくこととしている。

大学院についても、修士課程の評価基準に基づく、自己点検・評価を行うため、自己評価委員会が中心となって行うことを予定している。

3　結果の活用及び公表

自己点検・評価を踏まえ、カリキュラムの見直し、教育内容の充実など教育・研究活動等に改善に向けた検討を行い、大学院設置後も定期的に自己点検・評価を実施することで、より良い教育・研究に向け改善・高度化を図っていくこととする。

これまでの自己点検・評価結果は、ホームページで公開しており、今後とも大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、評価結果を広く公開していくこととする。

Ⅸ　情報の提供

1　実施方法

本学では、大学としての透明性を高め、地域社会に説明責任を果たすため、教

育・研究活動などに係る様々な情報を本学のホームページや各種刊行物、さらには公開講座等を通じて広く提供している。

大学院においても、地域社会に開かれた大学として、教育・研究に関する情報等を幅広く提供することとする。

2　情報提供項目

現在、本学で公表している情報は以下のとおりである。

(1) 大学ホームページ（http://www.akibi.ac.jp/）

①　大学紹介：大学の概要、組織・運営、社会貢献等

②　学部・専攻：学部・専攻等概要、教育課程等

③　教育・学術研究：大学の教育研究上の目的、教育研究上の基本情報、教員情報等

④　入試情報：アドミッションポリシー、入学者選抜・学生募集要項等

⑤　学生支援

(2) 刊行物

①　研究論文集：研究紀要

②　大学案内：大学の特徴、専攻紹介、教員・学生紹介、キャンパス情報、サポート情報

③　その他：入学者選抜要項、学生募集要項、学生便覧・履修の手引き、シラバス等

(3) 公開講座・セミナー

公開講座については、その成果をホームページやソーシャルメディアを通じて情報提供に努めている。

3　大学院に関する情報公開

大学院においても、市民はもとより広く地域社会に開かれた大学として、教育・研究に関する情報等を積極的に公表することとする。

①　研究科設置に関する情報

②　研究科の教育内容に関する情報

③　研究科の教員の教育・研究に関する情報

④　入学者選抜に関する情報

X　教員の資質の維持向上の方策

1　基本方針

本学では、ＦＤ委員会を設置し、教員の資質向上と質の高い教育の提供に向けて、年間を通じて組織的にＦＤ活動を行っている。

２　具体的取組

(1) 学生による授業評価アンケート結果を踏まえた改善

全ての授業に対して、学生を対象とした授業評価アンケートを実施し、その集計結果を教員に公表している。授業担当教員はアンケート結果を踏まえた改善等の考え方を報告し、授業内容及び方法の向上に取り組んでいる。

(2) 教員相互の授業参観

教員が相互に授業内容や方法を共有することにより、授業の連携・発展及び教授法の工夫・改善に資することを目的として授業参観を実施している。

(3) ＦＤ研修会への参加

本学のＦＤ活動への還元を目的として、他大学をはじめ、学外で開催されるＦＤ研修会へ、本学の教員が参加している。

（資料 22：平成 27 年度のＦＤ活動実績）

３　大学院におけるＦＤの実施

大学院開設後も、ＦＤ委員会を中心に授業内容及び方法の改善に組織的に取り組み、アクティブラーニングの実現を可能とする魅力的な教育内容及び教育環境の構築に向けて、積極的な資質向上に向けた研修等を行うこととする。

研究科教員の資質向上のため、教育方法、研究指導方法などの知識、技術の修得を目的としたＦＤ研修会を実施する。

また、大学院においても学部で行なっている授業評価アンケートを実施し、教員の授業改善に資するほか、学部教員による授業参観を行い、学部と大学院相互の教育方法の向上を図る。

資　料　一　覧

資料No.		資料名	掲載頁
資料	1	秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン	1
資料	2	「複合芸術研究」解説図	4
資料	3	社会貢献センター活動実績	5
資料	4	美術学部と大学院研究科の関連図	6
資料	5	秋田公立美術大学学則（一部抜粋）	6
資料	6	国内における「複合芸術」の活用事例	7
資料	7	大学のコースでの「Transdisciplinary」の使用例	7
資料	8	大学院カリキュラム概念図	9
資料	9	複合芸術演習概念図	13
資料	10	大学院実習連携承諾書	13
資料	11	カリキュラム年間イメージ	15
資料	12	秋田公立美術大学大学院時間割	15
資料	13	平成27年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業チラシ	15
資料	14	専任教員の年齢構成・学位保有状況	16
資料	15	公立大学法人秋田公立美術大学職員就業規則（抜粋）	16
資料	16	不正行為防止に関する規程・体制図	21
資料	17	大学院棟施設整備見取り図	26
資料	18	学術雑誌等一覧	26

資料　19　公立大学法人秋田公立美術大学と株式会社秋田ケーブルテレビとの包括的連携に関する協定書　28
資料　20　あきびネットパンフレット　28
資料　21　公立大学法人秋田公立美術大学組織図　30
資料　22　平成 27 年度のＦＤ活動実績　32

新・県都『あきた』成長プラン

【第１３次秋田市総合計画】

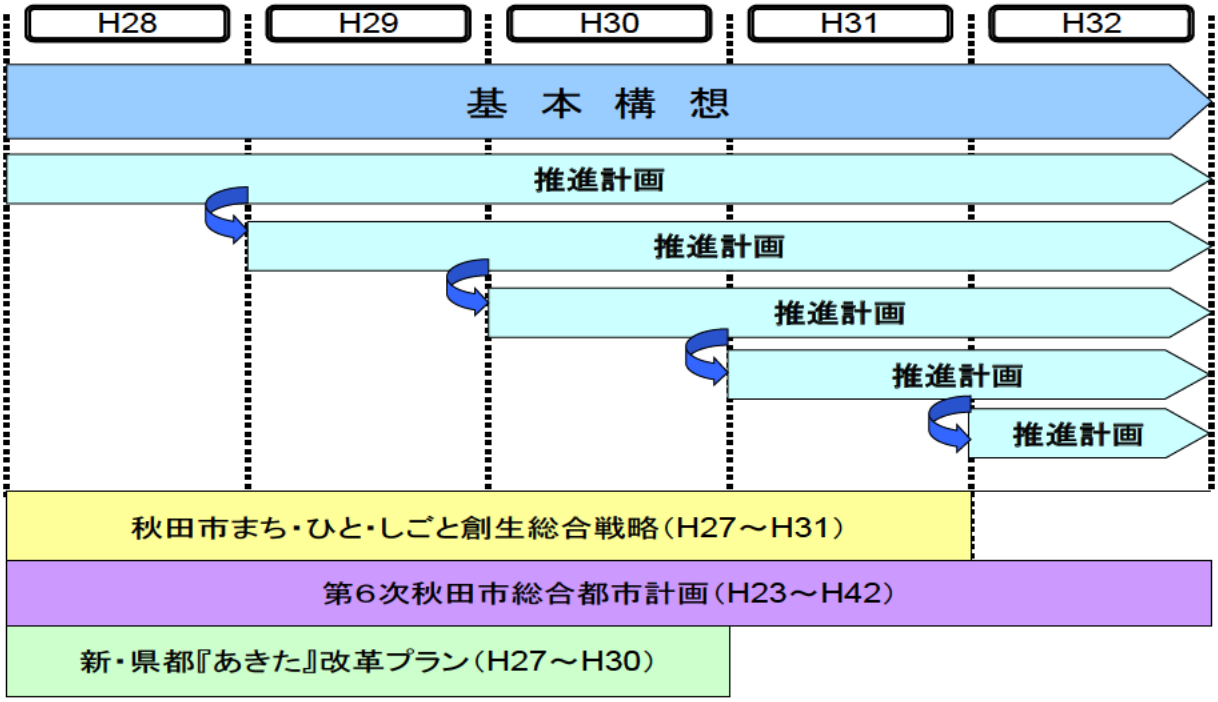
推進計画（原案）

平成２７年１２月

秋田市企画財政部企画調整課

新・県都『あきた』成長プランの体系

基本構想	基本理念	本市の目指すべき姿・まちづくりの理念
	将来都市像	基本理念のもとに目指す大局的な方向性
	政策	将来都市像実現に向けた政策
	施策	政策に基づく取組の方向性
推進計画	取組・事業	施策達成のための個別の事務事業（予算事業）



【推進計画の構成】

項　　目	掲載ページ
第１　推進計画の意義	1
第２　計画実施にあたっての取組	2
第３　将来都市像別推進計画 ○１章 豊かで活力に満ちたまち ○２章 緑あふれる環境を備えた快適なまち ○３章 健康で安全安心に暮らせるまち ○４章 家族と地域が支えあう元気なまち ○５章 人と文化をはぐくむ誇れるまち	13 16 36 52 65 83
第４　成長戦略別推進計画	95
第５　財政推計	106
第６　地域別整備方針	107
参考　指標一覧	111

第１　推進計画の意義

１　推進計画の位置づけ

推進計画は、基本構想で定めた基本理念を踏まえ、平成28年度から32年度までの５年間の計画期間を通した政策ごとの基本方針を定めたものであり、その実現に向けた具体的な取組を示しています。

２　推進計画の構成

推進計画は、計画実施にあたっての取組、将来都市像別推進計画、成長戦略別推進計画、財政推計および地域別整備方針で構成しています。

(1) 計画実施にあたっての取組

行政サービスの向上や行財政改革の推進など、行政経営における具体的な取組と、基本構想に掲げた「計画推進にあたっての視点」ごとの、計画期間内の方針と具体的な取組を示しています。

(2) 将来都市像別推進計画

将来都市像ごとに「政策」「施策」「取組・事業」を体系化し、計画期間内の取組・事業の方向性や基本的な考え方を示す「施策の視点」、施策ごとの「指標」、「取組・事業の概要」などを示しています。

(3) 成長戦略別推進計画

将来都市像別の体系にとらわれずに、本市の成長を牽引すべき分野において設定した成長戦略について、重点プログラムごとにねらいと計画期間内の取組および成長戦略事業を示しています。

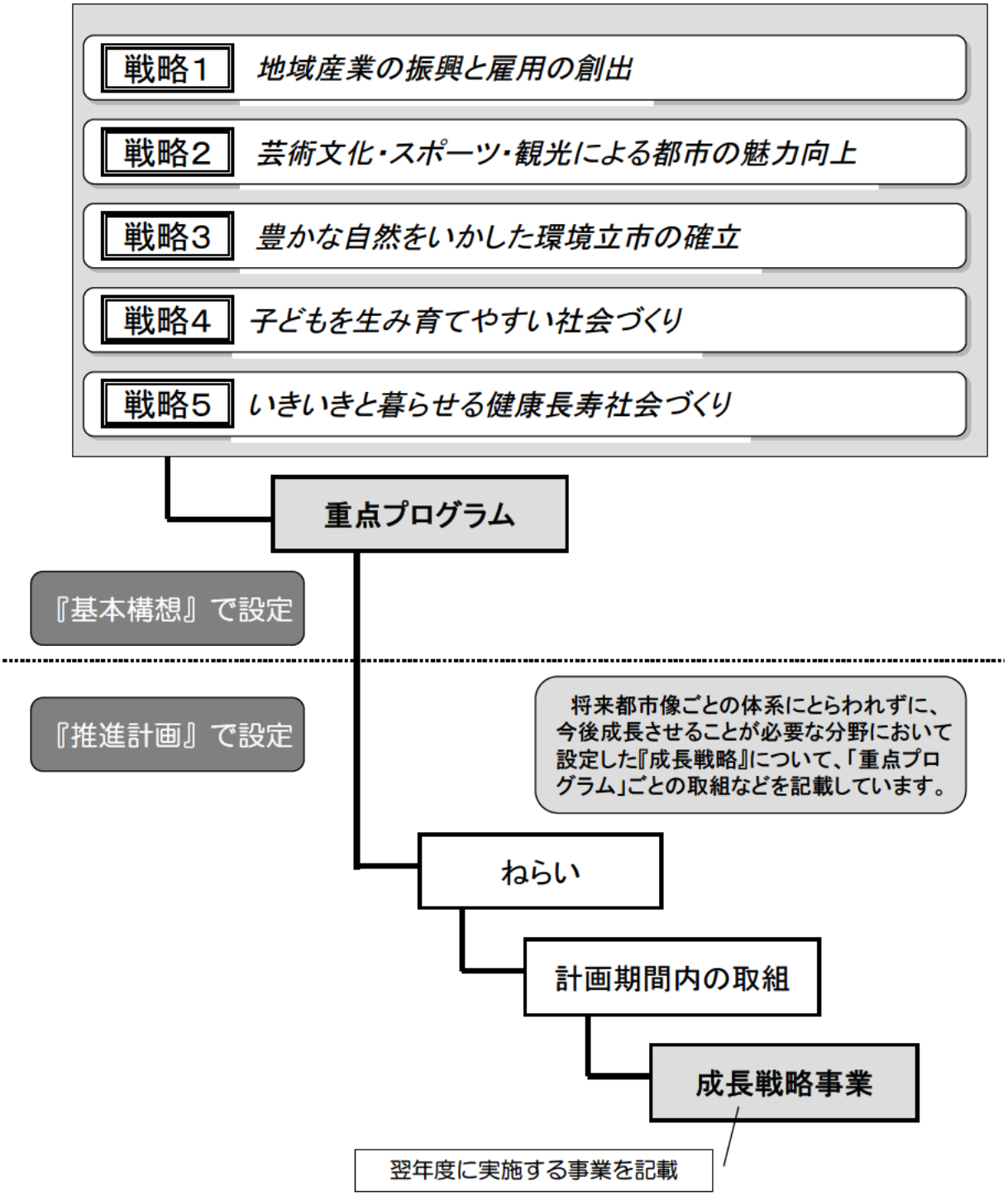
(4) 財政推計

健全な財政運営の視点を踏まえ、今後５年間の財政収支の推計を示しています。

(5) 地域別整備方針

中央・東部・西部・南部・北部・河辺・雄和の各地域の諸条件を踏まえた地域別整備方針を示しています。

第４　成長戦略別推進計画



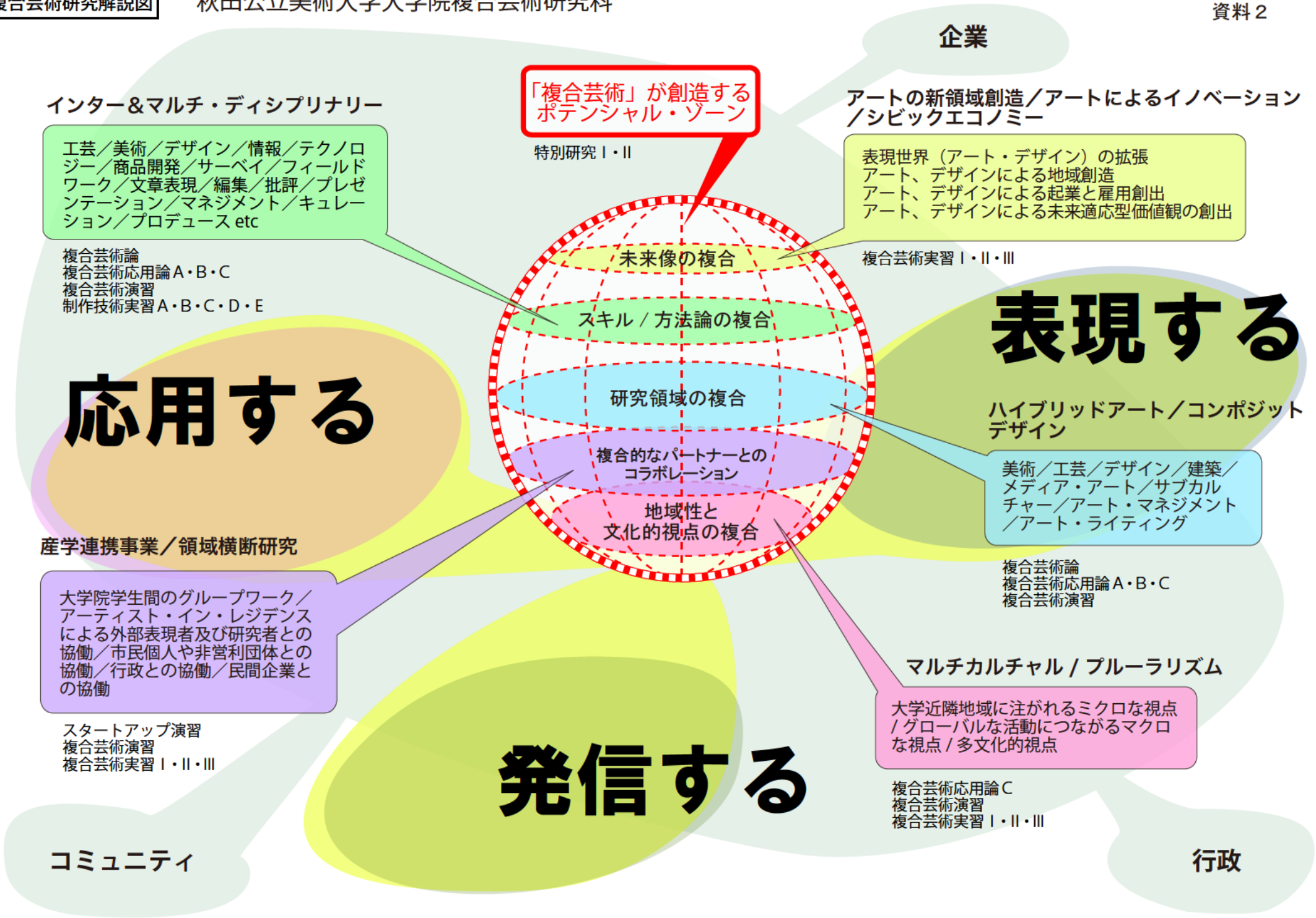
戦略２　芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上

重点プログラム	ねらい
Ⅰ　芸術文化によるまちおこし	秋田ならではの芸術文化事業を充実させることにより、多くの市民が優れた芸術文化に触れ、参加する機会を創出するとともに、国内外に広くアピールすることで秋田市への注目度を高め、交流人口の増加を促し、文化の力による感動とときめきのまちづくりを進めます。 特に中心市街地では、県・市連携文化施設を「県都の顔」となる施設として整備し、「文化芸術ゾーン」を形成することで、都市の魅力向上につなげます。
Ⅱ　トップスポーツへの支援	人々を熱く感動させるスポーツの力をまちづくりの原動力とすべく、本市をホームタウンとするトップスポーツチームを支援し、地域意識の高揚や地域イメージの向上、秋田に来るアウェーチーム応援団による交流人口の増加を目指します。
Ⅲ　観光振興とセールス・プロモーションの強化	県や観光連盟などとの協働により、観光・文化・スポーツ団体等のコンベンションを誘致し、交流人口の拡大につなげます。

計画期間内の取組	成長戦略事業（平成28年度）
秋田市の「顔」である中心市街地を核として、アート、音楽、舞台、伝統芸能など様々な分野の質の高い芸術文化事業を展開し、秋田市の文化的魅力を国内外にアピールします。 また、秋田公立美術大学と連携したアートによるまちづくり、秋田の舞踏に根ざした国際ダンスフェスティバルや(仮称)あきた芸術祭等の開催に取り組むほか、地域にある町家など景観上重要な建造物等の保全に対する補助により、市民協働による景観まちづくり活動の推進等に取り組みます。 中心市街地については、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画を策定し、内閣総理大臣の認定を目指すとともに、認定後は、各事業の実施と目標指標の達成状況について進捗管理を行います。	【中心市街地における「文化芸術ゾーン」の形成等】 ・（仮称）あきた芸術祭検討経費 ・県・市連携文化施設整備推進経費 ・芸術文化交流施設整備事業 ・国民文化祭アフターイベント開催経費 ・中心市街地活性化基本計画推進経費 ・中心市街地文化創造発信事業 ・中心市街地にぎわい創出事業 ・中心市街地循環バス運行事業 ・「美術館の街」活性化事業 ・子育て・学び・文化サテライト関係経費 ・アトリオン活性化事業 ・官民連携秋田駅周辺活性化事業 【地域資源の活用等】 ・景観重要建造物等保存事業費補助金 ・文化財イラストマップ作成事業
秋田ノーザンハピネッツの新リーグでの活躍、ブラウブリッツ秋田のJ2昇格、秋田ノーザンブレッツR.F.Cのトップリーグ昇格というそれぞれの目標を支援し、地域住民の応援気運を盛り上げます。	【トップスポーツへの支援】 ・スポーツホームタウン推進事業
首都圏や関西圏における観光PR活動や各分野のコンベンション誘致のほか、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京五輪・パラリンピックの事前合宿誘致や海外からの誘客に向けた取組を展開します。	【観光資源の活用・整備】 ・秋田市の魅力再発見事業 ・観光タクシー活用促進事業 ・オール秋田「食と芸能」大祭典事業 ・道の駅「あきた港」にぎわい創出事業 ・動物園にぎわい創出事業 ・動物園アートギャラリー開催経費 ・佐竹史料館施設整備事業 ・国指定名勝如斯亭庭園保存整備事業 ・北前船寄港地間交流促進事業 【セールス・プロモーション等】 ・観光プロモーション事業 ・秋田市観光振興協働交付金 ・大型コンベンションおもてなし推進事業 ・「ラグビーワールドカップ2019」キャンプ地誘致事業

複合芸術研究解説図　秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科

資料２



社会貢献センター活動実績

受託事業等一覧

年度	分類	タイトル	委託者	研究期間	対象
25年度	研究	秋田市土産品開発プロジェクト開発商品パッケージデザイン	秋田市	25年9月～10月末	教員
	研究	雪国仕様のローコスト版ソーラー街灯のデザイン開発	株式会社アイセス	25年10月～26年3月末	教員
	研究	県産品を使用した全農オリジナル商品における外装パッケージデザイン及び紹介パンフレット作成	全国農業協同組合連合会秋田県本部	26年2月～26年3月末	教員
26年度	研究	y2アートプロジェクトの推進研究	第29回国民文化祭秋田市実行委員会（秋田市企画財政部国民文化祭推進室）	26.05.29～26.09.30	教員
	研究	FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会におけるロゴマーク及びポスターのデザイン	FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会組織委員会	26.10.01～27.02.28	教員
	研究	秋田市土産品プロジェクト開発商品パッケージデザイン研究	秋田市(企画調整課)	27.01.05～27.03.22	教員
	研究	ガラス工芸普及啓発事業	秋田市(企画調整課)	26.09.02～27.03.31	教員
	研究	秋田大学医学部附属病院サイン計画	秋田大学	26.08.01～27.05.29	教員
27年度	事業	ガラス工芸普及啓発事業	秋田市(企画調整課)	27.04.01～28.03.31	教員
	事業	国民文化祭メモリアルフェスティバル in AKITA 大森山動物園アートギャラリー事業	秋田市(大森山動物園)	27.06.16～28.03.31	教員
	事業	北前船文化調査研究事業	秋田市(企画調整課)	27.07.15～28.03.25	教員
	事業	たざわ湖スキー場2015～2016シーズン広報ポスター及びパンフレット表紙のデザイン	田沢湖高原リフト株式会社	27.08.03～27.10.30	教員
	事業	ポニー像制作事業	ポニーランド仁真園	27.09.29～28.03.25	教員
	事業	FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会におけるロゴマーク及びポスターのデザイン	FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会組織委員会	27.11.18～28.03.01	教員
	事業	秋田駅周辺活性化デザイン検討業務	東日本旅客鉄道株式会社	27.12.03～28.03.18	教員
	事業	秋田市土産品プロジェクト開発商品パッケージデザイン研究	秋田市(企画調整課)	27.12.03～28.03.22	教員

受託事業（学生公募）一覧

年度	分類	タイトル	委託者	募集期間	対象
25年度	公募	秋田銀行2014年カレンダー表紙案公募	株式会社秋田銀行	25.07.04～25.08.16	学生
	公募	秋田テレビ開局45周年記念ロゴおよびキャッチコピー公募	秋田テレビ株式会社	25.07.04～25.09.01	学生
	公募	(仮称)南部市民サービスセンターロゴマーク公募	秋田市（市民生活部地域市民協働・地域分権推進課）	25.08.13～25.10.14	学生
	公募	湯沢市産なめこ販売パッケージラベルシールデザイン公募	湯沢市（産業振興部農林課林務班）	25.12.03～26.02.07	学生
26年度	公募	秋田住宅流通センターOCCコンペ	株式会社秋田住宅流通センター	26.07.17～26.09.30	学生、卒業生
	公募	秋田銀行2015年カレンダー表紙案公募	株式会社秋田銀行	26.07.24～26.08.20	学生、卒業生
	公募	新屋駅壁面ペイントデザインコンペ	秋田市（交通政策課）とJRの共同企画	26.10.17～26.11.07	大学生
	公募	（仮称）東部市民サービスセンターロゴマーク公募	秋田市（市民生活部地域市民協働・地域分権推進課）	26.11.28～27.01.16	学生、卒業生
	公募	秋田県中小企業応援キャラクター公募	秋田県（産業労働部産業政策課）	27.01.29～27.03.10	学生、卒業生
27年度	公募	日本女性会議2016秋田大会シンボルマーク＆ロゴデザイン公募	日本女性会議2016秋田実行委員会 (秋田市/市民生活部市民生活部地域市民協働・地域分権推進課)	27.06.16～27.07.17	学生、卒業生
	公募	秋田銀行2015年カレンダー表紙案公募	株式会社秋田銀行	27.07.23～27.08.20	学生、卒業生
	公募	(仮称)中央市民サービスセンターシンボルマーク＆ロゴデザイン公募	秋田市（市民生活部地域市民協働・地域分権推進課）	27.08.5～27.09.30	学生、卒業生
	公募	雪戦隊なまはげロゴマークデザイン公募	秋田県(秋田空港管理事務所)	27.08.11～27.09.24	学生
	公募	雪戦隊なまはげシンボルキャラクター＆ロゴデザイン公募	秋田県(秋田空港管理事務所)	27.11.13～27.12.18	学生、卒業生

美術学部と大学院研究科の関連図

人材像

芸術表現を探求・実践していく人材	アート／デザインの視点から地域貢献する人材	研究成果をテキスト／アートワークで発信する人材
テクノロジーの活用等、異なる分野との複合をもとに既存の枠を超えた新しい芸術表現を実践していく人材	アート・マネジメントやソーシャル・デザイン（コミュニティ・デザイン）の視点から、地域課題の解決や社会的起業等に結びつく提案を実践し、幅広く地域に貢献していく人材	実体験を踏まえた現代芸術活動の検証・研究成果を発信しながら、アートを通じた地域貢献に関するシンクタンクを形成し、現代芸術の発展に貢献する人材

大学院研究科《修士課程》

研究科で行う実践的カリキュラム　（複合芸術論・演習・実習）

表現複合 ～異なる分野との複合～	自らの表現手法をもとに、情報技術等のテクノロジーの複合による新たな芸術表現を探求しながら、社会へ価値ある表現を発信していく能力の修得と新たな発見を広く社会に提言していく研究
アート・マネジメント ～アートのまちおこし～	社会動向や地域特有の事情を捉え、アートによる文化政策支援やまちおこしなど、対象に応じた提案を具体化し、実行する能力の修得とそれらを題材とした現場での研究
ソーシャル・デザイン （コミュニティ・デザイン） ～社会的起業・地域産業～	デザイン思考をもとに、地域課題の解決や地域産業の振興に貢献するとともに、自らも社会的起業等で雇用を創出する能力の修得と、それらを題材とした現場での研究

研究科の対象領域

アート分野 【アーツ＆ルーツ ・ビジュアルアーツ】	デザイン分野 【景観・コミュニケーション・工芸】	芸術学分野
アート分野を基盤とするアート・イベントやアート・マネジメントの展開	デザイン思考による建築・社会・ものづくりの領域横断的視点から、価値ある表現や地域貢献を実践	現代芸術に関する理論的思考や批評理論を踏まえたアート・ライティング等

美術学部美術学科《学士課程》

ビジュアルアーツ専攻 【美術領域】	アーツ＆ルーツ専攻 【美術領域】	景観デザイン専攻 【建築景観系デザイン領域】	コミュニケーションデザイン専攻 【デザイン領域】	ものづくりデザイン専攻 【工芸およびプロダクト系デザイン領域】
新しい芸術表現を模索・発信しながら、現代の芸術領域の多元性を理解し、多様な価値を共有できる視点を持つアーティストを育成	地域社会の求める価値を理解し、土地の歴史や文化に根ざした芸術を創造できるアーティストを育成	各種デザインのスキルを持ち、まちづくりをはじめとする地域活性化に寄与できる総合デザイナーを育成	各種デザインのスキルを持ち、新たなデザインを生み出したり、地域の活性化に寄与できるデザイナーを育成	各種工芸のスキルを持ち、新たなデザインを生み出したり、地域の活性化に寄与したりすることのできるデザイナーやアーティストを育成

秋田公立美術大学学則（抜粋）

平成25年４月１日
規　程　第　１　号

目次

第１章　総則
第１節　目的等（第１条－第６条）
第２節　運営組織（第７条－第16条）
第３節　学年、学期および休業日（第17条－第19条）
第２章　学部通則
第１節　修業年限および在学年限（第20条－第21条）
第２節　入学（第22条－第30条）
第３節　教育課程、履修方法、単位の認定等（第31条－第37条）
第４節　休学、復学、転学、留学、退学および除籍（第38条－第44条）
第５節　卒業、学位および資格（第45条－第48条）
第６節　授業料等（第49条）
第７節　厚生補導（第50条）
第８節　福利厚生施設（第51条）
第９節　賞罰（第52条－第53条）
第10節　研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生および外国人留学生（第54条－第58条）
第３章　共同研究および受託研究（第59条）
第４章　社会貢献（第60条）
第５章　補則（第61条）
附則

第１章　総則

第１節　目的等

（目的）

第１条　秋田公立美術大学（以下「本学」という。）は、広く知識を授け、

深く専門の芸術を教授研究することによって、豊かな創造性とグローバルな視野を持った人材を育成するとともに、芸術文化の発展と地域社会に貢献することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

２　本学に、前項の点検および評価を行うため、秋田公立美術大学自己評価委員会を置く。

３　秋田公立美術大学自己評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（学部、学科、定員等）

第３条　本学に、美術学部を置く。

２　美術学部に、美術学科を置き、学科の定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員	収容定員
美術学科	100人	３年次　10人	420人

３　美術学科に、次の専攻を置く。

(1) アーツ＆ルーツ専攻

(2) ビジュアルアーツ専攻

(3) ものづくりデザイン専攻

(4) コミュニケーションデザイン専攻

(5) 景観デザイン専攻

４　美術学科に、美術教育センターを置く。

（附属図書館）

第４条　本学に、附属図書館を置く。

２　附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

（社会貢献センター）

第５条　本学に、産学官が連携して行う事業、知的財産を管理する事業、地域と連携して行う事業、高校と連携して行う事業その他の社会貢献に資する事業を一元的に支援するための組織として、社会貢献センターを

国内における「複合芸術」の活用事例

事例１：国立大学法人　東京芸術大学　中期計画

（抜粋）

【中期計画：６（３－２）地域社会や産業界、海外関係機関等との連携協力により、実践的な教育研究 の場をつくり、**複合芸術教育** を行う。】

・ 引き続き、地域社会や産業界、海外関係機関等との連携を通じた実践的な教育研究を展開する。

【中期計画：22（１－４）芸術分野の他領域の研究者と連携 し、**複合的領域の研究** を実施する。】

・ 学部・研究科等を超えた横断的連携のもと、複合的領域の研究を引き続き展開する。

（出典：平成 27 年度　国立大学法人東京芸術大学　年度計画公表資料）

事例２：公立大学法人　愛知県立芸術大学　美術研究科　博士前期課程　プロジェクト研究

（抜粋）

複合領域 での研究体制の強化と実践、大学に望まれる地域貢献、社会貢献などを目的とするプロジェクトを設定し、学修成果と実践的実務との融合を計ります。また、領域を越えた 2 つ以上の研究室が企画立案し実施するプロジェクト研究を行っています。

複合芸術プロジェクト

芸術多領域：平面、立体、空間、映像、音楽、メディアなど **芸術多領域の複合研究**

表現の多様化から既存の研究分野だけでは対応出来ない様々な芸術表現を、研究領域にとらわれない学際的な関わりで研究、実践を行う。演劇やオペラ等も含まれる。

大学のコースでの *Transdisciplinary* の使用例

- The New School PARSONS – *Transdisciplinary* Design (Master of Fine Arts)
  アメリカ、ニューヨーク
  概要：コラボレーションを基盤としたリサーチと、システムを基本とした社会イノベーションを推奨するデザインの修士コース。学内の各ジャンルの授業互換だけでなく学外の業界リーダーやアーティスト、現代社会との関わりを深め、新しい視野やキャパシティーの幅を拡げる。

- Zurich University of the Arts (ZHdK) – MA *Transdisciplinary* Studies
  スイス、チューリッヒ
  概要：アーツ、科学、社会の３つの学問分野の接点と交点の中心となる、開かれた視野や疑問、解決方法を学ぶ。専門知識を深めるため、学外のプロフェッショナルな人材に直に教わり、グローバルな社会との関わりを持つ。

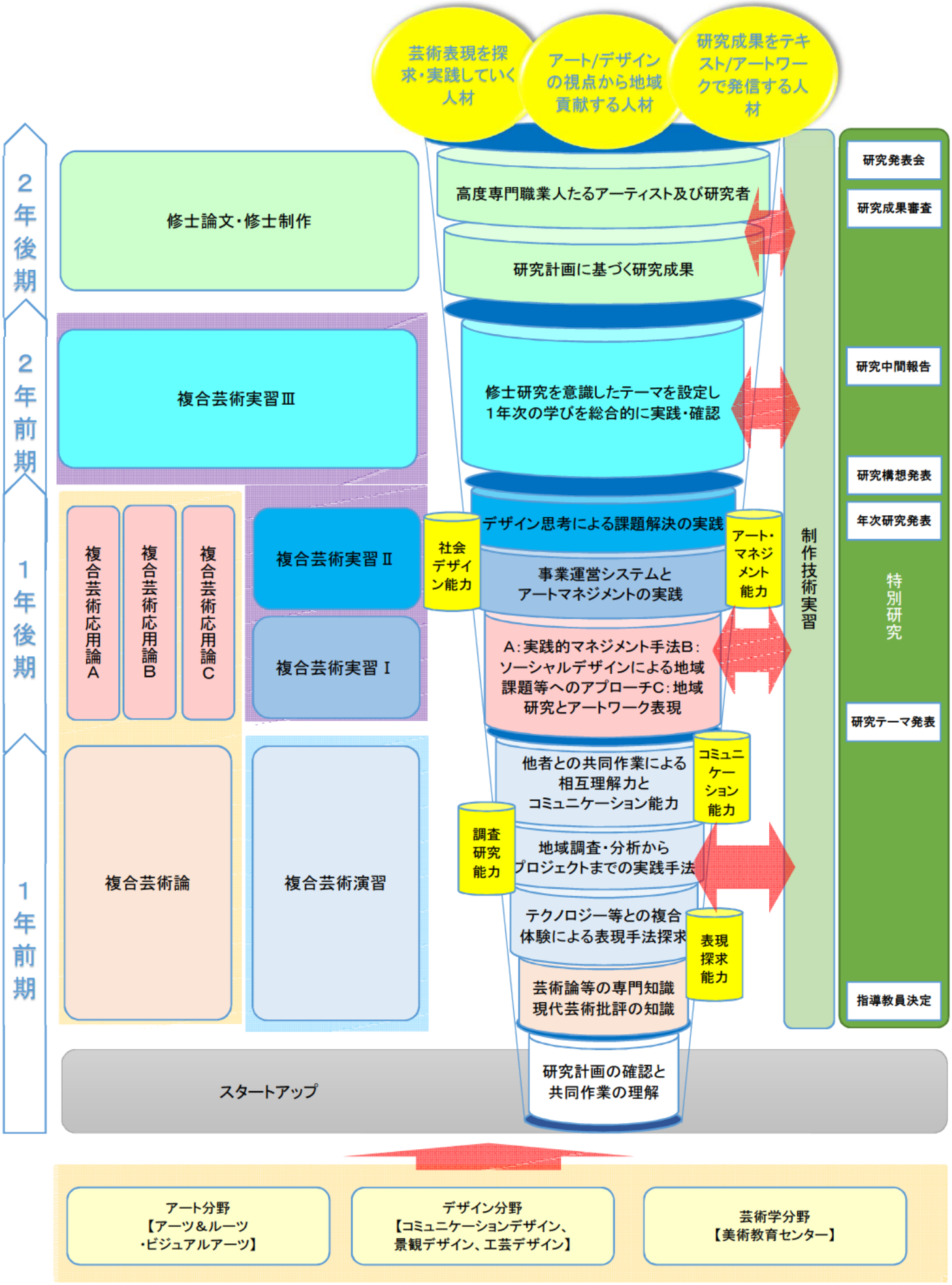
- Paris College of Art – Masters in *Transdisciplinary* New Media
  フランス、パリ
  概要：伝統的な芸術やデザインを超え、チームワーク（コラボレーション）を通して幅広いジャンルのクリエイティブフィールドを構築する。コラボレーションのジャンルとしては、オンライン/伝統的な出版、ビデオゲーム、アートインスタレーション、展示、ライブパフォーマンス、ウェブデザイン、インタラクション/インターフェイスデザイン、ソフトウェア開発など。

- Xi'an Jiaotong – Liverpool University, MDes Transdisciplinary Design
  中国、西安市
  概要：プロダクトデザイン、エンジニアリングに特化した、大学卒業後または社会人のためのプログラム。異文化間のデザインやプロダクト、サービスとシステムに対するアプローチを目指す。

- 東京工業大学環境・社会理工学院融合理工系 Transdisciplinary Science and Engineering
  東京
  概要：既存の学問体系の枠に囚われず俯瞰的視野に立った新たな技術・価値・概念の創出を行える人材の育成を目的として、理工学の体系を理解しながらもその枠に囚われずに、国際社会全体が抱える複合的問題の解決に寄与し、社会で求められる新たな技術・価値・概念の創出に貢献できる能力の涵養を目標とする。さらに、異分野技術者との国際協働で力を発揮できるコミュニケーション能力、複合的プロジェクトや組織を動かすマネジメント能力などを備えたグローバル理工系人材を養成する。

資料8

大学院カリキュラム概念図



複合芸術演習・複合芸術実習概念図

芸術表現を探求・実践していく人材

アート/デザインの視点から地域貢献する人材

研究成果をテキスト／アートワークで発信する人材

2年

修士論文・修士制作

複合芸術実習Ⅲ

個々の研究テーマに則した作品制作・研究を実社会におけるプロジェクトベースで実践

- プロジェクト企画
- グループでの実践
- 検証からの学び

1年後期

複合芸術実習Ⅱ

ソーシャルデザインの提案（社会的課題解決・フィールドワーク、複合表現技術、社会的起業）

- まちづくり
- 少子高齢社会
- 雇用創出

複合芸術実習Ⅰ

マネジメントの実践（リサーチ、企画立案、運営、作品制作、成果批評、アーカイブを分担）

- 作品制作
- ワークショップ
- イベント運営

複合芸術実習

修士研究テーマ確定

1年前期

企画具体化手法

- プロトタイピングメソッド（モデル制作）
- 総合デザイン
- ワークショップ開発Ⅰ・Ⅱ

成果発信手法

- インフォグラフィクス
- メディア・リテラシー
- 言語表現・アートライティング

表現技術手法

- プロトライピングメソッド（3Dプリンタ）
- メディア表現・電子工作

調査研究手法

- 地域プロジェクト批評
- 地域研究

複合芸術演習

秋田公立美術大学美術学部卒業生
（5専攻で身につけた表現能力を基盤として）

他大学卒業生
（学部で身につけた能力・知識を基盤として）

資料10

実習連携承諾書

平成２８年３月４日

公立大学法人秋田公立美術大学
理事長　霜　鳥　秋　則　様

秋田市長　穂　積　　志

平成 29 年４月に開学予定の秋田公立美術大学大学院が実施する「複合芸術実習Ⅰ～Ⅲ」（修士課程）について、下記のとおり実習に際しての連携を承諾します。

記

団体名	秋田市
所在地	秋田市山王一丁目１番１号
実習科目名	複合芸術実習Ⅰ及びⅡ（１年次後期） 複合芸術実習Ⅲ（２年次前期）
実習場所	秋田市内各所
実習連携開始時期	平成 29 年４月～　※実習準備期間を含む
連携内容	秋田市が進める「芸術文化のまちづくり」に沿った実践的事業等による実習
留意事項	実習内容については、科目の目的に沿ったものとなるよう、事前に十分な協議を行う。

実習連携承諾書

平成28年 3月 1日

公立大学法人秋田公立美術大学
理事長　霜　鳥　秋　則　様

株式会社秋田ケーブルテレビ
代表取締役社長　松浦 隆一

平成29年4月に開学予定の秋田公立美術大学大学院が実施する「複合芸術実習Ⅰ～Ⅲ」（修士課程）について、下記のとおり実習に際しての連携を承諾します。

記

法人名	株式会社秋田ケーブルテレビ
所在地	秋田市八橋南一丁目1-3
実習科目名	複合芸術実習Ⅰ及びⅡ（1年次後期） 複合芸術実習Ⅲ（2年次前期）
実習場所	秋田ケーブルテレビ（BIYONGPOINT）及び秋田市内各所
実習連携開始時期	平成29年4月～　※実習準備期間を含む
連携内容	秋田ケーブルテレビの映像コンテンツ制作等の技術力をいかした実践的事業等による実習
留意事項	実習内容については、科目の目的に沿ったものとなるよう、事前に十分な協議を行う。

秋田公立美術大学大学院カリキュラム年間イメージ

修士1年生

前期：4月（1week〜4week）、5月（5week〜7week）、6月（8week〜11week）、7月（12week〜15week）

後期：9月〜2月（1week〜15week）

夏季休暇

導入科目（5コマ×6日）
- スタートアップ（研究計画含）2単位

複合芸術科目
- 複合芸術論（・・・・・・）2単位　15コマ

複合芸術演習（8単位　月曜・木曜　3限・4限）
- 地域プロジェクト批評
- 地域研究
- メディア・リテラシー
- 総合デザイン
- インフォグラフィクス
- メディア表現・電子工作
- プロトタイピングメソッド
- 言語表現・アートライティング
- ワークショップ開発Ⅰ
- ワークショップ開発Ⅱ

複合芸術実習（月・水・金　3限・4限）
- 複合芸術実習Ⅰ（プロジェクト）2単位　45コマ（7週）
- 複合芸術実習Ⅱ（プロジェクト）2単位45コマ（7週）

特別研究（火曜　5限）
- 特別研究Ⅰ（修了制作・修士論文に向けた指導）2単位　15コマ（隔週）
- 研究テーマ発表
- 年次制作研究発表

制作技術実習（水曜5限（隔週））
- 制作技術実習A1〜E1（技術を高める）1単位　15コマ（隔週）

複合芸術応用論
- 複合芸術応用論A（アートマネジメント）2単位　15コマ
- 複合芸術応用論B（ソーシャルデザイン）
- 複合芸術応用論C（批評理論・アートライティング）2単位　15コマ

修士2年生

前期：4月（1week〜4week）、5月（5week〜7week）、6月（8week〜11week）、7月（12week〜15week）

後期：9月〜2月（1week〜15week）

夏季休暇

複合芸術実習（単位　火曜3限　金曜　3限・4限）
- 複合芸術実習Ⅲ　2単位　45コマ

特別研究（火曜　5限）
- 後期博士課程手上げ
- 修士研究構想発表
- 特別研究Ⅱ（修了制作・修士論文に向けた指導）4単位　30コマ
- 中間報告制作・論文
- 予備審査1
- 論文中間発表
- 特別研究Ⅱ　修了制作・修士論文に向けた指導）
- 予備審査2
- 修了制作論文審査
- 修了制作論文発表会

制作技術実習（水曜5限（隔週））
- 制作技術実習A2〜E2（技術を高める）1単位　15コマ（隔週）
- 制作技術実習A2〜E2（技術を高める）

資料12

秋田公立美術大学大学院時間割

時間割（1年次前期）

	月	火	水	木	金
1					
2	複合芸術論 （院生室）				
3	複合芸術演習 （作業スペース）			複合芸術演習 （作業スペース）	
4	複合芸術演習 （作業スペース）			複合芸術演習 （作業スペース）	
5		特別研究Ⅰ（隔週） （大学院棟）	制作技術実習 A1～E1（隔週） （教員室・工房）		
6					

時間割（1年次後期）

	月	火	水	木	金
1					
2	複合芸術応用論A （院生室）	複合芸術応用論B （院生室）	複合芸術応用論C （院生室）		
3	複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ （作業スペース）		複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ （作業スペース）		複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ （作業スペース）
4	複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ （作業スペース）		複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ （作業スペース）		複合芸術実習Ⅰ・Ⅱ （作業スペース）
5		特別研究Ⅰ（隔週） （大学院棟）	制作技術実習 A1～E1（隔週） （教員室・工房）		
6					

時間割（2年次前期）

	月	火	水	木	金
1					
2					
3	複合芸術実習Ⅲ （作業スペース）				複合芸術実習Ⅲ （作業スペース）
4					複合芸術実習Ⅲ （作業スペース）
5		特別研究Ⅱ （大学院棟）	制作技術実習 A2～E2（隔週） （教員室・工房棟）		
6					

時間割（2年次後期）

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5		特別研究Ⅱ （大学院棟）	制作技術実習 A2～E2（隔週） （教員室・工房棟）		
6					

文化庁 平成27年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業

AKIBI plus

ローカルメディアと協働する
アートマネジメント人材育成事業

- Project Ⅰ　地域課題研究＋ウェブメディア
- Project Ⅱ　学際的プロジェクト～秋田市民の図工と愛の時間～＋テレビ
- Project Ⅲ　地域課題応答型アーティスト・イン・レジデンス運営＋ローカルテレビ
- Project Ⅳ　ローカルメディア協働プロジェクト＋ラジオ＋ドキュメント
- Project Ⅴ　地域における芸術文化活動の評価基準＋新聞

Project Ⅰ　地域課題研究 ＋ ウェブメディア

〈地域課題研究とウェブメディアによる発信〉

8/8(土)　**辺境と芸術：アートは「地方」といかに向き合うのか？**　アートを支える「都市と地方」（中心と周縁）という枠組みを見直し、地域の未来を考える。

講師：藤 浩志（秋田公立美術大学教授）／芝山 昌也（金沢美術工芸大学准教授）／土屋 誠一（沖縄県立芸術大学准教授）
石倉敏明（人類学者/秋田公立美術大学講師）／ 場所：秋田公立美術大学 大講義室

9/12(土)　**男鹿半島空き家ツアー**
男鹿半島の空き家を見学することから、廃墟空間の課題と今後のあり方を研究する。
講師：磯田 真（里山カフェにぎまき等）／ 山本 太郎（秋田公立美術大学准教授）／ 場所：男鹿半島一帯（秋田市発着ツアー）

10/18(日)　**農民彫刻家：皆川嘉左エ門氏とめぐる県南地域の旅**
皆川嘉左エ門氏が手がける県南の神社、道祖神などを見学しながら生活と芸術を結ぶ地域課題を考える。
講師：皆川 嘉左エ門（農民彫刻家）／ 皆川 嘉博（秋田公立美術大学准教授）／ 場所：秋田県南地域一帯（秋田市発着ツアー）

11/7(土)　**「シェアビレッジ」から始まる新たなネットワーク構築**
地域の自然・文化資源をめぐるフィールドワーク吉見家を利用したシェア・ハウスの事例などを見学。
講師：柳澤 龍（五城目町地域おこし協力隊）／石倉敏明（秋田公立美術大学講師）／ 場所： 秋田県南秋田郡五城目町（秋田市発着ツアー）

男鹿半島空き家ツアー

活動概要

ローカルメディアと協働して地域課題に取り組むために、まずは地域課題の掘り起こしとアートによる応答の可能性を検討します。講座はおもに秋田公立美術大学の教員（美術家、文化人類学者等）がホストとなり、ゲストに秋田県内外で地域を基盤に活躍するキーパーソンを招き、人口流出、少子化、伝統文化の継承等、地域における切実な課題を一つずつ取り上げ、アートがそこに介入する可能性を検討し、その記録をウェブメディアによって発信します。

前期レポート

Project1では、ウェブメディア「秋田経済新聞」で講座概要を随時配信し、ウェブマガジン「ユカリロ」では市民寄りにした視点で記事を作成して配信するなどのコラボレーションを試みています。導入となるシンポジウムでは地方における文化格差を前提に基本的な教養の復興など、（敢えて）モダニストとしての立場から問題提起された美術批評家の土屋氏を中心にさまざまな意見が飛び交う濃厚な時間でした。また、受講生が実際に土地を訪れて地域課題への理解を深める試みの男鹿のバスツアーでは独田真氏の多岐にわたる男鹿のお話を聞きながら実際に空き家を巡りました。第2回の県南地区のバスツアーでは皆川嘉左エ門氏の手がけた道祖神や神社をまわり、「継承」というキーワードをもとに地域に根差した創作活動のレクチャーを受けました。最後の五城目バスツアーでは「交換と共有」をテーマに地域おこし協力隊員である柳澤氏の熱のこもったレクチャーと町に宿る潜在力を感じながら土地の時層を行き来するツアーとなりました。全バスツアーでは、「その土地で生き延びることやその切実さに触れて真剣に向き合いたい」という意見も聞かれ、地域課題を理解した上でより内容を深めるべく架空のイベントを考えたり、地域のキャッチコピーを考えたり、レポートを課すなどして、アートと地域の文脈を結びつけながら思考し、発信しています。

皆川嘉左エ門氏が会を制作した「鹿島様」見学

Project Ⅱ　学際的プロジェクト ～秋田市民の図工と愛の時間～ ＋ テレビ

〈学際的プロジェクトの企画運営とテレビ的手法による発信〉

7/13(月)　**アートマネージメントから見る芸術と道徳**　芸術を道徳という視点から捉え直し表現の意味について考える

講師：藤 浩志（秋田公立美術大学教授）／ 田中 喜人（放送作家）／ 毛内 嘉威（秋田公立美術大学教授）／ 有馬 寛子（秋田公立美術大学美術教育センター）
場所：秋田駅前アーケード下

9/14(月)　**美の本質と善(道徳)**　他の視点から美の本質を捉え直し、芸術の意味について考える

講師：横山 利弘（関西学院大学名誉教授）／ 吉岡 洋（京都大学教授）／ 田中 喜人（放送作家）／ 藤堂 由美（秋田朝日放送）／ 毛内 嘉威（秋田公立美術大学教授）
／ 有馬 寛子（秋田公立美術大学美術教育センター）／ 場所：秋田公立美術大学 大講義室

10/26(月)　**芸術と道徳**　道徳があっての芸術？ 情操教育と芸術の可能性？

講師：押谷 由夫（道徳教育/昭和女子大学教授）／ 宮澤 芦子（秋田公立美術大学教授）／ 田中 喜人（放送作家）／ 藤堂 由美（秋田朝日放送）／ 毛内 嘉威（秋田公立美術大学教授）／ 有馬 寛子（秋田公立美術大学美術教育センター）／ 場所：秋田公立美術大学 大講義室

11/30(月)　**日本人の道徳と芸術 ～秋田からの発信～**

講師：鈴木 真弓（東京国立博物館員）／ 南島 秋則（秋田公立美術大学学長）／ 大谷 有花（秋田公立美術大学准教授）／ 田中 喜人（放送作家）
藤堂 由美（秋田朝日放送）／ 毛内嘉威（秋田公立美術大学教授）／ 有馬 寛子（秋田公立美術大学美術教育センター）／ 場所：秋田公立美術大学 大講義室

活動概要

道徳教育の研究者や秋田公立美術大学の教員を講師に迎え、来年開催される日本道徳教育学会と芸術的実践を融合させるプロジェクトをベースに領域横断的な企画の発想法・運営を開発します。さらに放送作家を招き、異分野間の摩擦や化学反応をテレビのノウハウを活かして発信する方法を学びます。

前期レポート

「芸術と道徳」という一般的には小難しいテーマを「秋田市民の図工と愛の時間」と訳し、テレビの手法を取り入れて異分野同士の化学反応を起こしてみようというこのプロジェクト。第1回目はどのようにしたら市民の皆さんへ芸術と道徳をわかりやすく伝えることができるのかを考え抜いた末、駅前のアーケード下の空間で、ゲリラ的に公開シンポジウムという形で実施しました。ナビゲーター役の毛内氏は、秋田市民の代表となり、一見難しく思える「美術」に対する素朴な疑問や興味・関心を2人の講師へ投げかけ、2人がそれに答えるという形で進行しました。途中フリップ形式の質問コーナーもあり、テレビ的な工夫もみられました。また第2回目は道徳教育の権威である横山氏と、美学者の吉岡氏を講師としてお呼びし、美の本質と善（道徳）という言葉に真正面からぶつかり合う、両氏による熱のこもったシンポジウムとなりました。第3回目は、押谷氏と志郷氏による道徳と芸術のタブーに挑戦するシンポジウムでした。会場内からも様々な意見が飛び交い、白熱した議論となりました。講義後のアンケートにはテレビ的手法によって難しいテーマが少し身近に感じたという意見や、会場の雰囲気が柔軟で導入部分で引き込まれたという意見がありました。

秋田駅前のゲリラシンポジウム

Project Ⅲ　AIR（アーティスト・イン・レジデンス） ＋ ケーブルテレビ

〈地域課題応答型アーティスト・イン・レジデンスの運営とケーブルテレビによる展開〉

7/11(土)　**安西剛「偶然のむすびかた」**　ワークショップ
講師：安西 剛（アーティスト）／ 場所：CNA本社内 秋田公立美術大学 ギャラリー BIYONG POINT（秋田市八橋南一丁目1-3）

10/8(木)～11/9(日)　**岩井優『習慣のとりこ 一踊り、食べ、排便する。』**　滞在制作
講師：岩井 優（美術家）／ 企画：慶野 結香（秋田公立美術大学助手）
場所：アラヤイチノ（秋田市新屋表町8-11）

11/6(金)～12/6(日)　**岩井優『習慣のとりこ 一踊り、食べ、排便する。』**　地域課題応答型AIRで滞在制作された作品の展覧会
講師：岩井 優（美術家）／ 企画：慶野 結香（秋田公立美術大学助手）
場所：CNA本社内 秋田公立美術大学 ギャラリー BIYONG POINT

11/6(金)　**岩井優 レクチャー**　地域課題応答型アーティスト・イン・レジデンス事業による滞在制作と成果について、作家本人からの発表を行います。
講師：岩井 優（美術家）／ 慶野 結香（秋田公立美術大学助手）
場所：CNA本社内 秋田公立美術大学 ギャラリー BIYONG POINT

安西剛のワークショップ

12/11(金)～1/24(日)　**田村一展・夜の手、千の花　ゲストキュレーターによる展覧会**

ケーブルテレビ局内に位置する本学ギャラリーから、ゲストキュレーターによる県内作家の企画展を開催し、秋田の作家をいかに発信すべきか考えます。美術館勤務を経て現在は県の文化振興に取り組まれる山本丈志氏企画のもと、陶芸家・田村一氏の作品を展観します。

・・・

陶芸家田村一（秋田市出身・1973–）の作品はもとより器である。独創的な彼の作品は刺激を求める現代の目利きたちをうならせ、「へうげ十作」の中心作家としても知られる。近年は陶芸家としての活躍だけでなく、上小阿仁プロジェクトなど現代アートのイベントに参加し、異彩を放つアーティストとして注目された。器を作る手法を用いながら、器にするという制約を離れたオブジェは硬質でシャープなエッジをもちながら、有機的なフォルムがエロスとタナトスをまとう。タイトル「夜の手、千の花」にあるように、今回の展覧会では取り組んできた様々な作品のイメージから、「手」と「花」をキーワードに新作を披露する。

山本 丈志（秋田県文化振興課副主幹）

キュレーター：山本 丈志（秋田県観光文化スポーツ部文化振興課）／ アシスタントキュレーター：佐々木 陽子（株式会社Mag）
場所：CNA本社内 秋田公立美術大学 ギャラリー BIYONG POINT ／／ 時間：9:00～18:00（12月29日～1月3日休廊）

12/11(金)　**秋田から発信する ～田村一展の企画をめぐって**

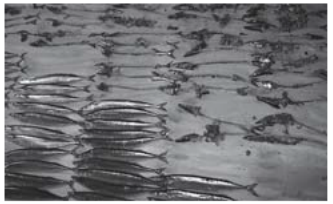
県内の作家を秋田からいかに発信すべきか。秋田の作家を取り巻く環境とこれからを考えるためのレクチャー。
講師：田村 一（陶芸家）／ 山本 丈志（秋田県観光文化スポーツ部文化振興課）／ 岩井 成昭（秋田公立美術大学教授）
場所：CNA 秋田ケーブルテレビ・エントランスホール ／／ 時間：18:30～20:00

活動概要

秋田公立美術大学が秋田のケーブルテレビ局CNA内にもつギャラリーを利用し、受講生は「地域課題応答型アーティスト・イン・レジデンス」の運営に参加します。前期はアーティストによるレクチャーおよび作品制作のプロセスに参加するワークショップを開催しました。後期は本学がアートを通した交流、AIR施設として準備を進める「アラヤイチノ」における滞在制作では地域の方々や学生と改修する作業を通して、地域に存在する小さな問題が、人口減少等の地方社会に存在する大きな課題と関連していることに着目し、それらを題材とした作品制作および展示を行う事業となります。

前期レポート

安西氏が行ったワークショップでは、絡まってしまった糸クズを「偶然のカタチ」として定義し、他者がつくった指示書をもとにホースで再現し、展覧会の出品作品である "th-read" を参加者皆で完成させました。他人の偶然を自身の経験（必然）へと転化する手法によって参加者の地域課題へと応答する意識を生み出すために、他者との協働をもたらす試みでした。さらにケーブルテレビで放送するニュース番組の編集について、どのようにするべきか立案とディスカッションを行い、またその体験を他者へいかに伝えるか考え、ケーブルテレビの協力を得てニュース番組化しました。そして岩井氏の滞在制作では今回着目したのは私たちの「習慣」。このプロジェクトを端緒として日々の何気ない生活や無意識の行為の反復が、地域や社会に影響を与えていることを浮き彫りにする試みです。そのためにアラヤイチノを24時間開放し、学生のアトリエにしたり、サンマパーティーなどのイベントを開催するなどして地域の方々を巻き込み、深くかかわりながら制作を続けました。滞在制作から生まれた作品は人々の記憶やリズムを呼び覚ます映像作品として展示されています。


岩井優が企画したサンマパーティー

Project Ⅳ　ローカルメディア協働プロジェクト ＋ ラジオ ＋ ドキュメント

2015年12月～2016年2月　**Port観光リサーチセンター　メディア・パフォーマンス＆ドキュメンテーション実習**

2014年に『宿命の交わるところ―秋田の場合』でローカルメディア協働プロジェクトを展開したPort観光リサーチセンターが展開する新しいメディアプロジェクトに参加すると同時に、プロジェクトのドキュメントを制作し、社会に発信する。

講師：Port観光リサーチセンター／髙山 明（講出演）／林 立騎（駅前者）／田中 沙季（リサーチャー）／宇賀神 雅裕（映像・録音）／大関 寛典（デザイナー）／
柴原 聡子（編集者）他（すべて予定）　場所：秋田公立美術大学および秋田市内各所 ／／ 募集定員各10名 ／／ 収容定員各10名

活動概要

一般社団法人Port観光リサーチセンターが、AKIBI plusの研修生および秋田のメディアとともに、「メディア・パフォーマンス」プロジェクトを実施し、さらにそのドキュメンテーションを行います。「メディア・パフォーマンス」とは、アートとローカルメディアのコラボレーションによってその土地に新たな可能性を見出していく試みです。Port観光リサーチセンターのプロジェクトは、①芸術活動がメディアと協働することで、地域史や地域課題に独自の表現形態を与えること、②それを実践的教育過程として実施すること、の2点を秋田で追求します。

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　授	博　士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修　士	人	人	1人	3人	人	人	人	4人	
	学　士	人	人	人	人	1人	1人	人	2人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	2人	1人	人	人	人	人	3人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修　士	人	2人	2人	3人	人	人	人	7人	
	学　士	人	人	人	人	1人	1人	人	2人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

公立大学法人秋田公立美術大学職員就業規則

平成25年４月１日
規　程　第　４　６　号

目次

第１章　総則（第１条－第４条）
第２章　人事
　第１節　採用（第５条－第９条）
　第２節　評価（第10条）
　第３節　昇任および降任（第11条・第12条）
　第４節　異動（第13条）
　第５節　休職（第14条－第17条）
　第６節　退職（第18条－第21条）
　第７節　解雇（第22条－第24条）
　第８節　退職後の責務（第25条・第26条）
第３章　給与（第27条・第28条）
第４章　服務（第29条－第36条）
第５章　勤務時間、休日および休暇等（第37条－第39条）
第６章　研修（第40条）
第７章　表彰（第41条）
第８章　懲戒処分等（第42条－第45条）
第９章　安全衛生（第46条－第51条）
第10章　出張（第52条・第53条）
第11章　福利厚生（第54条）
第12章　災害補償（第55条）
第13章　職務発明（第56条）
附則

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）第89条の規定に基づき、公立大学法人秋田公立美術大学（以下「法人」という。）に勤務する職員の労働条件、服務規律その他の就業に関する事項を定めることを目的とする。

（適用範囲）

第２条　この規則は、法人と１年を超える期間を定めた雇用契約（以下「任期」という。）を結び、又は法人と期間の定めのない雇用契約を結び、法人で勤務する職員に適用する。ただし、特定の職員についてこの規則の特例を定めた場合は、この限りでない。

２　法人と１年以下の期間を定めた雇用契約を結び、法人で勤務する者の就業に関する事項については、別に定める。ただし、雇用契約を結ぶ日から第19条に定める定年に達する日以後における最初の３月31日までの期間が１年以下の者で雇用契約を結ぶ日の前日に前項の規定に基づき１年を超える期間を定めた雇用契約を結び法人で勤務する職員であったものについては、前項の規定を適用する。

３　公益法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律（平成12年法律第50号）第２条第１項の規定および秋田市公益的法人等への職員の派遣等に関する条例（平成13年秋田市条例第37号）第２条第１項の規定に基づき、秋田市から法人に派遣される職員の就業に関する事項のうち、法人と秋田市との間で締結される職員の派遣に関する協定書に規定する事項については当該協定書を適用し、当該協定書に定めがない事項についてはこの規則を適用する。

（法令との関係）

第３条　この規則およびこれに附属する諸規程に定めのない事項については、労基法、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）その他の関係法令の定めるところによる。

（規則の遵守）

第４条　法人および職員は、誠意をもってこの規則を遵守しなければならない。

第２章　人事

る日をもって退職したものとする。

(1) 雇用契約期間が満了したとき　雇用契約期間満了日

(2) 定年に達したとき　定年に達した日以後における最初の３月31日

(3) 退職を申し出たとき　法人が退職日と認めた日

(4) 法人の役員に就任するとき　法人が退職日と認めた日

(5) 死亡したとき　死亡日

(6) 第15条に定める休職期間が満了し、休職事由がなお消滅しないとき　休職期間満了日

(7) 第14条第１項第３号に定める場合以外で行方不明となったとき　行方不明となった日の翌日から起算して30日を経過した日

（定年）

第19条　職員の定年は、年齢60年とする。ただし、教授、准教授、講師、助教および助手については、年齢65年とする。

２　教育研究又は法人運営における特別な事情があると法人が認める場合は、前項に規定する定年によらないことができる。

（再雇用）

第20条　法人は、前条の規定により退職した者については、別に定めるところにより、期間を定めてこれを再雇用することができる。

（自己都合による退職手続）

第21条　職員は、自己の都合によって退職しようとするときは、退職しようとする日の６月前までに文書をもって法人に願い出なければならない。ただし、法人が特に認めた場合は、この限りでない。

２　前項の規定により退職を申し出た者は、退職の日まで従前の業務に従事するとともに、必要事項の引継ぎを行わなければならない。

第７節　解雇

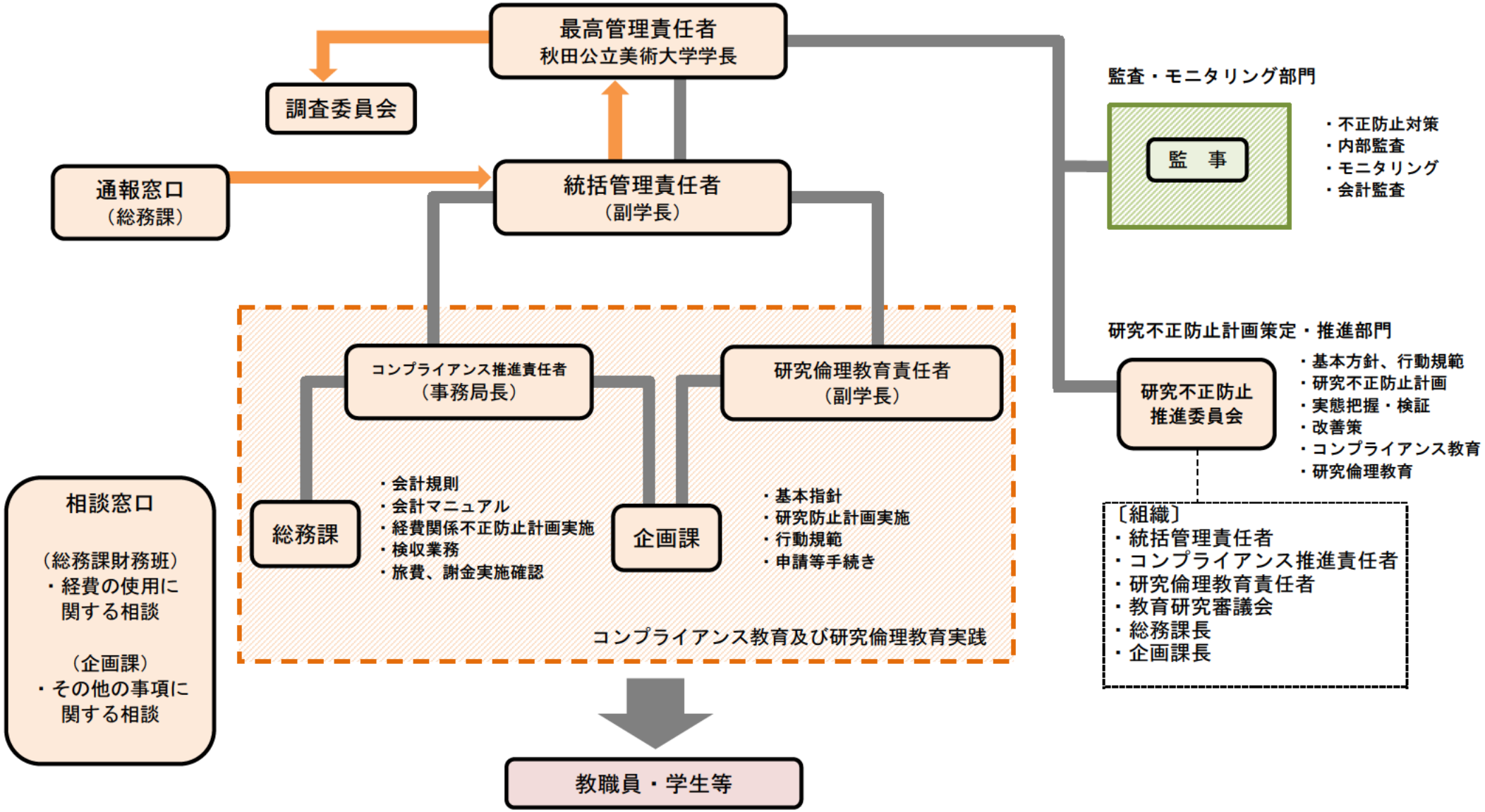
（解雇）

第22条　職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、これを解雇することができる。

(1) 勤務成績が不良の場合

(2) 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり又はこれに堪えない場

秋田公立美術大学研究不正防止管理体制



秋田公立美術大学における公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止に関する基本方針

平成28年　月　日

公的研究費の原資の大部分は貴重な税金であり、大学におけるさまざまな活動は、社会の信頼と負託によって支えられている。公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為は社会からの信頼等に反する行為であり、これらの防止については、大学の責任において適正に行わなければならない。

本学は、公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止に向けて、不正を誘発する要因を排除し、抑止機能を有する環境・体制の構築を図るため、次のとおり基本方針を定める。

1　不正使用および不正行為の防止対策に関する責任体系を明確化し、学内外に公表する。
2　事務処理に関する職務権限やルールを明確化するとともに、コンプライアンス教育を通じて教職員の意識向上を図り、適正な運営・管理の基盤となる環境・体制を整備する。
3　不正を誘発させる要因に対応した具体的な研究不正防止計画を策定し、実効性のある対策を確実かつ継続的に実施する。
4　適正に予算執行を行うことができるよう、実効性のあるチェックが効く体制を構築し、研究費等の適正な運営・管理を行う。
5　公的研究費の使用のルール等が適切に情報共有・共通理解される体制を構築する。
6　公的研究費の不正使用防止のため、不正を起こさない環境づくりを目指し、実効性のあるモニタリング体制を整備する。
7　研究者としての自覚を促し、適正な研究活動を行うよう研究倫理教育を行う。

秋田公立美術大学における公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止等に関する規程

平成28年　月　日
規　程　第　　号

（目的）

第１条　この規程は、秋田公立美術大学（以下「本学」という。）における公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止について、責任体制を明確化するとともに必要な事項を定めることにより、公的研究費の不正使用および研究活動の不正行為の防止を図ることを目的とする。

（定義）

第２条　この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 公的研究費　国又は国が所管する独立行政法人から配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金、運営費交付金、奨学寄附金、補助金、受託研究費等を財源として本学で行う研究に充てるすべての経費をいう。

(2) 公的研究費の不正使用　故意又は重大な過失により、公的研究費を本来の用途以外の用途に使用すること、虚偽の請求により公的研究費を使用することおよびその他法令等に違反して公的研究費を使用することをいう。

(3) 研究活動における不正行為　データや結果の捏造、改ざんおよび他者の研究成果の盗用など、研究者倫理に背く行為をいう。

(4) 研究者　本学において、研究活動を行うすべての者をいう。（非常勤を含む。）

(5) 構成員　本学に所属するすべての者をいう。（非常勤を含む。）

(6) 競争的資金等　文部科学省又は文部科学省が所管する独立行政法人から配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金をいう。

（組織）

第３条　公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止を図るため、最高管理責任者、統括管理責任者、コンプライアンス推進責任者および研究倫理教育責任者を置く。

（最高管理責任者）

第４条　最高管理責任者は、公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止について最終責任を負い、学長をもって充てる。

２　最高管理責任者は、統括管理責任者、コンプライアンス推進責任者および研究倫理教育責任者が責任を持って公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止を行うことができるよう、必要な措置を講ずるものとする。

３　最高管理責任者は、公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止対策を行うため、本学における公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を策定し、周知するものとする。

（統括管理責任者）

第５条　統括管理責任者は、最高管理責任者を補佐し、公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止について、本学全体を統括する実質的な責任と権限を持ち、副学長をもって充てる。

２　統括管理責任者は、公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止対策を行うため、基本方針に基づき、本学における研究不正防止計画（以下「研究不正防止計画」という。）を策定、実施し、コンプライアンス推進責任者および研究倫理教育責任者に対策の実施を指示するとともに、当該実施状況を確認し、実施状況を最高管理責任者に報告するものとする。

（コンプライアンス推進責任者）

第６条　コンプライアンス推進責任者は、公的研究費の不正使用の防止について、実質的な責任と権限を持ち、事務局長をもって充てる。

２　コンプライアンス推進責任者は、統括管理責任者の指示の下、次の各号に定める業務を行うものとする。

(1) 公的研究費の不正使用の防止対策を行い、実施状況を確認するとともに、実施状況を統括管理責任者に報告すること。

(2) 公的研究費の不正使用の防止を図るため、競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員にコンプライアンス教育を実施し、受講状況を管理監督すること。

(3) 構成員が公的研究費の不正使用を行っていないか等を監事と連携してモニタリングし、必要に応じて改善を指導すること。

（研究倫理教育責任者）

第７条　研究倫理教育責任者は、研究活動における不正行為の防止について、実質的な責任と権限を持ち、副学長をもって充てる。

２　研究倫理教育責任者は、統括管理責任者の指示の下、次の各号に定める業務を行うものとする。

(1) 研究者を対象に定期的に研究倫理教育を実施すること。

(2) 学生の研究者倫理に関する規範意識を徹底していくため、学生に対する研究倫理教育の実施を推進すること。

（構成員の責務）

第８条　全ての構成員は、本規則、基本方針および最高管理責任者が定める本学における研究者等の行動規範（以下「行動規範」という。）を遵守するものとする。

２　全ての構成員は、行動規範を遵守することを約するため、公的研究費の使用にあたっての誓約書（別紙様式第１号）を最高管理責任者に提出しなければならない。

（研究不正防止推進委員会）

第９条　公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止を図るため、最高管理責任者のもとに研究不正防止推進委員会を置く。

２　研究不正防止推進委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 基本方針、行動規範に関すること。

(2) 研究不正防止計画の策定、推進に関すること。

(3) 公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止に係る実態の把握・検証に関すること。

(4) 公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の発生要因に対する改善策を講ずること。

(5) コンプライアンス教育に関すること。

(6) 研究倫理教育に関すること。

3　研究不正防止推進委員会は、次の者をもって組織する。

(1) 統括管理責任者

(2) コンプライアンス推進責任者

(3) 研究倫理教育責任者

(4) 教育研究審議会委員の中から学長が指名した者

(5) 総務課長

(6) 企画課長

4　研究不正防止推進委員会に委員長を置き、統括管理責任者をもって充てる。

5　研究不正防止推進委員会に関する事務は、財務に関する事務を所掌する総務課のほか、研究に関する事務を所掌する企画課において処理する。

（任期）

第10条　前条に掲げる委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合に補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（相談窓口）

第11条　公的研究費にかかる事務処理手続きおよび使用に関する相談を受付けるため、経理に関しては総務課に、その他の事項に関しては企画課に相談窓口を設置する。

（通報窓口）

第12条　公的研究費の不正使用又は研究活動における不正行為等に関する学内外からの通報窓口は、総務事務を所掌する総務課とする。

2　学長は、通報等に係る事務処理を公平かつ中立な立場で行うため、前項に定めるもののほか、本学の外部に通報窓口を設置することができる。

（調査委員会）

第13条 公的研究費の不正使用又は研究活動における不正行為等を調査す

るための調査委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（監査の実施）

第15条 監査は、公立大学法人秋田公立美術大学監事監査規程（平成25年公立大学法人秋田公立美術大学規程第６号）に基づき、実施するものとする。

２　前項に定めるもののほか、監査の実施に関しては、次の各号に掲げる事項に留意して実施するものとする。

(1) 会計書類の形式的要件等の財務情報に対する監査のほか、本学全体の視点から公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止などの体制整備について検証し、必要に応じて改善を促すこと。

(2) 監事および会計監査人との連携を強化した監査を行うこと。

（雑則）

第16条　この規程に定めるもののほか、公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止について必要な事項は、最高管理責任者が別に定める。

附 則

この規程は平成28年　月　日から施行する

平成　　年　　月　　日

公的研究費の使用にあたっての誓約書

最高管理責任者

秋田公立美術大学学長　　様

（自　署）

私＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は、公的研究費の執行にあっては、秋田公立美術大学の関係規程および公的研究費に関し定められた助成条件、管理・監査のガイドライン、研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを遵守いたします。

また、公的研究費が国民の貴重な税金等で賄われていることを十分認識し、公正かつ効率的な使用又は管理を行い、不正使用を行わないことを約束いたします。

なお、万が一、不正を行った場合は、処分および法的な責任を受ける場合があることを承知しております。

秋田公立美術大学における研究者等の行動規範

平成28年　月　日

秋田公立美術大学（以下「本学」という。）は、学術研究の信頼性および公正性を確保することを目的として、行動規範を定める。本学において研究活動に携わる者（以下「研究者」という。）と研究活動の支援および管理に携わる者（以下「事務職員」という。）は、以下の行動規範を遵守しなければならない。

1　研究者および事務職員は、公的研究費の原資が国民の税金等で賄われていることを常に認識し、計画的で効率的な研究費の使用に努めるとともに、適正に管理しなければならない。

2　研究者および事務職員は、公的研究費を使用、執行するにあたり、関係法令、秋田公立美術大学における公的研究費の不正使用および研究活動における不正行為の防止等に関する規程（平成28年公立大学法人秋田公立美術大学規程第　号）、研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成19年文部科学大臣決定）および研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年文部科学大臣決定）を遵守しなければならない。

3　研究者は、研究計画に基づき、公的研究費の計画的な使用に努めなければならない。また事務職員は、研究活動の特性を理解し、その事務処理を適正かつ効率的に行わなくてはならない。

4　研究者および事務職員は、公的研究費の取扱いに関する関係法令等に係る知識習得に努めなければならない。

5　研究者および事務職員は、公的研究費の不適切な使用が、本学における全ての教育研究に深刻な影響を与えることを自覚し、取引業者との関

係において国民の疑惑や不信を招くことのないよう公正に行動しなければならない。

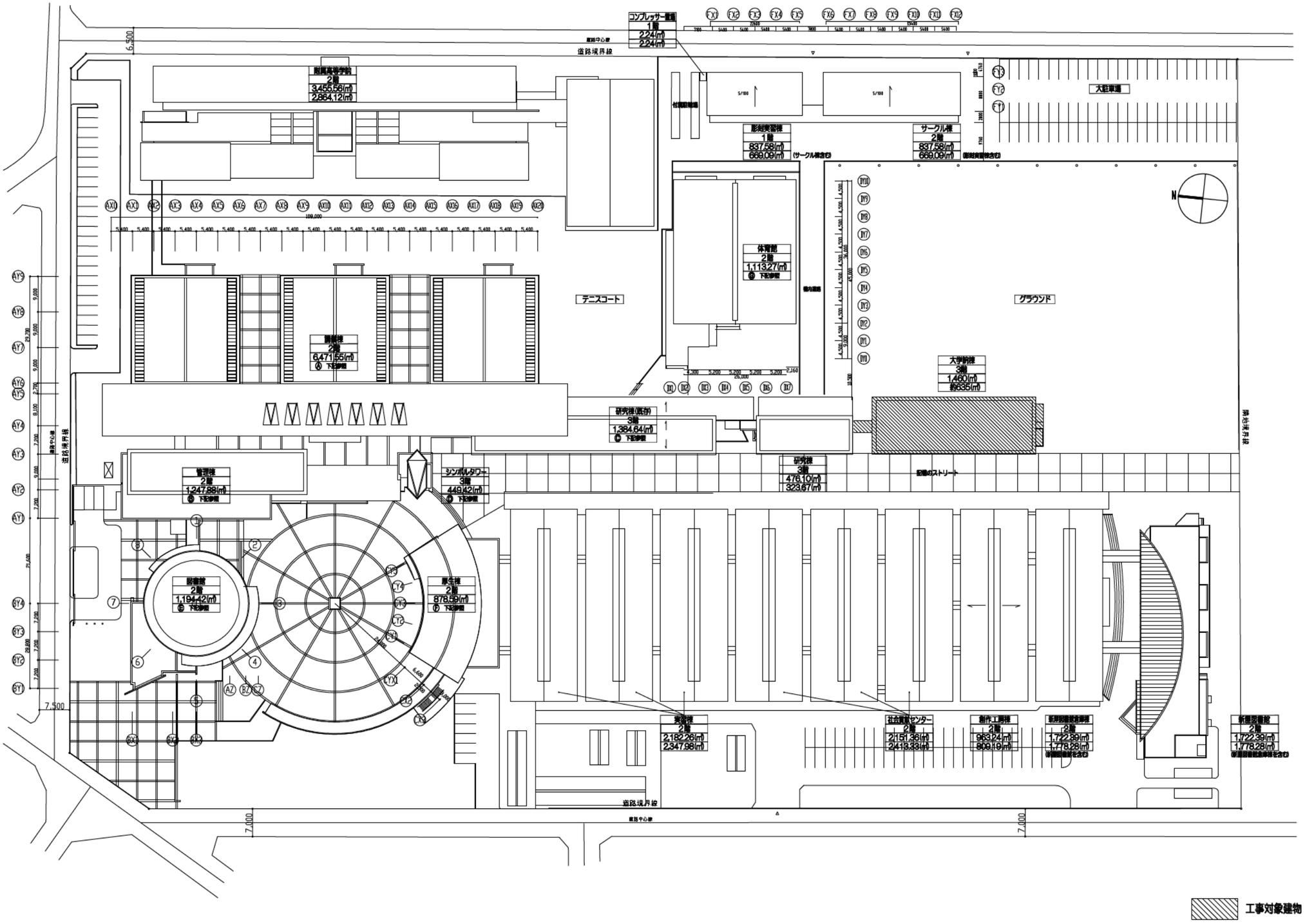
6　研究者および事務職員は、相互の理解と緊密な連携を図り、協力して公的研究費の不正使用を未然に防止するよう努めなければならない。

7　研究者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、誠実に行動しなければならない。

8　研究者は、研究遂行中において、計画進捗状況の自己点検を行い、研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底しなければならない。

9　研究者は、研究成果の発表に際しては、先行研究を精査し尊重するとともに、他者の知的財産を侵害してはならない。

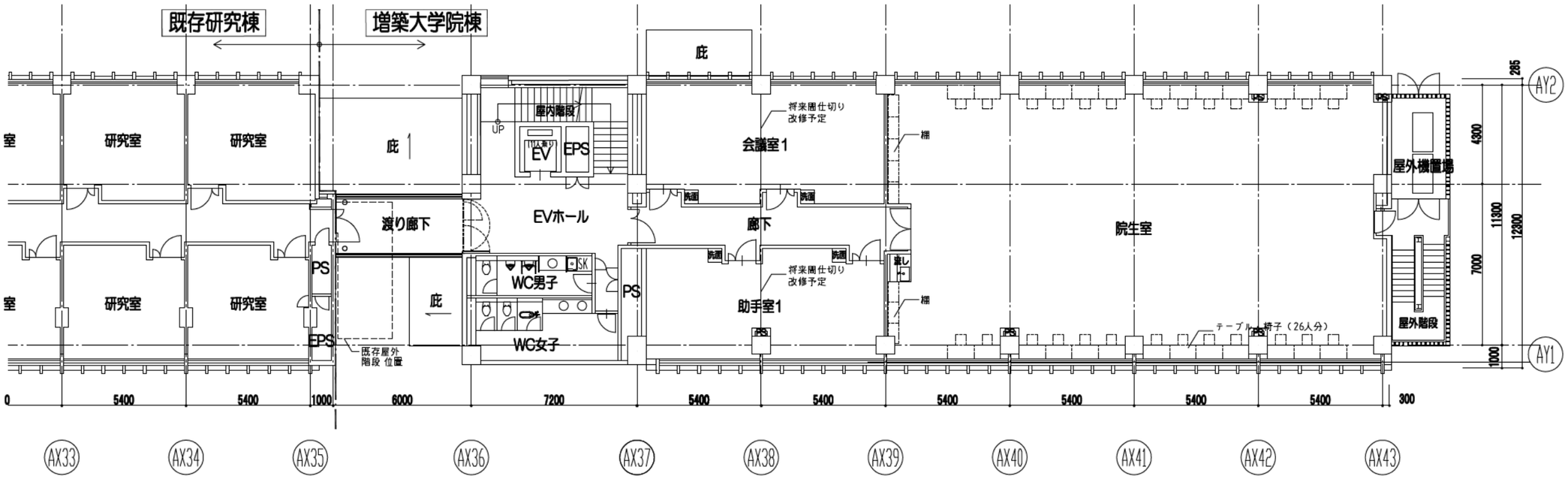
大学院棟施設整備見取り図



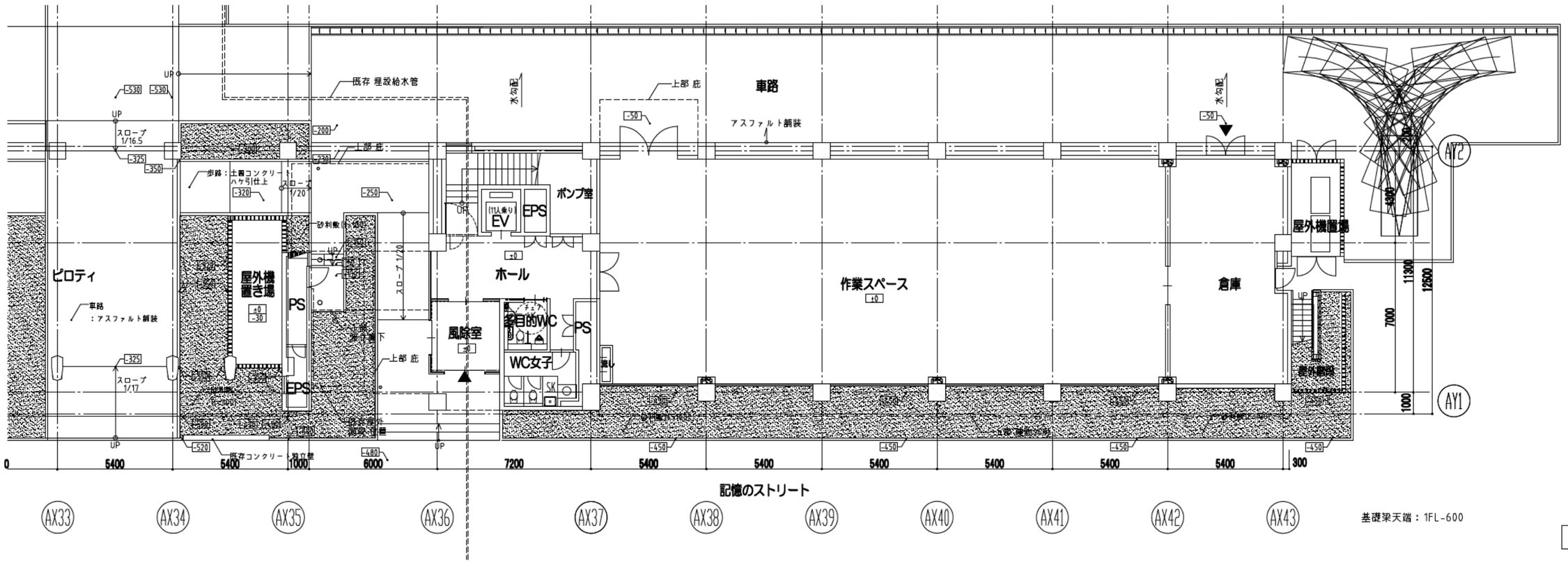
<凡例>

棟名
階数
延床面積(㎡)
建築面積(㎡)

工事対象建物



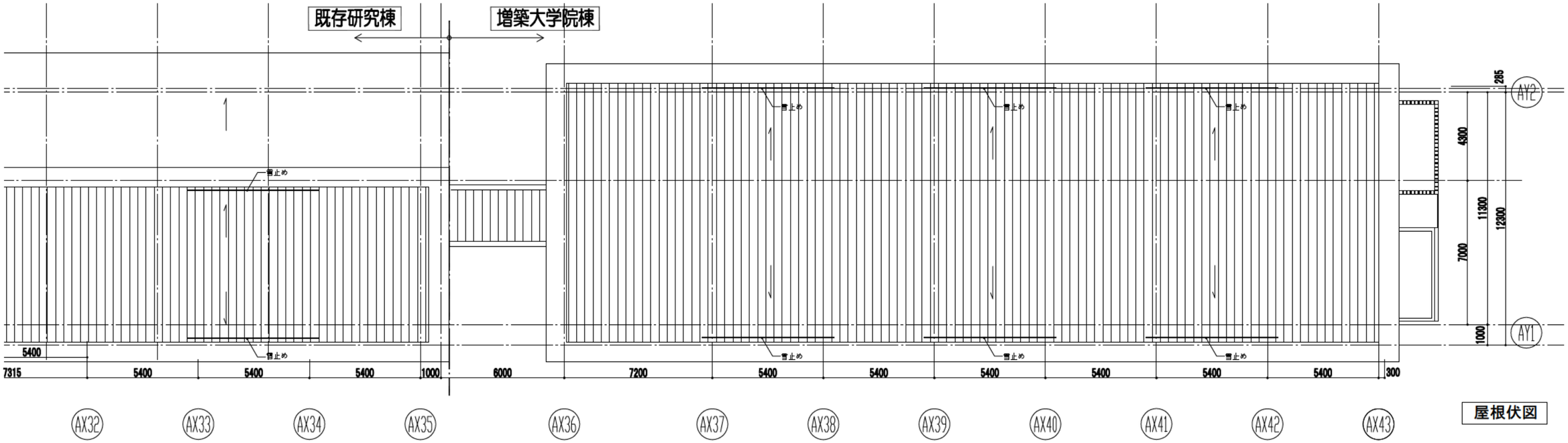
2階平面図



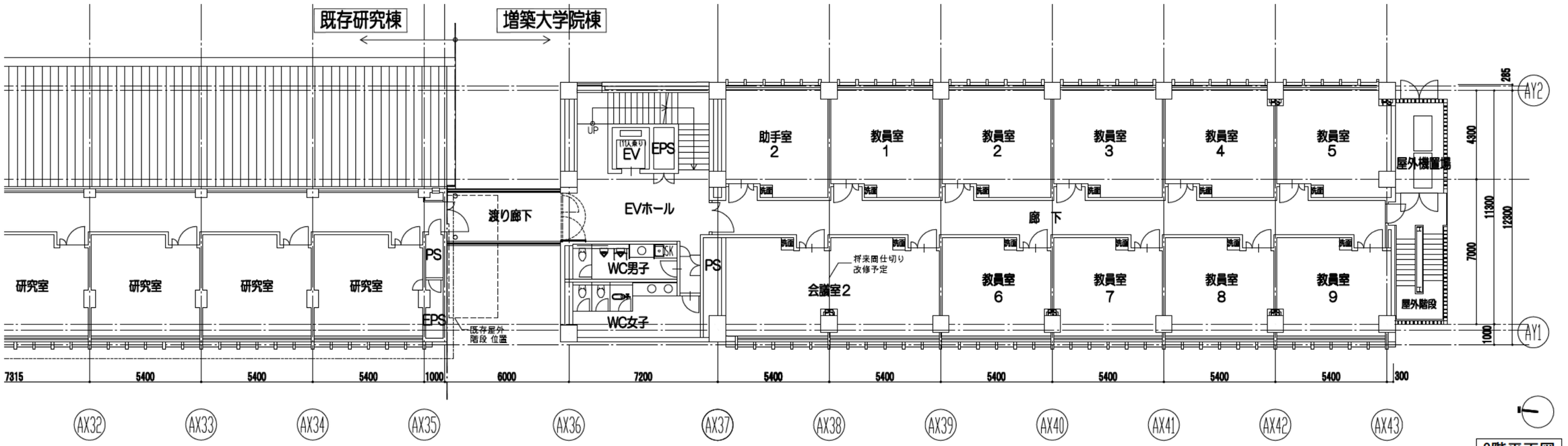
基礎梁天端：1FL-600

1階平面図

※当図面は打合資料であり、設備対応については打合せ内容に基づき、位置変更やパイプスペース等が出てくることを了解下さい。



屋根伏図



3階平面図

※当図面は打合資料であり、設備対応については打合せ内容に基づき、位置変更やパイプスペース等が出てくることを了解下さい。

受入継続中雑誌一覧 （紀要・年報等を除く）　　資料18

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
1	継続中	冊子体	jpn	a+u	エー・アンド・ユー
2	継続中	冊子体	jpn	AXIS	アクシス
3	継続中	冊子体	jpn	Casa BRUTUS	マガジンハウス
4	継続中	冊子体	jpn	CG WORLD	ワークスコーポレーション
5	継続中	冊子体	jpn	Cut	ロッキングオン
6	継続中	冊子体	jpn	GA DOCUMENT	A.D.A.EDITA Tokyo
7	継続中	冊子体	jpn	GA JAPAN	A.D.A.EDITA Tokyo
8	継続中	冊子体	jpn	HUMAN	平凡社
9	継続中	冊子体	jpn	JDCA journal	日本デザインコンサルタント協会
10	継続中	冊子体	jpn	JEWEL	レーヌ出版
11	継続中	冊子体	jpn	MdN	エムディーエヌコーポレーション
12	継続中	冊子体	jpn	MOE	白泉社
13	継続中	冊子体	jpn	NIKKEI DESIGN	日経BP社
14	継続中	冊子体	jpn	pen	阪急コミュニケーションズ
15	継続中	冊子体	jpn	PHP	PHP研究所
16	継続中	冊子体	jpn	SWITCH	スイッチ・パブリッシング
17	継続中	冊子体	jpn	Web Designing	マイナビ
18	継続中	冊子体	jpn	アイデア	誠文堂新光社
19	継続中	冊子体	jpn	アサヒカメラ	朝日新聞出版
20	継続中	冊子体	jpn	イラストノート	誠文堂新光社
21	継続中	冊子体	jpn	イラストレーション	玄光社
22	継続中	冊子体	jpn	エルデコ	ハースト婦人画報社
23	継続中	冊子体	jpn	切抜き速報　社会版	日本ミック
24	継続中	冊子体	jpn	教育ジャーナル	学研マーケティング
25	継続中	冊子体	jpn	教育美術	教育美術振興会
26	継続中	冊子体	jpn	教職課程	協同出版
27	継続中	冊子体	jpn	教職研修	教育開発研究所
28	継続中	冊子体	jpn	芸術新潮	新潮社
29	継続中	冊子体	jpn	月刊学校教育相談	ほんの森出版
30	継続中	冊子体	jpn	月刊高校教育	学事出版
31	継続中	冊子体	jpn	月刊実践障害児教育	学研教育出版
32	継続中	冊子体	jpn	月刊生徒指導	学事出版
33	継続中	冊子体	jpn	月刊美術	サンアート(発売:実業之日本社)
34	継続中	冊子体	jpn	月刊文化財	第一法規
35	H28.4開始	冊子体	jpn	月刊ミュゼ	アム・プロモーション
36	継続中	冊子体	jpn	現代詩手帖	思潮社
37	継続中	冊子体	jpn	こころの科学	日本評論社
38	継続中	冊子体	jpn	國華	國華社
39	継続中	冊子体	jpn	コマーシャル・フォト	玄光社
40	継続中	冊子体	jpn	コンフォルト	建築資材研究社
41	継続中	冊子体	jpn	産業と教育	実業出版
42	継続中	冊子体	jpn	児童心理	金子書房
43	継続中	冊子体	jpn	指導と評価	日本図書文化協会
44	継続中	冊子体	jpn	商店建築	商店建築社
45	継続中	冊子体	jpn	情報処理	情報処理学会
46	継続中	冊子体	jpn	照明学会誌	照明学会
47	継続中	冊子体	jpn	初等教育資料	東洋館出版社
48	継続中	冊子体	jpn	新建築	新建築社
49	継続中	冊子体	jpn	進路指導	日本進路指導協会
50	継続中	冊子体	jpn	染織情報α	染織と生活社
51	継続中	冊子体	jpn	装苑	文化出版局
52	継続中	冊子体	jpn	そだちの科学	日本評論社
53	継続中	冊子体	jpn	ソトコト	木楽舎
54	継続中	冊子体	jpn	中等教育資料	学事出版
55	継続中	冊子体	jpn	デザインノート	誠文堂新光社
56	継続中	冊子体	jpn	陶工房	誠文堂新光社
57	継続中	冊子体	jpn	道徳教育	明治図書出版
58	継続中	冊子体	jpn	道徳と特別活動	文溪堂
59	継続中	冊子体	jpn	七緒	プレジデント社
60	継続中	冊子体	jpn	日経Linux	日経BP社
61	継続中	冊子体	jpn	日本カメラ	日本カメラ社
62	H28.4開始	冊子体	jpn	博物館学研究	日本博物館協会
63	H28.4開始	冊子体	jpn	博物館学雑誌	全日本博物館学会
64	継続中	冊子体	jpn	版画芸術	阿部出版
65	H28.4開始	冊子体	jpn	美学	美学会
66	H28.4開始	冊子体	jpn	美術史	美術史学会
67	継続中	冊子体	jpn	美術手帖	美術出版社
68	継続中	冊子体	jpn	美術の窓	生活の友社
69	継続中	冊子体	jpn	ブレーン	宣伝会議
70	継続中	冊子体	jpn	別冊アトリエ　芸大美大を目指す人へ	ハースト婦人画報社

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
71	継続中	冊子体	jpn	宝石の四季	レッグ
72	継続中	冊子体	jpn	炎芸術	阿部出版
73	継続中	冊子体	jpn	モダンリビング	ハースト婦人画報社
74	継続中	冊子体	jpn	ユリイカ	青土社
75	継続中	冊子体	jpn	流行色	日本流行色協会
76	継続中	冊子体	jpn	和の漆	日本漆工協会
77	継続中	冊子体	jpn	和楽	小学館
78	継続中	冊子体	jpn	あきた経済	秋田経済研究所
79	H28.4開始	冊子体	jpn	秋田民俗	秋田県民俗学会(秋田文化出版)
80	継続中	冊子体	jpn	秋大史學	秋田大学史学会
81	継続中	冊子体	jpn	中小企業あきた	秋田県中小企業団体中央会
82	継続中	冊子体	jpn	秋田タウン情報	秋田タウン情報
83	継続中	冊子体	jpn	のんびり	秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課
84	継続中	冊子体	ita	ABITARE	[Editrice Segesta]
85	継続中	冊子体	eng	AMERICAN CRAFT	American Craft Council
86	継続中	冊子体	eng	APOLLO	Apollo Magazine
87	継続中	冊子体	eng	Artforum international	Artforum International Magazine
88	継続中	冊子体	fre	L'Arca international	SAM MDO
89	継続中	冊子体	eng	The Artist : Britain's leading art magazine	[Billboard]
90	継続中	冊子体	eng	Art Journal	College Art Association of America
91	継続中	冊子体	eng	ART news	ARTnews Associates, etc.
92	継続中	冊子体	eng	Communication Arts	Coyne & Blanchard
93	継続中	冊子体	ita	domus	Casa ed. Domus
94	継続中	冊子体	ita	ELLE DÉCOR	EDIF.s.r.l.
95	継続中	冊子体	eng	ELLE DECORATION	Hachette Magazine
96	継続中	冊子体	eng	Fine Woodworking	Taunton Press
97	継続中	冊子体	ger	Form : Zeitschrift für Gestaltung	Westdeutscher Verlag
98	継続中	冊子体	eng	Glass International	
99	継続中	冊子体	eng	INTERIOR DESIGN	Interior Design Division of Whitney Communications
100	継続中	冊子体	fre	MAISON FRANCAISE magazine	Express Roularta
101	継続中	冊子体	fre	marie claire Maison	[Marie-Claire Album]
102	継続中	冊子体	ita	OTTAGONO	
103	継続中	冊子体	eng	OXFORD ART JOURNAL	Printed by Didcot Press
104	継続中	冊子体	eng	ROAD & TRACK	Enthusiasts' Publications
105	継続中	冊子体	ger	Schmuck MAGAZIN	Ebner Verlag
106	継続中	冊子体	eng	School arts	Davis Press
107	継続中	冊子体	eng	sculpture	International Sculpture Center
108	継続中	冊子体	ger	Stil & markt	Meisenbach
109	継続中	冊子体	eng	THE ART BULLETIN	College Art Association of America
110	継続中	冊子体	ita	L'UOMO-VOGUE	Condé Nast
111	継続中	冊子体	swe	VävMagasinet	Förlags AB Vävhästen
112	継続中	冊子体	fre	VOGUE PARIS	Editions Condé-Nast

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
113	継続中	EJ	eng	14th Century English Mystics Newsletter	Penn State University Press
114	継続中	EJ	eng	Acquisitions (Fogg Art Museum)	President and Fellows of Harvard College
115	継続中	EJ	eng	American Philosophical Quarterly	University of Illinois Press
116	継続中	EJ	ger	Annalen der Philosophie	Springer
117	継続中	EJ	ger	Annalen der Philosophie und philosophischen Kritik	Springer
118	継続中	EJ	fre	Annales d'histoire économique et sociale	EHESS
119	継続中	EJ	fre	Annales d'histoire sociale (1939-1941)	EHESS
120	継続中	EJ	fre	Annales d'histoire sociale (1945)	EHESS
121	継続中	EJ	fre	Annales. Histoire, Sciences Sociales	EHESS
122	継続中	EJ	eng	The Annual of the British School at Athens	British School at Athens
123	継続中	EJ	eng	Annual Report (Fogg Art Museum)	President and Fellows of Harvard College
124	継続中	EJ	eng	Annual Report (Harvard University Art Museums)	President and Fellows of Harvard College
125	継続中	EJ	eng	Annual Report of the Dante Society, with Accompanying Papers	Dante Society of America
126	継続中	EJ	eng	Annual Reports of the Dante Society	Dante Society of America
127	継続中	EJ	eng	The Antioch Review	Antioch Review Inc.
128	継続中	EJ	eng	Archives of Asian Art	University of Hawai'i Press
129	継続中	EJ	eng	Archives of the Chinese Art Society of America	University of Hawai'i Press
130	継続中	EJ	eng	Arion: A Journal of Humanities and the Classics	Trustees of Boston University
131	継続中	EJ	eng	Arizona and the West	Journal of the Southwest
132	継続中	EJ	eng	The Arkansas Historical Quarterly	Arkansas Historical Association
133	継続中	EJ	eng	Ars Islamica	Smithsonian Institution
134	継続中	EJ	eng	Ars Orientalis	Smithsonian Institution
135	継続中	EJ	eng	Books Abroad	Board of Regents of the University of Oklahoma
136	継続中	EJ	eng	Boston Museum Bulletin	Museum of Fine Arts, Boston
137	継続中	EJ	eng	British School at Athens Studies	British School at Athens
138	継続中	EJ	eng	The British School at Athens. Supplementary	British School at Athens
139	継続中	EJ	eng	The British School at Athens. Supplementary Volumes	British School at Athens
140	継続中	EJ	eng	Browning Institute Studies	Cambridge University Press
141	継続中	EJ	eng	Bulletin. British Association for American Studies	Cambridge University Press
142	継続中	EJ	eng	Bulletin of the Australian Society for the Study of Labour History	Australian Society for the Study of Labour History, Inc.
143	継続中	EJ	eng	The Bulletin of the Cleveland Museum of Art	Cleveland Museum of Art
144	継続中	EJ	eng	Bulletin of the Committee on Canadian Labour History / Bulletin du Comité sur l'Histoire Ouvrière Canadienne	Canadian Committee on Labour History
145	継続中	EJ	eng	Bulletin of the Fogg Art Museum	President and Fellows of Harvard College
146	継続中	EJ	eng	Bulletin of the Museum of Fine Arts	Museum of Fine Arts, Boston
147	継続中	EJ	eng	The Bulletin of the Museum of Modern Art	Museum of Modern Art
148	継続中	EJ	eng	California Historical Quarterly	University of California Press
149	継続中	EJ	eng	California Historical Society Quarterly	University of California Press
150	継続中	EJ	eng	California History	University of California Press
151	継続中	EJ	eng	California Studies in Classical Antiquity	University of California Press
152	継続中	EJ	eng	The Catholic Historical Review	Catholic University of America Press
153	継続中	EJ	eng	The Chaucer Review	Penn State University Press
154	継続中	EJ	eng	Chicago Review	Chicago Review
155	継続中	EJ	eng	Classical Antiquity	University of California Press
156	継続中	EJ	eng	Cleveland Studies in the History of Art	Cleveland Museum of Art
157	継続中	EJ	eng	College Literature	Johns Hopkins University Press
158	継続中	EJ	eng	Contemporary European History	Cambridge University Press
159	継続中	EJ	spa	Crítica: Revista Hispanoamericana de Filosofía	Instituto de Investigaciones Filosóficas
160	継続中	EJ	eng	Dante Studies, with the Annual Report of the Dante Society	Dante Society of America
161	継続中	EJ	eng	Design Quarterly	Walker Art Center
162	継続中	EJ	eng	Director's Report (Harvard University Art	President and Fellows of Harvard College
163	継続中	EJ	eng	Early American Literature	University of North Carolina Press
164	継続中	EJ	eng	Early American Literature Newsletter	University of North Carolina Press
165	継続中	EJ	eng	The English Folk-Dance Society's Journal	English Folk Dance + Song Society
166	継続中	EJ	eng	Environmental History	Oxford University Press
167	継続中	EJ	eng	Environmental History Review	Oxford University Press
168	継続中	EJ	eng	Environmental Review: ER	Oxford University Press
169	継続中	EJ	eng	Erato	Harvard Review
170	継続中	EJ	eng	Erkenntnis (1930-1938)	Springer
171	継続中	EJ	eng	Erkenntnis (1975-)	Springer
172	継続中	EJ	eng	Ethical Theory and Moral Practice	Springer
173	継続中	EJ	fre	Etudes d'histoire moderne et contemporaine	Societe d'Histoire Moderne et Contemporaine
174	継続中	EJ	eng	Everyday Art Quarterly	Walker Art Center
175	継続中	EJ	eng	Film History	Indiana University Press
176	継続中	EJ	eng	The Florida Historical Quarterly	Florida Historical Society
177	継続中	EJ	eng	The Florida Historical Society Quarterly	Florida Historical Society

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
178	継続中	EJ	eng	Folk Music Journal	English Folk Dance + Song Society
179	継続中	EJ	eng	Forest & Conservation History	Oxford University Press
180	継続中	EJ	eng	Forest History Newsletter	Oxford University Press
181	継続中	EJ	eng	Foundations of Language	Springer
182	継続中	EJ	eng	Frontiers of Philosophy in China	Brill
183	継続中	EJ	eng	Germanic Museum Bulletin	President and Fellows of Harvard College
184	継続中	EJ	eng	Getty Research Journal	University of Chicago Press
185	継続中	EJ	ger	Gnomon	Verlag C.H.Beck
186	継続中	EJ	eng	Grand Street	Jean Stein
187	継続中	EJ	eng	The Great Lakes Review	Central Michigan University
188	継続中	EJ	eng	Harvard Art Museum Annual Report	President and Fellows of Harvard College
189	継続中	EJ	eng	Harvard Book Review	Harvard Review
190	継続中	EJ	eng	Harvard Review	Harvard Review
191	継続中	EJ	eng	Harvard University Art Museums Bulletin	President and Fellows of Harvard College
192	継続中	EJ	eng	Health and History	Australian and New Zealand Society of the History of Medicine, Inc
193	継続中	EJ	spa	Historia Mexicana	Colegio de Mexico
194	継続中	EJ	ger	Historische Zeitschrift	Oldenbourg Wissenschaftsverlag GmbH (and its subsidiary Akademie Verlag GmbH)
195	継続中	EJ	ger	Historische Zeitschrift. Beihefte	Oldenbourg Wissenschaftsverlag GmbH (and its subsidiary Akademie Verlag GmbH)
196	継続中	EJ	eng	History of the Present	University of Illinois Press
197	継続中	EJ	eng	Hoosier Folklore	Hoosier Folklore Society
198	継続中	EJ	eng	Hoosier Folklore Bulletin	Hoosier Folklore Society
199	継続中	EJ	eng	The Hudson Review	Hudson Review, Inc
200	継続中	EJ	eng	Human Studies	Springer
201	継続中	EJ	eng	Hypatia	Wiley
202	継続中	EJ	eng	I Tatti Studies in the Italian Renaissance	University of Chicago Press
203	継続中	EJ	eng	The International History Review	Taylor & Francis, Ltd.
204	継続中	EJ	eng	International Journal for Philosophy of Religion	Springer
205	継続中	EJ	eng	International Journal of Hindu Studies	Springer
206	継続中	EJ	eng	International Labor and Working-Class History	Cambridge University Press
207	継続中	EJ	eng	The Iowa Review	University of Iowa
208	継続中	EJ	eng	Iran	British Institute of Persian Studies
209	継続中	EJ	eng	The J. Paul Getty Museum Journal	J. Paul Getty Trust
210	継続中	EJ	eng	Jewish History	Springer
211	継続中	EJ	eng	Journal for General Philosophy of Science / Zeitschrift für allgemeine Wissenschaftstheorie	Springer
212	継続中	EJ	eng	Journal of American Ethnic History	University of Illinois Press
213	継続中	EJ	eng	Journal of American Studies	Cambridge University Press
214	継続中	EJ	eng	Journal of Animal Ethics	University of Illinois Press
215	継続中	EJ	eng	The Journal of Ethics	Springer
216	継続中	EJ	eng	Journal of Feminist Studies in Religion	Indiana University Press
217	継続中	EJ	eng	Journal of Film and Video	University of Illinois Press
218	継続中	EJ	eng	Journal of Folklore Research	Indiana University Press
219	継続中	EJ	eng	Journal of Forest History	Oxford University Press
220	継続中	EJ	eng	Journal of Medieval Religious Cultures	Penn State University Press
221	継続中	EJ	eng	Journal of Modern Literature	Indiana University Press
222	継続中	EJ	eng	Journal of New Zealand Literature: JNZL	Journal of New Zealand Literature
223	継続中	EJ	eng	Journal of Nietzsche Studies	Penn State University Press
224	継続中	EJ	eng	The Journal of Pacific History	Taylor & Francis, Ltd.
225	継続中	EJ	eng	Journal of Religion and Health	Springer
226	継続中	EJ	eng	The Journal of Religious Ethics	Blackwell Publishing Ltd
227	継続中	EJ	eng	Journal of the Abraham Lincoln Association	University of Illinois Press
228	継続中	EJ	eng	Journal of the American Research Center in Egypt	American Research Center in Egypt
229	継続中	EJ	eng	Journal of the English Folk Dance and Song Society	English Folk Dance + Song Society
230	継続中	EJ	eng	The Journal of the English Folk Dance Society	English Folk Dance + Song Society
231	継続中	EJ	eng	Journal of the Folklore Institute	Indiana University Press
232	継続中	EJ	eng	Journal of the Folk-Song Society	English Folk Dance + Song Society
233	継続中	EJ	eng	The Journal of the Gilded Age and Progressive Era	Society for Historians of the Gilded Age & Progressive Era
234	継続中	EJ	eng	Journal of the History of Biology	Springer
235	継続中	EJ	eng	Journal of the Museum of Fine Arts, Boston	Museum of Fine Arts, Boston
236	継続中	EJ	eng	Journal of the Royal Asiatic Society	Cambridge University Press
237	継続中	EJ	eng	The Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland	Cambridge University Press
238	継続中	EJ	eng	Journal of the Southwest	Journal of the Southwest
239	継続中	EJ	eng	Journal of the University Film and Video	University of Illinois Press
240	継続中	EJ	eng	Journal of the University Film Association	University of Illinois Press
241	継続中	EJ	eng	Journal of the University Film Producers	University of Illinois Press
242	継続中	EJ	eng	The Journal of the Walters Art Gallery	Walters Art Museum
243	継続中	EJ	eng	The Journal of the Walters Art Museum	Walters Art Museum
244	継続中	EJ	eng	The Journal of Unified Science (Erkenntnis)	Springer

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
245	継続中	EJ	eng	Journal of World History	University of Hawai'i Press
246	継続中	EJ	eng	The Kenyon Review	Kenyon College
247	継続中	EJ	eng	Labour History	Australian Society for the Study of Labour History, Inc.
248	継続中	EJ	eng	Labour / Le Travail	Canadian Committee on Labour History
249	継続中	EJ	eng	Latin American Literary Review	Latin American Literary Review
250	継続中	EJ	eng	Linguistics and Philosophy	Springer
251	継続中	EJ	eng	Louisiana History: The Journal of the Louisiana Historical Association	Louisiana Historical Association
252	継続中	EJ	eng	M Bulletin (Museum of Fine Arts, Boston)	Museum of Fine Arts, Boston
253	継続中	EJ	eng	Manoa	University of Hawai'i Press
254	継続中	EJ	eng	Massachusetts Historical Review	Massachusetts Historical Society
255	継続中	EJ	eng	The Massachusetts Review	Massachusetts Review, Inc.
256	継続中	EJ	fre	Mélanges d'histoire sociale	EHESS
257	継続中	EJ	eng	Members Newsletter (Museum of Modern Art)	Museum of Modern Art
258	継続中	EJ	eng	Memoirs of the American Academy in Rome	University of Michigan Press
259	継続中	EJ	eng	Memoirs of the American Academy in Rome. Supplementary Volumes	University of Michigan Press
260	継続中	EJ	eng	MFA Bulletin	Museum of Fine Arts, Boston
261	継続中	EJ	eng	Michigan Historical Review	Central Michigan University
262	継続中	EJ	eng	Midwest Folklore	Indiana University Press
263	継続中	EJ	eng	Minnesota History	Minnesota Historical Society Press
264	継続中	EJ	eng	Minnesota History Bulletin	Minnesota Historical Society Press
265	継続中	EJ	eng	Mississippi Review	University of Southern Mississippi
266	継続中	EJ	eng	Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz	
267	継続中	EJ	eng	MoMA	Museum of Modern Art
268	継続中	EJ	eng	Monatshefte	University of Wisconsin Press
269	継続中	EJ	eng	Monatshefte für deutsche Sprache und Pädagogik	University of Wisconsin Press
270	継続中	EJ	eng	Monatshefte für Deutschen Unterricht	University of Wisconsin Press
271	継続中	EJ	eng	The Montana Magazine of History	Montana Historical Society
272	継続中	EJ	eng	Montana: The Magazine of Western History	Montana Historical Society
273	継続中	EJ	eng	Museum of Fine Arts Bulletin	Museum of Fine Arts, Boston
274	継続中	EJ	eng	Mystics Quarterly	Penn State University Press
275	継続中	EJ	eng	Narrative	Ohio State University Press
276	継続中	EJ	eng	Newsletter: European Labor and Working Class History	Cambridge University Press
277	継続中	EJ	eng	The North American Review	University of Northern Iowa
278	継続中	EJ	eng	The North-American Review and Miscellaneous Journal	University of Northern Iowa
279	継続中	EJ	eng	Notes (Fogg Art Museum)	President and Fellows of Harvard College
280	継続中	EJ	eng	Notre Dame English Journal	University of Notre Dame
281	継続中	EJ	eng	OAH Magazine of History	Oxford University Press
282	継続中	EJ	eng	Pädagogische Monatshefte / Pedagogical Monthly	University of Wisconsin Press
283	継続中	EJ	eng	Papers of the Abraham Lincoln Association	University of Illinois Press
284	継続中	EJ	eng	Pennsylvania Legacies	Historical Society of Pennsylvania
285	継続中	EJ	eng	The Pennsylvania Magazine of History and	Historical Society of Pennsylvania
286	継続中	EJ	eng	The Personalist Forum	University of Illinois Press
287	継続中	EJ	eng	Philosophical Studies: An International Journal for Philosophy in the Analytic Tradition	Springer
288	継続中	EJ	eng	The Pluralist	University of Illinois Press
289	継続中	EJ	eng	Polish American Studies	University of Illinois Press
290	継続中	EJ	eng	Proceedings of the Massachusetts Historical	Massachusetts Historical Society
291	継続中	EJ	eng	Publications of the Florida Historical Society	Florida Historical Society
292	継続中	EJ	eng	Quaderni Urbinati di Cultura Classica	Fabrizio Serra Editore
293	継続中	EJ	eng	Records of the Columbia Historical Society, Washington, D.C.	Historical Society of Washington, D.C.
294	継続中	EJ	eng	Religion & Literature	University of Notre Dame
295	継続中	EJ	eng	Religious Studies	Cambridge University Press
296	継続中	EJ	eng	Research in African Literatures	Indiana University Press
297	継続中	EJ	eng	The Review of Metaphysics	Philosophy Education Society Inc.
298	継続中	EJ	eng	Revista de Historia de América	Pan American Institute of Geography and History
299	継続中	EJ	eng	Revista de Letras	UNESP Universidade Estadual Paulista Julio de Mesquita Filho
300	継続中	EJ	eng	Revue d'histoire moderne	Societe d'Histoire Moderne et Contemporaine
301	継続中	EJ	eng	Revue d'histoire moderne et contemporaine (1899-1914)	Societe d'Histoire Moderne et Contemporaine
302	継続中	EJ	eng	Revue d'histoire moderne et contemporaine (1954-)	Societe d'Histoire Moderne et Contemporaine
303	継続中	EJ	eng	Rhetorica: A Journal of the History of Rhetoric	University of California Press
304	継続中	EJ	eng	R.M.A. Research Chronicle	Taylor & Francis, Ltd.

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
305	継続中	EJ	eng	Royal Musical Association Research Chronicle	Taylor & Francis, Ltd.
306	継続中	EJ	eng	Science Fiction Studies	SF-TH Inc
307	継続中	EJ	eng	The Sewanee Review	Johns Hopkins University Press
308	継続中	EJ	eng	The South Carolina Historical and Genealogical Magazine	South Carolina Historical Society
309	継続中	EJ	eng	The South Carolina Historical Magazine	South Carolina Historical Society
310	継続中	EJ	eng	The Southern Literary Journal	University of North Carolina Press
311	継続中	EJ	eng	Storyworlds: A Journal of Narrative Studies	University of Nebraska Press
312	継続中	EJ	eng	Studien zur Altägyptischen Kultur	Helmut Buske Verlag GmbH
313	継続中	EJ	eng	Studies in East European Thought	Springer
314	継続中	EJ	eng	Studies in Soviet Thought	Springer
315	継続中	EJ	eng	Supplementary Papers of the American School of Classical Studies in Rome	University of Michigan Press
316	継続中	EJ	eng	Synthese	Springer
317	継続中	EJ	eng	Syria	Institut Francais du Proche-Orient
318	継続中	EJ	eng	The Threepenny Review	Threepenny Review
319	継続中	EJ	eng	Transactions of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland	Cambridge University Press
320	継続中	EJ	eng	U.S. Catholic Historian	Catholic University of America Press
321	継続中	EJ	eng	Victorian Literature and Culture	Cambridge University Press
322	継続中	EJ	eng	Victorian Periodicals Newsletter	Johns Hopkins University Press
323	継続中	EJ	eng	Victorian Periodicals Review	Johns Hopkins University Press
324	継続中	EJ	eng	Victorian Poetry	West Virginia University Press
325	継続中	EJ	eng	Victorian Studies	Indiana University Press
326	継続中	EJ	ger	Vierteljahrshefte für Zeitgeschichte	Oldenbourg Wissenschaftsverlag GmbH (and its subsidiary Akademie Verlag GmbH)
327	継続中	EJ	eng	The Virginia Magazine of History and Biography	Virginia Historical Society
328	継続中	EJ	eng	Washington History	Historical Society of Washington, D.C.
329	継続中	EJ	eng	The Wisconsin Magazine of History	Wisconsin Historical Society
330	継続中	EJ	eng	World Literature Today	Board of Regents of the University of Oklahoma
331	継続中	EJ	eng	Zeitschrift für allgemeine Wissenschaftstheorie / Journal for General Philosophy of Science	Springer
332	継続中	EJ	ger	Zeitschrift für Papyrologie und Epigraphik	Dr. Rudolf Habelt GmbH
333	継続中	EJ	ger	Zeitschrift für philosophische Forschung	Vittorio Klostermann GmbH
334	H28予定	冊子体	jpn	Avantgarde : international art magazine	T.G.O UNIVARTO
335	H28予定	冊子体	jpn	JA (The Japan Architect)	新建築社
336	H28予定	冊子体	jpn	Museum	中央公論事業出版
337	H28予定	冊子体	jpn	photographers' gallery press	photographers' gallery
338	H28予定	冊子体	jpn	Rear : 芸術批評誌リア	REAR制作室
339	H28予定	冊子体	jpn	アート・ドキュメンテーション研究	毎日学術フォーラム
340	H28予定	冊子体	jpn	アート・トップ	芸術新聞社
341	H28予定	冊子体	jpn	アートマネジメント研究	美術出版社
342	H28予定	冊子体	jpn	カイ(KAI)	株式会社ノーザンクロス
343	H28予定	冊子体	jpn	ゲンロン	株式会社ゲンロン
344	H28予定	冊子体	jpn	ナショナルジオグラフィック	ナショナル・ジオグラフィック社
345	H28予定	冊子体	jpn	ヒューマンインタフェース学会論文誌	ヒューマンインタフェース学会
346	H28予定	冊子体	jpn	映像情報メディア学会誌	映像情報メディア学会
347	H28予定	冊子体	jpn	近代画説	三好企画
348	H28予定	冊子体	jpn	建築雑誌	日本建築学会
349	H28予定	冊子体	jpn	現代思想	青土社
350	H28予定	冊子体	jpn	現代民俗学研究	現代民俗学会
351	H28予定	冊子体	jpn	思想	岩波書店
352	H28予定	冊子体	jpn	社会人類学年報	首都大学東京
353	H28予定	冊子体	jpn	電子情報通信学会技術研究報告書 (情報論的学習理論と機械学習 : IBISML)	電子情報通信学会
354	H28予定	冊子体	jpn	新建築住宅特集	新建築社
355	H28予定	冊子体	jpn	西洋美術研究	三元社
356	H28予定	冊子体	jpn	地域デザイン	地域デザイン学会
357	H28予定	冊子体	jpn	東北学	東北芸術工科大学東北文化研究センター
358	H28予定	冊子体	jpn	東北民俗	東北民俗の会
359	H28予定	冊子体	jpn	日経サイエンス	日経サイエンス社
360	H28予定	冊子体	jpn	日本バーチャルリアリティ学会 学会誌	日本バーチャルリアリティ学会
361	H28予定	冊子体	jpn	日本バーチャルリアリティ学会 大会論文集	日本バーチャルリアリティ学会
362	H28予定	冊子体	jpn	日本バーチャルリアリティ学会 論文誌	日本バーチャルリアリティ学会
363	H28予定	冊子体	jpn	日本リモートセンシング学会誌	丸善
364	H28予定	冊子体	jpn	日本写真学会誌	日本写真学会
365	H28予定	冊子体	jpn	日本都市社会学会年報	日本都市社会学会
366	H28予定	冊子体	jpn	日本民俗学	日本民俗学会
367	H28予定	冊子体	jpn	年報カルチュラル・スタディーズ	航思社
368	H28予定	冊子体	jpn	美術フォーラム21	醍醐書房
369	H28予定	冊子体	jpn	美術研究	便利堂
370	H28予定	冊子体	jpn	表象	月曜社

No.	受入状態	形態	言語	タイトル	出版社
371	H28予定	冊子体	jpn	文化人類学	日本文化人類学会
372	H28予定	冊子体	jpn	民族藝術	民族藝術学会
373	H28予定	冊子体	eng	ACM Transactions on Computer-Human Interaction	Association for Computing Machinery
374	H28予定	冊子体	eng	ACM Transactions on Graphics	Association for Computing Machinery
375	H28予定	冊子体	eng	American Anthropologist	American Anthropological Association
376	H28予定	冊子体	eng	Computer Graphics Forum	Wiley
377	H28予定	冊子体	eng	Current Anthropology	The University of Chicago Press
378	H28予定	冊子体	eng	Current Archaeology	Current Publishing
379	H28予定	冊子体	eng	History of religions : an international journal for comparative historical studies	University of Chicago Press
380	H28予定	冊子体	eng	Journal of the Royal Anthropological Institute	Royal Anthropological Institute（Wiley-Blackwell）
381	H28予定	冊子体	eng, chi	LEAP	Leap magazine
382	H28予定	冊子体	spa, eng	OjodePez Magazine	OjodePez

公立大学法人秋田公立美術大学と株式会社秋田ケーブルテレビとの包括的連携に関する協定書

公立大学法人秋田公立美術大学（以下「甲」という。）と株式会社秋田ケーブルテレビ（以下「乙」という。）は、包括的な連携に関し次のとおり協定書を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、両者が保有する情報やノウハウ等を用いて連携し、双方の発展に寄与するとともに、広く地域の芸術文化の発展に貢献することを目的とする。

（連携事業の内容）

第２条　両者は前条の目的を達成するため、次に掲げる事業等について連携し、協力するものとする。

（１）　地域活性化に係る事業の推進および研究に関する事項

（２）　教育および芸術文化の発展に寄与する事項

（３）　人材の育成に関する事項

（４）　その他両者が必要と認める事項

（連携事業の実施）

第３条　前条に掲げる事業等の具体的な実施に関しては、この協定に基づき、双方で協議して行う。

（費用負担）

第４条　第２条に掲げる連携事業の実施に関し、甲乙それぞれに発生した費用については、原則としてそれぞれが自ら負担するものとする。

（秘密等の保持）

第５条　両者は連携により知り得た秘密および関係者の個人情報を、相手方の事前の承諾なく第三者に提供もしくは漏洩し、又は第１条に規定する目的以外に利用してはならない。

２　両者は、この協定の有効期限後又は第７条による解除により効力を失った後も、前項の規定による秘密保持等の義務を負う。

（協定の有効期限）

第６条　この協定の有効期限は、この協定の締結日から１年間とする。ただし、甲乙いずれかから期間の延長について異議の申出がない場合には、本協定は満了の日から１年間延長するものとし、それ以降も同様とする。

（協定の解除）

第７条　甲又は乙がこの協定を有効期間中に解除しようとする場合、解除しようとする日の１か月前までに相手方に対して書面により通知しなければならない。

２　両者は、前項の規定による解除に係るいかなる責任も負わない。

（その他）

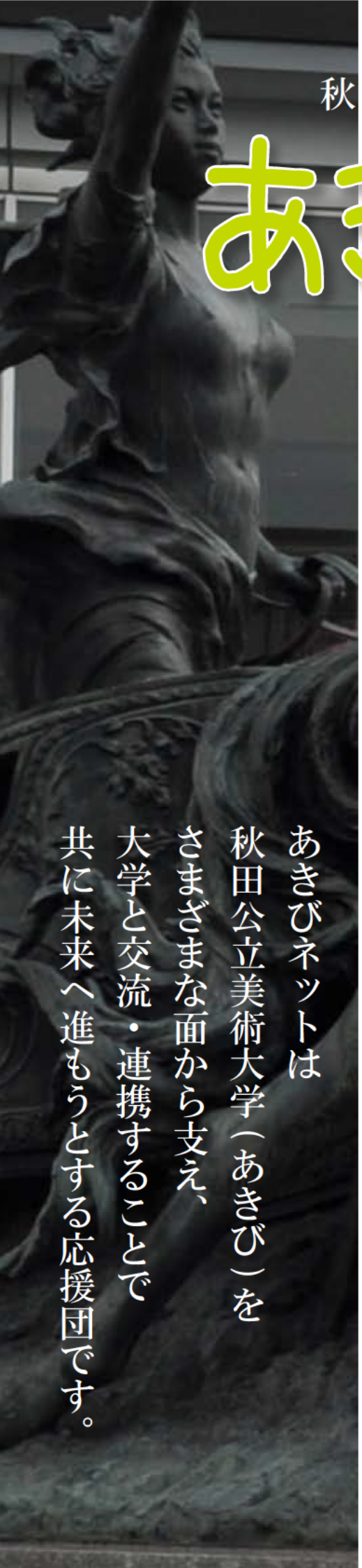
第８条　この協定に関して協議が必要な事項がある場合又はこの協定について疑義が生じた場合は、両者で協議する。

この協定の締結を証するため、この協定書を２通作成し、両者それぞれが記名押印の上、各自１通を保有する。

平成 26 年 6 月 10 日

甲　秋田県秋田市新屋大川町 12 番 3 号
公立大学法人秋田公立美術大学
理　事　長
樋田豊次郎

乙　秋田県秋田市八橋南一丁目１番３号
株式会社秋田ケーブルテレビ
代表取締役社長
松浦隆一



秋田公立美術大学公認応援団

あきびネット

あきびネットは
秋田公立美術大学（あきび）を
さまざまな面から支え、
大学と交流・連携することで
共に未来へ進もうとする応援団です。

設立趣意

平成25年4月、東北唯一の公立美術系4年制大学である秋田公立美術大学が秋田市に誕生しました。大学は、その4つの基本理念である「新しい芸術領域を創造し、挑戦する大学」「秋田の伝統・文化をいかし発展させる大学」「秋田から世界へ発信するグローバル人材を育成する大学」「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む大学」を実現すべく、歩み始めています。

今後、大学がしっかりと潮流を見極め、羅針盤が示す、崇高で光に満ちた方角へ進んでいくことができるよう、今ここに、大学の発展を願い、秋田の隆盛を願う私たちが結集し、物心両面からその道のりを支えていこうとするものです。

また、大学の援護のみにとどまらず、大学と私たちが相互に持つ「知」と「資源」を融合・昇華させることができれば、高い次元での相乗作用が期待できます。それは共同研究のかたちであったり、商品開発のかたちであったりしますが、そのかたちは未知数です。そしてその相乗作用は、大学はもちろん、大学を応援する私たち自身の成長にもつながり、ひいては秋田、日本、そして世界の成長に貢献できるものと確信しています。

以上の趣意のもと、秋田公立美術大学の支援組織を設置するものです。

あきびネット役員（役職ごとに五十音順）

会長	（株）イヤタカ 代表取締役社長	北嶋　正
理事	（一社）秋田県芸術文化協会 会長	青木　隆吉
理事	伊藤工業（株）代表取締役社長	伊藤　満
理事	（株）菓子舗榮太楼 代表取締役社長	小国　輝也
理事	新屋振興会 会長	小島　初男
理事	（株）境田商事 代表取締役	境田　幸子
理事	羽後設備（株）代表取締役社長	佐藤　裕之
理事	秋田印刷製本（株）代表取締役社長	大門　一平
理事	秋田商工会議所 会頭	三浦　廣巳
監事	タプロス（株）代表取締役社長	木村　繁
監事	（株）ワーズ 代表取締役	長谷部　光重

活動内容

産学連携の推進

大学が持つノウハウ、専門知識、人材を活用して行う共同研究や商品開発、イベントなどを会員が提案し、質の高い産学連携を実現します。

インターンシップの実施

インターンシップの受入れ事業所として協力します。

大学への講師派遣

大学が学生に対して行う進路ガイダンスなどで講話などを行います。

大学ＰＲ・作品展示スペースの提供

大学のＰＲや学生の作品展示用に、事業所の空きスペースなどを提供します。

奨学金制度等の創設

支援組織独自の奨学金・顕彰制度をつくります。

物資・教材の提供

大学祭などで物資を援助したり、サークル活動や授業に必要な教材などを提供したりします。

進路・就職等に関する情報交換会の開催

年１回程度、学生や大学の教職員との情報交換会を開催します。

入会特典

●質の高い産学連携の実現

共同研究、商品開発などにおいて、美大ならではの質の高い産学連携を優先的に実現できます。

●大学広報紙などの送付

大学広報紙、大学に関連する公開講座や各種展覧会・作品展のご案内をお届けします。

●ホームページのリンク貼り付け

あきびネットのホームページに会員の名称を掲載し、会員のホームページへリンクを貼り付けます。

●大学施設の優待利用

大学施設を優待料金で使用できます。

●図書館の利用

美術・デザインの専門書がそろう大学附属図書館を利用（貸し出しも）できます。

大学附属図書館

年会費

- 法人会員　10,000円（１口以上）
- 個人会員　3,000円（１口以上）

入会申込

下欄のフォームに必要事項を書いて、事務局（大学学生課内）へファクスしてください。事務局から年会費納入などのご案内をお送りします。

氏名または法人名		代表者名（法人の場合）	
勤務先または学校名（個人のかた）		年会費申込み口数	＿＿＿＿＿ 口
住所	〒	電話番号	
		ﾌｧｸｽ番号	
		Ｅメール	

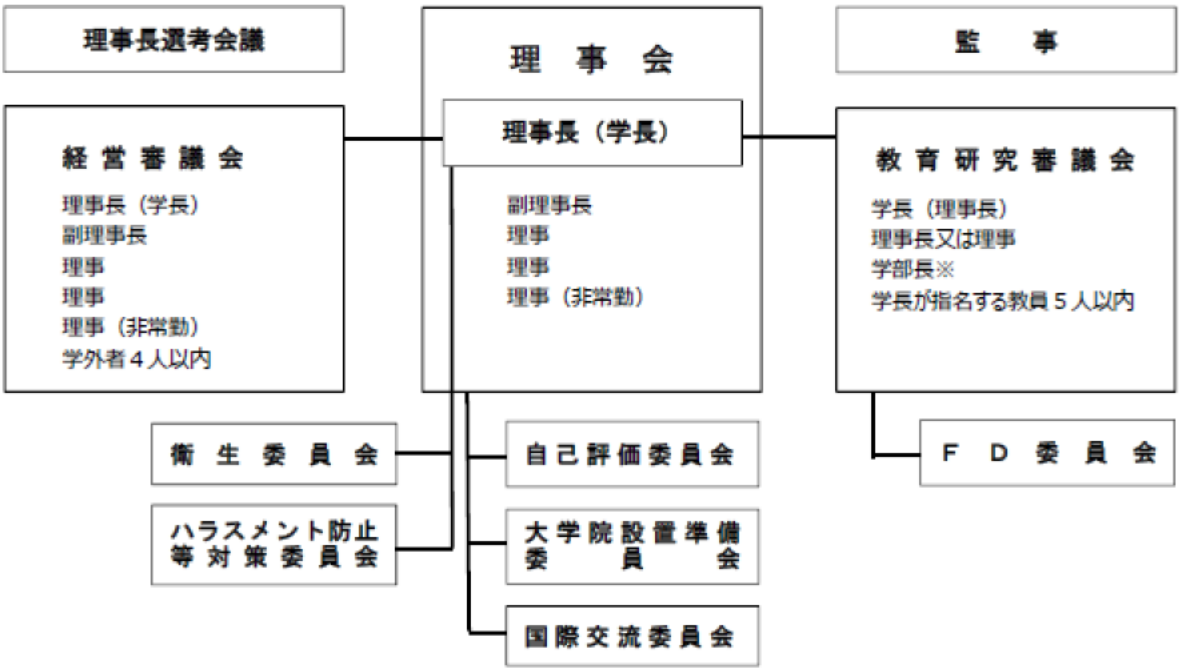
お申し込みは事務局ファクスへ。018-888-8101

●お問い合わせは事務局へどうぞ　〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3（秋田公立美術大学 学生課内）
TEL 018-888-8105　ﾌｧｸｽ 018-888-8101　Eﾒｰﾙ ro-mcmn@city.akita.akita.jp

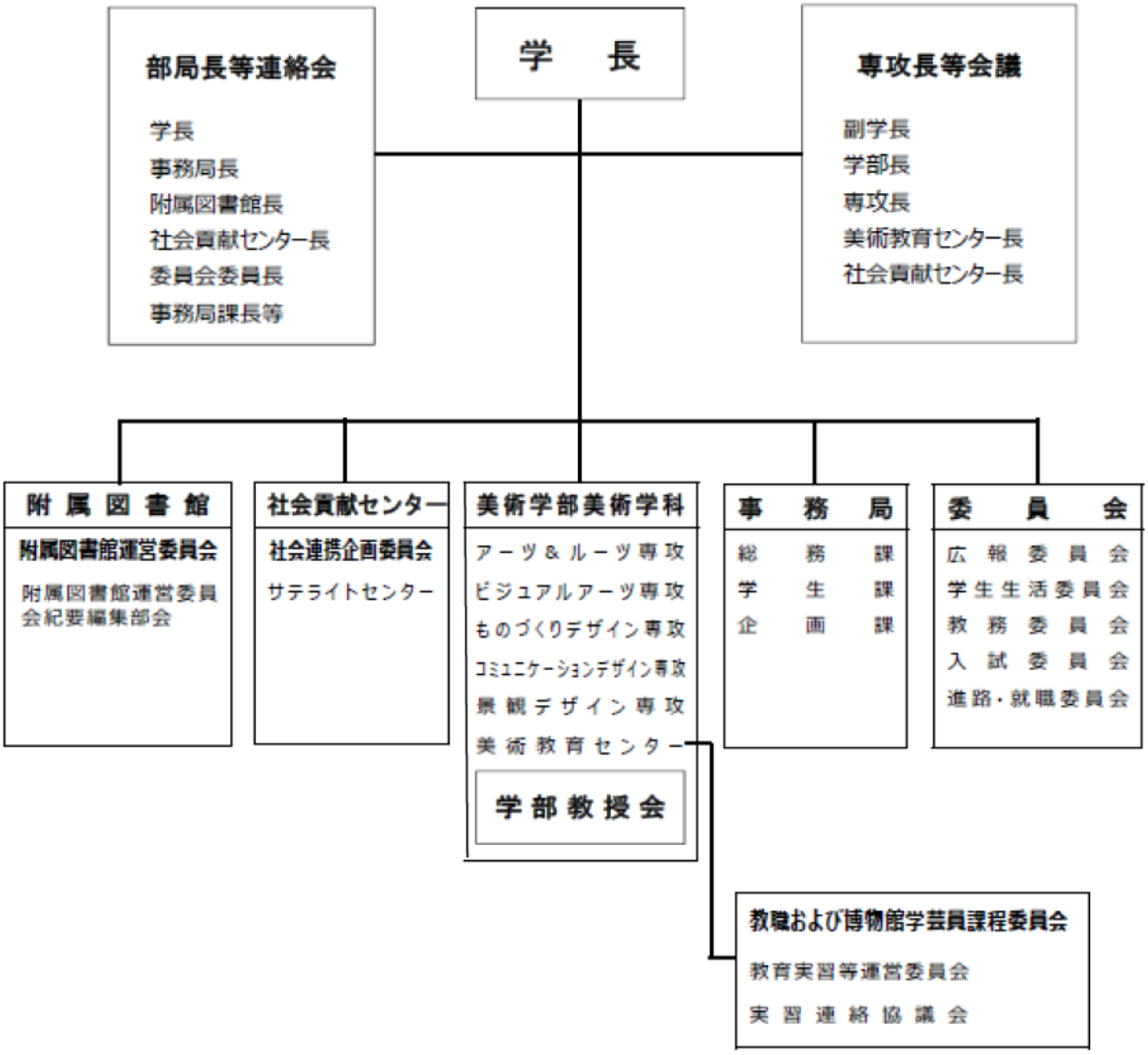
公立大学法人秋田公立美術大学組織図

資料 21

○法人組織



○大学組織



平成27年度のFD活動実績

資料22

1　FD研修会

日程	研修会	内容	主催
8月25日～26日	秋田大学全学FDワークショップ	・グループ学習 ・大学における教養教育 ・科目のテーマと目的の検討 ・科目の到達目標と評価視点の検討 ・学習活動、内容の検討 ・シラバスの作成	秋田大学
9月14日	FD講演会	講演「実現可能な授業外学習の促進」	秋田県立大学
10月24日	東北地域大学教育推進連絡会議	教養教育とアクティブ・ラーニング	岩手大学

2　学生による授業アンケート

日程	アンケート名	内容
2回（前期・後期）	前期・後期授業アンケート	「この授業をよく理解できたか」など5項目の内容の学生アンケートで、全科目で授業評価を行い、授業内容や指導方法の改善につなげた。

3　教員相互の授業参観

日程	時限	科目名	授業担当者	教室
12月　7日（月）	4	現代芸術演習A1	アーツ&ルーツ専攻教員	ももさだ展示室
1月14日（木）	1・2	ビジュアルアーツ演習Ⅱ	ビジュアルアーツ専攻教員	ビジュアルアーツ構想室
1月22日（金）	4・5	現代芸術演習D（イラストレーション）	小田教授	共通デザイン室
1月26日（火）	4・5	CD演習1F	水田准教授	CP室5
1月28日（木）	4・5	CD演習1D	孔准教授	共通デザイン室
1月29日（金）	2	文芸演習	大八木准教授	CALL室
2月　3日（水）	1.2	卒業制作	ものづくりデザイン専攻教員	漆実習室
2月　3日（水）	4・5	CD演習1E	べ准教授	CP室6
2月10日（水）	4	ビジュアルアーツ演習Ⅱ	ビジュアルアーツ専攻教員	県立美術館
2月10日（水）	3	教職実践演習	美術教育センター	アトリウム棟
2月12日（金）	4,5	現代芸術演習A2	景観ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻教員	景観デザイン演習室1
2月16日（火）	4・5	現代芸術演習B	ものづくりデザイン専攻教員	ももさだ多目的ホール
2月19日（金）	1.2.3.4	ものづくりデザイン演習2	ものづくりデザイン専攻教員	ももさだ展示室
2月29日（月）	4	アーツ&ルーツ演習2	アーツ&ルーツ専攻教員	各展示場所